

講義科目 : 英語 I	単位数 : 2
マーケット略 : [英語 I]	学習形態 : 選択必修科目
担当 : 野田 明	

講義のねらい

- ・ 英語の構造をよく理解し、英文を正確に読み取ることを目指す。

授業計画

- ・ 現代英語で書かれた論説やストーリーを題材として使用します。
- ・ 英語の文章を読むことに主眼を置き、同時に、高校までに学習した文法事項、構文などを確認します。
- ・ 「会話」の授業ではありません。
- ・ 授業は演習方式で行うので、決められた範囲については必ず予習をして授業に臨んでください。
- ・ 授業中に辞書を引くことがあるので、各自で用意してください。
- ・ 基本的な事項についても、必要に応じて、説明を加えながら進めていきます。また理解の確認のために授業中に小テストを行うことがあります。

前期

- 第1回：イントロダクション
- 第2回～第4回：Lesson 1～2、文法基礎
- 第5回～第8回：Lesson 3～4、文法・構文 I
- 第9回～第12回：Lesson 5～6、文法・構文 II
- 第13回～第14回：総合演習
- 第15回：まとめと確認（筆記試験）

後期

- 第1回～第4回：Lesson 7～8、重要語彙・表現 I
- 第5回～第8回：Lesson 9～10、重要語彙・表現 II
- 第9回～第12回：ハンドアウト、英文のスタイル
- 第13回～第14回：総合演習
- 第15回：まとめと確認（筆記試験）

教材・テキスト・参考文献等

別途掲示します（大学生協で購入のこと。）

成績評価方法

- ・ 予習と授業での発表及び小テストを平常点とし、それと前期・後期各最終回に行う筆記試験の成績を総合して評価します。
- ・ 授業に出席していても、勉強する姿勢がないと単位は与えられません。

その他

- ・ 授業中の雑談、携帯電話等通信機器の使用は厳禁とします。
- ・ 授業では、必要に応じて基礎的な文法事項も確認しながら進みますが、高校1年生程度の学習内容は必要になるので、その点留意して受講してください。

講義科目 : 英語 I	単位数 : 2
マークシート略 : [英語 I]	学習形態 : 選択必修科目
担当 : 武田 治美	

講義のねらい

グローバル化が進展する中で、国際社会で活躍するためには、英語での議論やプレゼンテーションが出来るような発信型英語力が必要です。自分の考えを積極的に相手に伝える発信型英語力を身につけることを目的としたテキストを使い、これまでに学んできた基礎的な英語の聴解力、読解力、文法力を効果的に応用発展させ、英語での総合的なコミュニケーション能力、すなわち、“使える英語”の習得を目標にしています。

授業計画

	前期		後期
第1回	授業の概要説明 受講に際しての注意事項説明	第16回	Unit 13 Part 1 Choosing Words Carefully Part 2 Enquiries
第2回	Unit 1 Part 1 Dynamic Japan, Quiet Britain Part 2 Our Company	第17回	Unit 14 Part 1 British Currency Part 2 Orders
第3回	Unit 2 Part 1 Sports-loving Mathematician Part 2 Our Boss	第18回	Unit 15 Part 1 Differences in a Business Letter Part 2 Complaints
第4回	Unit 3 Part 1 Our Old Wooden House Part 2 The Other Staff	第19回	Unit 16 Part 1 Business Going Well Part 2 Confirmation
第5回	Unit 4 Part 1 Feeling Bad Part 2 Quality Service	第20回	小テスト 関連教材をプリントで配布
第6回	小テスト 関連教材をプリントで配布	第21回	Unit 17 Part 1 Over My Head Part 2 Filling in Forms
第7回	Unit 5 Part 1 Long and Slow Words Part 2 The Neighbourhood	第22回	Unit 18 Part 1 Important Writing Skills Part 2 How to Communicate
第8回	Unit 6 Part 1 From Unisex to Feminine Part 2 An Interesting Future	第23回	Unit 19 Part 1 Reading between the Lines Part 2 Thanking
第9回	Unit 7 Part 1 Full of Mysteries Part 2 I got lost	第24回	Unit 20 Part 1 What does youth mean? Part 2 Apologising
第10回	Unit 8 Part 1 Turning into a Nightmare Part 2 An Accident	第25回	小テスト 関連教材をプリントで配布
第11回	小テスト 関連教材をプリントで配布	第26回	Unit 21 Part 1 A Dream into Nightmare Part 2 Advice
第12回	Unit 9 Part 1 A Panic Dream Part 2 A Weird Dream	第27回	Unit 22 Part 1 A Watch and a Place Part 2 Arranging a Meeting
第13回	Unit 10 Part 1 Going Back to the Old Regime Part 2 Yesterday's Meeting	第28回	Unit 23 Part 1 Language Variations Part 2 Postcards and Emails
第14回	Unit 11 Part 1 Low Quality Items Part 2 My Previous Company	第29回	Unit 24 Part 1 Skills for a Good Writer Part 2 How to Write
第15回	Unit 12 Part 1 Can't Sit Still Part 2 The Logo	第30回	総復習

教材・テキスト Simply Reading, Simply Writing 南雲堂

成績評価方法 ・ 毎回出席をとります。

・ 成績は試験（60%）、課題提出（20%）、出席（20%）で評価します。

授業では、全受講生に少なくとも一度は発言の機会を与え、必要に応じて、関連教材のプリントを配布し、常に受講生の理解度に合わせて授業を展開させていきます。

講義科目	: 英語 I	単位数	: 2
マークシート略	: [英語 I]	学習形態	: 選択必修科目
担当	: 大蔵 香代子		

講義のねらい

・本講義は英文の読解力を身につける。語彙・文法・構造の習得、定着、活用に焦点を当て、読み方のポイント・コツを会得し、リーディングスキル向上を目指す。エッセーの内容について自分の意見をまとめる。

授業計画

- ・およそ500語から成るさまざまなジャンルのエッセーを読む
- ・語彙・文法・構造の習得・定着を図る。
- ・スラッシュリーディング、パラグラフリーディング、各段落のトピックセンテンスおよびMain Idea (主要部) とDetails (詳細部) を含むリーディング手法習得の訓練をする。
- ・各Chapterの内容に関するテーマについてディスカッションをし、意見をまとめる。

前期

- 第1回 リーディング力診断：速読
- 第2回 リーディング力診断：スキミング
- 第3回 リーディング力診断：リーディングストラテジー
- 第4回 Main Idea (重要情報・概念)
- 第5回 Supporting Details (詳細情報)
- 第6回 Signal Words (アイディアの結びつき)
- 第7回 Reference (指示語)
- 第8回 パラグラフ構造1 (比較と対照)
- 第9回 パラグラフ構造2 (原因と結果)
- 第10回 パラグラフ構造3 (時間順序)
- 第11回 パラグラフ構造4 (空間順序)
- 第12回 Summarizing (要約) のストラテジー
- 第13回 視覚情報の効果的利用
- 第14回 事実と意見の区別
- 第15回 リーディング判断力を試す：Term-end Test

後期

- 第1回 表紙、タイトル、挿絵から内容予測
- 第2回 各パラグラフのトピックセンテンス
- 第3回 内容を予測しながら読む
- 第4回 知らない単語は前後の文脈から予測
- 第5回 読み飛ばす単語
- 第6回 Main Idea (主要部) を捉える
- 第7回 Details (詳細部) を捉える
- 第8回 Main Idea と Details を区別
- 第9回 目的や文章の種類により読む速さを変える
- 第10回 シグナルワードとパラグラフ構成
- 第11回 行間を読む
- 第12回 タイトルと内容の関係
- 第13回 事実と著者の意見を区別
- 第14回 まとめと質疑・応答
- 第15回 リーディング判断力を試す：Term-end Test

教材

テキスト：Andrew E. Bennett, Reading Fusion 1 (南雲堂)

成績評価方法

40% Presentation during the class (Reading, Translation, Exercises, Statement of opinion)

40% Term-end Tests,

10% Assignment, Check Tests

10% Attendance

その他

- ・Test, Assignment等の追再試はありません
- ・講義時間に相当する自宅・自己学習必須。辞書必携
- ・授業計画はクラスの進度によって変更することがあります

講義科目 : 英語 I	単位数 : 2
マークシート略 : [英語 I]	学習形態 : 選択必修科目
担当 : 村井 美代子	

講義のねらい

- ・国内外の英字新聞やインターネットに掲載された様々なニュース 15 項目を選びまとめたテキストを読む。各章 300 語程度の読み切り形式で、メディアで使われている英語に慣れ、情報の要点を即座に把握できる読解力・速読力を養っていく。
- ・各章にはリーディング課題だけでなく、写真を描写する英文の選択、要約文の穴埋め、短い英文内容の理解を問うリスニング問題も用意されている。これまでの英語学習の基礎の上に、実践的な読み取り、聞き取りの力を身につけてほしい。

授業計画

- ・ 1 つの章を 2 回の授業で読了する予定。ただし、受講生の学習の進捗度などによって、授業進行の速度は随時調整する。

第 1 回	オリエンテーション	第16回	第 7 章 (健康と生産性)
2 回	第 1 章 社会・観光	17回	第 8 章 社会
3 回	第 1 章 (手ぶら観光)	18回	第 8 章 (第二の人生)
4 回	第 2 章 健康	19回	第 9 章 健康
5 回	第 2 章 (果物アレルギー)	20回	第 9 章 (デジタルと健康)
6 回	第 3 章 社会	21回	第 10 章 情報・技術
7 回	第 3 章 (食品ロス)	22回	第 10 章 (サイバー攻撃)
8 回	第 4 章 芸術・技術	23回	第 11 章 国際・政治
9 回	第 4 章 (アニメ)	24回	第 11 章 (報道写真)
10回	第 5 章 科学技術	25回	第 12 章 労働
11回	第 5 章 (ロボコン)	26回	第 12 章 (ガラスの天井)
12回	第 6 章 科学技術	27回	第 13 章 医療
13回	第 6 章 (デジタル技術)	28回	第 13 章 (東西医学)
14回	第 7 章 経済	29回	第 14 章 社会・経済
15回	前期学習内容のまとめ	30回	後期学習内容のまとめ

教材・テキスト・参考文献等

『ソーシャル・キーワード—メディア英語で社会を読み解く』 (三修社)

成績評価方法

- ・ 毎回出席をとる。
- ・ 前期最終授業時と後期最終授業時に試験を行う。全授業回数の 3 分の 2 以上の出席がない場合、評価の対象外とする。
- ・ 成績は前後期試験を中心にして、出席状況や課題の提出状況、学習態度などから総合的に判断する。評価基準の目安は、試験：平常点 = 7 : 3

講義科目 : 独語 I	単位数 : 2
マーケット略 : [独語 I]	学習形態 : 選択必修科目
担当 : 竹添 敦子	

講義のねらい

- ・ ドイツ語はローマ字読みができれば発音できます。学び始めが楽なことばです。
- ・ 発音をきちんとできるようになること、ごく初歩のドイツ語を用いてコミュニケーションができることを目的とします。
- ・ 映像を見て、応用力を養うことを試みます。
- ・ 平易な初級文法の範囲内で会話練習と反復繰り返しに徹し、確実な基礎力をつけます。

授業計画

第 1回	ドイツ語圏の話・発音 (挨拶)	第16回	前期の復習・確認 (便利な表現)
第 2回	ドイツ語の綴り (発音)	第17回	ドイツの旅 (前置詞の格支配)
第 3回	自己紹介 (動詞の人称変化)	第18回	応用練習 (前置詞と定冠詞の融合形)
第 4回	応用練習 (動詞の位置・語順)	第19回	ドイツの旅2 (話法の助動詞)
第 5回	2種類の「あなた」 (使い分け)	第20回	応用練習 (枠構造・manの使い方)
第 6回	質問の練習 (職業・専攻など)	第21回	ドイツの旅3 (命令法・数字の応用)
第 7回	応用練習 (決定疑問文・定冠詞)	第22回	応用練習 (分離動詞)
第 8回	応用練習 (名詞の性と格)	第23回	ドイツの料理 (形容詞)
第 9回	買い物 (不定冠詞、複数形)	第24回	応用練習 (再帰動詞)
第10回	お出かけ (動詞の人称変化2)	第25回	応用練習 (補足事項)
第11回	応用練習 (3格の確認)	第26回	ドイツのクリスマス (祝祭表現)
第12回	注文 (動詞の人称変化3)	第27回	ドイツの昔ばなし (動詞の三基本形)
第13回	応用練習 (人称代名詞)	第28回	独語Ⅱへの橋渡し (過去形)
第14回	ドイツあれこれ (補足事項)	第29回	独語Ⅱへの橋渡し (現在完了形)
第15回	まとめと確認 (試験)	第30回	まとめと確認 (試験)

教材・テキスト・参考文献等

- ・ テキスト 秋田静男・他『ドイツ語インフォメーション neu²』 (朝日出版社)
- ・ 辞書 講義冒頭で説明します。ただし、新たに購入する場合は『新アクセス独和辞典』 (三修社) が手ごろです。電子辞書は初学者には不向きです。

成績評価方法

- ・ 参加型授業のため出席を重視します。年間10回以上欠席した場合、評価の対象外とします。
- ・ 前期、後期の試験 (50%)、小テスト等受講状況 (50%) を基準に判断します。

講義科目 : 独語 I	単位数 : 2
マークシート略 : [独語 I]	学習形態 : 選択必修科目
担当 : 今本 幸平	

講義のねらい

初歩的なドイツ語文法を勉強します。文法の知識だけでなく、ドイツ語の読み方を身につけるため、音読の練習も重視します。

授業計画

第1回	授業ガイダンス、アルファベット	第16回	前期の復習
2回	第1課 ドイツ語のつづりと発音	17回	第7課 前置詞
3回	第2課 文の作り方(動詞の形)	18回	第7課 練習問題
4回	第2課 重要な動詞、語順の原則	19回	第8課 分離動詞、文のつなぎ方
5回	第2課 練習問題	20回	第8課 練習問題
6回	第3課 文の作り方(名詞と冠詞)	21回	第9課 助動詞を使った文
7回	第3課 練習問題	22回	第9課 練習問題
8回	第4課 冠詞の仲間	23回	第10課 動詞の過去形と過去分詞
9回	第4課 練習問題	24回	第10課 練習問題
10回	第5課 人称代名詞、目的語の語順	25回	第11課 現在完了形、受動態
11回	第5課 練習問題	26回	第11課 練習問題
12回	第6課 不規則動詞	27回	第12課 形容詞、比較表現
13回	第6課 練習問題	28回	第12課 練習問題
14回	復習	29回	復習
15回	「前期まとめ」と確認テスト	30回	「後期まとめ」と確認テスト

* 上記は予定です。実際の進み具合は受講生の理解度に応じて調整します。

* 学期末の確認テスト(各学期の内容をすべて含むテスト)の他、授業中に10～15分程度の小テストを行う場合があります。

教材・テキスト・参考文献等

・教科書: 「プロムナード やさしいドイツ語文法 (PROMENADE Deutsch)」
(白水社)

・独和辞典

教科書と辞書は、両方とも必ず毎回持参してください。

辞書は初回の授業でいくつか紹介するので、その後で購入して下さい。

成績評価方法

- ・前期、後期とも、全15回の授業のうち10回以上の出席と、学期末の確認テストで60点以上取ることが単位取得の条件です。
- ・原則として前期・後期の確認テストの平均点に基づいて成績を出します。出席状況は上記範囲内であれば成績にプラスにもマイナスにも影響しません。
- ・各学期で欠席が5回を超えると、成績評価の対象外となります。(遅刻、早退は0.5回分とします。例えば欠席4回、遅刻3回は、5.5回欠席で不可です)

その他

- ・週一度の授業だけでは記憶が定着しにくいので、予習、復習をしましょう。
- ・知らない単語が出てきたら、自主的に辞書で調べる習慣をつけましょう。

講義科目 : 仏語 I	単位数 : 2
マークシート略 : [仏語 I]	学習形態 : 選択必修科目
担当 : 井出 勉	

講義のねらい

- ・ フランス語の綴り字と発音の関係を学び、きちんと発音できるようになることを目指します。
- ・ フランス語の基本的な文法と簡単な日常会話を覚える。
- ・ 実用フランス語技能検定試験（仏検）5級を習得できるレベルまでの到達も目指します。

授業計画

第1回	フランス紹介・発音	第16回	所有形容詞、疑問形容詞
第2回	綴り字の読み方・挨拶	第17回	人称代名詞の強勢形、指示形容詞
第3回	発音練習・挨拶	第18回	～がある、～がしたいのですが
第4回	挨拶・自己紹介の仕方	第19回	定冠詞の縮約、国名
第5回	名詞の性と数・不定冠詞	第20回	補語人称代名詞（直目・間目）
第6回	形容詞①	第21回	代名動詞
第7回	形容詞②・指示代名詞	第22回	中性代名詞
第8回	動詞の活用・定冠詞	第23回	天気の見方と答え方
第9回	疑問文の作り方	第24回	時刻の見方と答え方、命令形
第10回	動詞持つ	第25回	部分冠詞①
第11回	否定文	第26回	部分冠詞②、カフェでの注文
第12回	数字・年齢	第27回	比較級
第13回	動詞行く・近接未来	第28回	複合過去①：過去分詞の作り方
第14回	疑問代名詞・動詞する	第29回	複合過去②
第15回	まとめと確認：試験	第30回	まとめと確認：試験

教材・テキスト・参考文献等

テキスト：藤田裕二『パリ-ボルドー』朝日出版社

辞書：講義冒頭で紹介

参考文献については講義中に紹介

成績評価方法

平常点（積極的な学習態度を評価する）30%、期末試験70%
年間10回以上欠席した場合、評価の対象外とします。

その他

講義科目 : 中国語 I	単位数 : 2
マークシート略 : [中国語 I]	学習形態 : 選択必修科目
担当 : 花尻 奈緒子	

講義のねらい

正しい中国語の発音方法を習得するほか、基礎的な文法・単語を学び、簡単な文を作文し、かつ正しい字で表記できるようになる。また、単純な文を聞いて意味を理解できるようになる。

授業計画

第1回	ガイダンス	第16回	第九課 モノを数える単位
2回	第一課 基礎発音1	17回	第九課 「～は…にある」
3回	第一課 基礎発音2	18回	第十課 前置詞
4回	第二課 基礎発音3	19回	第十課 経験を表す文
5回	第二課 基礎発音4	20回	第十一課 助動詞・仮定文
6回	第三課 「～は…です」	21回	第十二課 持続を表す文
7回	第四課 形容詞の文	22回	第十二課 進行を表す文
8回	第五課 動詞の文	23回	第十三課 「～より…だ」
9回	第五課 数の数え方	24回	第十三課 程度を表す補語
10回	第六課 「～それとも…？」	25回	第十四課 動作量を表す補語
11回	第六課 完了形	26回	第十四課 離合動詞
12回	第七課 金額の言い方	27回	第十五課 結果を表す補語
13回	第七課 二重目的語の動詞	28回	第十五課 可能を表す補語1
14回	第八課 年月日・時刻	29回	第十六課 方向を表す補語
15回	第八課 名詞述語文	30回	第十六課 可能を表す補語2

教材・テキスト・参考文献等

「パイロットテキストー中国語 I 基礎ー」

成績評価方法

出席および前・後期の期末試験

その他

予習復習を欠かさずに行うこと。

講義科目 :生活科学概論	単位数 :2
マーケット略 :〔生活科学〕	学習形態 :必修科目
担当 :生活科学科教員	学科共通

講義のねらい

生活科学とは、家政学から出発して生活全体を科学的に研究する学問であり、その対象は幅広い学問領域にわたるものですが、ヒトが社会のなかで生きていくうちに出会うさまざまな課題に対して、生活者の立場から総合的にとらえることを基盤としています。この科目が、担当教員がそれぞれの専門分野について、生活科学の観点から概論講義を行うことによって、本学科のめざす生活科学を理解することを目的にしています。

授業計画

1. 学科長・笠：オリエンテーションと図書館・情報処理実習室の利用説明 1
2. 学科長・笠：図書館・情報処理実習室の利用説明 2

(第一部：‘いのち’と‘くらし’を科学する)

3. 南：‘生活の科学’とは何か
4. 東福寺：男女共同参画への誘い～これからの生き方を考える～
5. 武田：社会福祉の援助…相談の専門家とは？
6. 北村：障害をもって生活するとは
7. 木下：居心地の良い生活空間
8. 小野寺：住民参加とコミュニティ

(第二部：‘食’と‘健康’を科学する)

9. 相川：学生の運動栄養学～脳、骨、筋、脂肪、欲～
10. 山田：糖尿病と栄養と食事と運動について
11. 飯田：食卓のたんぱく質科学
12. 駒田：健康寿命と食生活
13. 阿部：ビタミンに関する栄養学
14. 杉野：ライフステージにおける食と健康
15. 橋本：(テーマは追って掲示する)

教材・テキスト・参考文献等

中根芳一著「私たちの生活科学」(理工学社)などがあるほか、担当教員からそれぞれ参考文献が紹介される。

成績評価方法

6回以上欠席すると、成績評価対象の資格がなくなる。

教員によってレポートや小テストなどが課される。それぞれの教員からの評価を総合して判定する。

講義科目 : 体育講義	単位数 : 2
マークシート略 : [体育講義]	学習形態 : 選択科目
担当 : 大西 範和	

講義のねらい

健康が人生をよりよく生きるための基盤であることは誰もが知っており、人々の健康志向が高まっています。一方、健康や運動に関する情報は溢れていて、適切に選び、役立てることは難しくなっています。本科目では、特に運動についての生理学的な知識や考え方を学び、適切な情報をもとに健康づくりについて考え、実践するための基本的な力を育てます。授業ではグループで課題解決を目指すTBL (Team based learning)をとり入れ、その達成度テストで成績を評価します。到達目標は以下の3点とします。

1. 健康づくりや運動に関する生理学的な用語や記述を理解できる。
2. 健康づくりや運動に関する生理学的な考え方の概要を説明できる。
3. グループワークにおいて他者の発言を尊重しつつ主体的に発言し、課題解決のために協調することができる。

授業計画

第1回	オリエンテーション、体力と健康の関係、健康づくりの施策
2回	筋肉の構造と収縮の仕組み
3回	筋力を左右する要因と筋力トレーニング
4回	筋肉収縮のためのエネルギー
5回	運動と呼吸、換気の仕組みと呼吸の調節
6回	個人・グループ達成度テスト (第1回～第5回を範囲)
7回	運動と循環、心臓や血管の構造と機能
8回	運動と循環、心臓や血管の調節機構
9回	運動と水分の調節、腎臓による水分調節と飲水
10回	熱中症と体温調節
11回	個人・グループ達成度テスト (第7回～第10回を範囲)
12回	運動と栄養、糖質の消化吸収とその働き
13回	運動と栄養、タンパク質の消化吸収とその働き
14回	サルコペニアと運動、栄養
15回	個人・グループ達成度テスト (第12回～第14回を範囲)

教材・テキスト・参考文献等

朝山正己・彼末一之・三木健寿編著 「イラスト運動生理学」東京教学社

成績評価方法

3回の達成度テストの平均点で成績を評価する(100%)。各達成度テストは、3～5回の授業内容及び自己学習成果を評価する個人達成度テストと、同じ内容をグループで討議して解答するグループ達成度テストを行い、その得点の和をもとに各回の達成度テストの点数を算出する。

その他

意見交換が学ぶための重要な鍵です。自信がなくても積極的に話してください。聞く側は、正誤の判断に拘わらず話し手の話す努力を讃えましょう。

講義科目 : 体育実技	単位数 : 1
マークシート略 : [体育実技]	学習形態 : 選択科目
担当 : 高木 祐介	

講義のねらい

この授業では、誰でも気軽にできるスポーツを仲間と楽しむこと、マナーやルールを守り社会性を養うこと、運動が健康に及ぼす効果について学ぶことを目的とします。運動を継続することによって体力や精神力の維持・増進、肥満予防、社会性の向上等の効果が期待されます。しかしながら、継続することは簡単なことではありません。週に1回の体育実技を通して、運動を習慣的に行うことの意義を理解し、卒業後も続けていける考え方を培います。

授業計画

- 第1回 オリエンテーション（運動と体力・体重・疾病予防に関する話）
- 第2回 散歩（歩数と健康について）
- 第3回 ウォーキングによるエネルギー消費
- 第4回 体力テスト①
- 第5回 集団スポーツ①
- 第6回 集団スポーツ②
- 第7回 集団スポーツ③
- 第8回 体力テスト②
- 第9回 球技①（卓球、バドミントン、バスケットボール等）
- 第10回 球技②（卓球、バドミントン、バスケットボール等）
- 第11回 球技③（卓球、バドミントン、バスケットボール等）
- 第12回 球技④（卓球、バドミントン、バスケットボール等）
- 第13回 球技⑤（卓球、バドミントン、バスケットボール等）
- 第14回 体力テスト③
- 第15回 全体のまとめ

教材・テキスト・参考文献等

指定教科書はなし。講義内容に応じて資料を配付します。

成績評価方法

- ①授業態度（意欲・関心・理解・協調性等）70%、コミュニケーション30%。
- ②5回以上の欠席は、評価の対象外とします。

その他

欠席をすることは、この授業の目標から離れてしまうこととなります。そのため、欠席はしないようにしてください。また、スポーツを楽しむためには仲間との協調が大切です。運動の技能が低くても、協調性があり、明るさがあれば、運動は楽しいものです。一方、運動の技能が高くても、協調性がない場合や状況を考えないプレイは、全体の雰囲気をつぶします。この授業では、そういった運動による社会性の向上を特に重要視しています。

講義科目 : 生命科学	単位数 : 2
マークシート略 : [生命科学]	学習形態 : 選択科目
担当 : 狩野 幹人	

講義のねらい

生命科学 (Life Science) は、21世紀の科学技術を担う重点分野の1つである。2003年、ヒトの遺伝子の解読が終了したが、「いのち」の仕組みの全てが解明されたわけではない。また、環境問題、生物の多様性等を考えるうえでも、生物学の知識が必要となる。本講義では、生物の基本構造である「細胞」に焦点をあてる。そして、タンパク質を中心に、細胞から多細胞生物個体への展開、細胞間の情報交換についても解説を加え、生物学の基本的な枠組みを理解することを目的とする。

授業計画

第1部

1. 細胞の構造
2. 細胞の形質、機能
3. 細胞の活動
4. タンパク質の役割

第2部

1. 多細胞生物への展開 (1)
2. 多細胞生物への展開 (2)
3. 多細胞生物への展開 (3)

第3部

1. 免疫システム
2. 細胞の再生と死
3. 環境の認識、調節
4. 生物の進化と多様性

第4部

1. 生物多様性条約とは
2. 生命科学と知的財産 (1)
3. 生命科学と知的財産 (2)

教材・テキスト・参考文献等

- ①「基礎から学ぶ生物学・細胞生物学 (第3版)、和田 勝、羊土社 (2015)」を教科書として用いる。また必要な補足資料を、講義の中で随時配布する。
- ②参考文献としては、
 - 生命科学については「分子生物学講義中継、井出 利憲、羊土社」シリーズ等が挙げられる。
 - その他、知的財産については「産業財産権標準テキストー総合編一、特許庁発行」や「産業財産権標準テキストー特許編一、特許庁発行」等が挙げられる。
 - その他、参考文献については、講義の中で随時紹介する。

成績評価方法

- ①毎回出席をとる。出席率70%以上を評価の対象とする。
- ②出席率およびレポート (2回を予定) により評価する。

その他

単なる内容の暗記ではなく、科学的に理解・考えてもらえるよう工夫したい。

講義科目	: 自然と科学	単位数	: 2
マークシート略	: [自然科学]	学習形態	: 選択科目
担当	: 松井 博和		

講義のねらい

身近な生活の中で体験したり，利用したりする自然現象や科学技術を理解してもらおう．その中で，いわゆる理系の人でも知らないようなことも織り交ぜ簡単な説明や実験器具をみてもらい理解してもらおう．講義の進め方は，授業内に計算問題を主とするレポートを毎回実施し，主体的に問題理解に取り組めるようにする．また，ニュースなどで科学に関して取り上げられれば，適宜授業に取り込む．

授業計画

第1回	長さ，速さ，時間などの単位について
2回	天体について（地球と月と太陽）
3回	天体について（恒星と惑星）
4回	機械機構について
5回	電気について（電流・電圧）
6回	電気について（電力量と生活）
7回	音について（周波数・音量・デシベル）
8回	音について（音声）
9回	光と色について（物理的説明）
10回	光と色について（光・色の科学的利用）
11回	生命と遺伝について
12回	人工知能について
13回	研究紹介
14回	天体について（宇宙と科学）
15回	自然と科学について

教材・テキスト・参考文献等

教材・テキスト等は特になく，適宜授業中にプリントを配布する．

成績評価方法

毎回の授業中レポートを書いてもらい 50 点満点の出席点とする（ただし，レポートを 7 回以上提出しない場合は成績を不可とする）．

期末試験を 50 点満点とする．

その他

講義科目 : 情報と科学	単位数 : 2
マークシート略 : [情報科学]	学習形態 : 選択科目
担当 : 笠 浩一朗	教職選択科目(65期)

講義のねらい

情報科学から生み出された技術により、人間の生活は大きく変化している。特に、コンピュータの出現は、人間の暮らしを劇変させた。コンピュータの歴史や仕組みを学び、日常的に利用している情報技術の中身を理解することで、情報技術を高度かつ的確に利用できるよう指導する。

ITパスポート試験、及び、基本情報技術者試験対策となるように配慮する。

授業計画

第1回	コンピュータの歴史
2回	コンピュータの構成
3回	情報の表現1 (2進数)
4回	情報の表現2 (16進数、文字コード)
5回	論理回路
6回	ネットワーク1 (LANとWAN、無線LAN)
7回	ネットワーク2 (ネットワーク機器、TCP/IP)
8回	ネットワーク3 (WWW、電子メール)
9回	データベース
10回	アルゴリズムとデータ構造1
11回	アルゴリズムとデータ構造2
12回	プログラミング演習1 (変数、データ型)
13回	プログラミング演習2 (if文、for文、while文)
14回	プログラミング演習3 (応用)
15回	期末試験、まとめ

教材・テキスト・参考文献等

- ・教科書は使用しない予定
- ・適宜プリント等を配布

成績評価方法

- ・期末試験を実施する。50%程度成績に反映させる。
- ・小テストを毎回実施する。40%程度成績に反映させる。
- ・出席を取り、10%程度成績に反映させる。
- ・5回以上欠席した場合は、単位認定しない。

その他

小テストを毎回実施するので、小テストを通して講義時間外でも復習するように。

講義科目	:情報と社会	単位数	:2
マークシート略	:[情報社会]	学習形態	:選択科目
担当	:笠 浩一朗		教職選択科目(65期)

講義のねらい

本講義は、三つの内容で構成されている。

一つ目は、情報倫理・リテラシに関することである。近年、ITの発達により、社会の生活様式は大きく変化し、誰もが簡単に情報を取得・発信できる世の中になっている。その一方で、個人情報の流出、ネット上での誹謗中傷・不法行為などの新たな問題が発生している。このような社会で、他人の権利を侵すことなく、互いが快適に過ごす方法を解説する。

二つ目は、言語処理技術に関することである。現在、インターネット上を中心に、多くの言語データが蓄積されており、それらのデータに対して、言語処理技術を活用することで、多くのサービスが提供され、人々に利用されている。講義では、言語処理技術を用いたシステムの仕組みを紹介する。

三つ目は、情報処理システムに関することである。情報処理システムの開発・管理の仕組みを紹介する。

授業計画

第1回	インターネット概論
2回	ネットワーク利用におけるマナー
3回	個人情報とプライバシー
4回	電子商取引
5回	知的財産権・メディアリテラシ
6回	ネットワーク不法行為
7回	情報技術とセキュリティ
8回	情報倫理とリテラシ
9回	言語処理技術（文字コード、形態素解析）
10回	言語処理技術（構文解析、意味解析）
11回	言語処理技術を用いたシステム（機械翻訳）
12回	言語処理技術を用いたシステム（対話システム、情報検索）
13回	システム開発とマネジメント
14回	システム構成と故障対策
15回	まとめ

教材・テキスト・参考文献等

・教科書：大島他「ケースで考える情報社会」【第2版】 三和書籍

成績評価方法

出席をとる。結果を10%程度成績評価に反映させる。ただし、出席率が著しく悪い場合（1/3程度以下）は評価対象外とし、単位を認定しない。

毎回、課題を課す予定。その結果を90%程度成績評価に反映させる。

講義科目 : 情報処理実習 I	単位数 : 1
マークシート略 : [情報実 I]	学習形態 : 選択科目
担当 : 森田 賢太	

講義のねらい

現在、職場などでコンピュータを利用した書類作成が頻繁に行われている。この実習では、書類作成に頻繁に用いられるMicrosoft社の基本ソフト(Windows)およびオフィスソフト(Word, Excel)を対象として各種課題をこなすことで、コンピュータの基本操作を習得することをめざす。

授業計画

- 第1回 導入, コンピュータリテラシー
- 第2回 コンピュータの基本操作
- 第3回 Wordの基礎(1)
- 第4回 Wordの基礎(2)
- 第5回 Wordの基礎(3)
- 第6回 Wordの基礎(4)
- 第7回 演習 Wordのまとめ
- 第8回 Excelの基礎(1)
- 第9回 Excelの基礎(2)
- 第10回 Excelの基礎(3)
- 第11回 Excelの基礎(4)
- 第12回 演習 Excelのまとめ
- 第13回 資料を作る際の心構え(1)
- 第14回 資料を作る際の心構え(2)
- 第15回 総合演習

教材・テキスト・参考文献等

『実践ドリルで学ぶOffice活用術 2016対応』noa出版, 2016
ISBN978-4-908434-17-4

成績評価方法

成績は、課題・演習(Wordのまとめ・Excelのまとめ・総合演習)の結果を総合して判定する。なお、課題・演習を期日までに提出しなかった回が、3回以上となった場合は成績評価の対象としない。配点の比率は、課題あわせて40点程度、演習はそれぞれ20点程度である。

その他

コンピュータの操作は、本を読んだだけでは修得できない。そのため、この授業では、実習に参加し課題をこなすことに評価の主眼がある。受講する場合は、この点に留意すること。

講義科目 : 情報処理実習 I	単位数 : 1
マークシート略 : [情報実 I]	学習形態 : 選択科目
担当 : 真田 耕輔	

講義のねらい

現在、コンピュータの操作は必須技術であり、職場等ではコンピュータを利用した書類や資料作成が頻繁に行われている。この実習では、書類作成に頻繁に用いられるMicrosoft社の基本ソフト(Windows)およびオフィスソフト(Word, Excel)を対象として各種課題をこなすことで、コンピュータの基本操作を習得することをめざす。

授業計画

第1回	導入, コンピュータリテラシー
2回	コンピュータの基本操作
3回	Wordの基礎(1)
4回	Wordの基礎(2)
5回	Wordの基礎(3)
6回	Wordの基礎(4)
7回	演習 Wordのまとめ
8回	Excelの基礎(1)
9回	Excelの基礎(2)
10回	Excelの基礎(3)
11回	Excelの基礎(4)
12回	演習 Excelのまとめ
13回	資料を作る際の心構え(1)
14回	資料を作る際の心構え(2)
15回	総合演習

教材・テキスト・参考文献等

『実践ドリルで学ぶOffice活用術 2016対応』noa出版, 2016
ISBN978-4-908434-17-4

成績評価方法

成績は、課題・演習(Wordのまとめ・Excelのまとめ・総合演習)の結果を総合して判定する。なお、課題・演習を期日までに提出しなかった回が、3回以上となった場合は成績評価の対象としない。配点の比率は、課題あわせて40点程度、演習はそれぞれ20点程度である。

その他

コンピュータの操作は、本読んだだけでは取得できず、実際に自分で手を動かして慣れることが大事である。そのため、実習に参加し課題をこなすことに評価の主眼がある。受講する場合はこの点に留意すること。

講義科目	: 情報処理実習 I	単位数	: 1
マーケット略	: [情報実 I]	学習形態	: 選択科目
担当	: 高瀬 治彦		

講義のねらい

現在，職場などでコンピュータを利用した書類作成が頻繁に行われている。この実習では，書類作成に頻繁に用いられるMicrosoft社の基本ソフト(Windows)およびオフィスソフト(Word, Excel)を対象として各種課題をこなすことで，コンピュータの基本操作を習得することをめざす。

授業計画

- 第1回 導入，コンピュータリテラシー
- 第2回 コンピュータの基本操作
- 第3回 Wordの基礎(1)
- 第4回 Wordの基礎(2)
- 第5回 Wordの基礎(3)
- 第6回 Wordの基礎(4)
- 第7回 演習 Wordのまとめ
- 第8回 Excelの基礎(1)
- 第9回 Excelの基礎(2)
- 第10回 Excelの基礎(3)
- 第11回 Excelの基礎(4)
- 第12回 演習 Excelのまとめ
- 第13回 資料を作る際の心構え(1)
- 第14回 資料を作る際の心構え(2)
- 第15回 総合演習

教材・テキスト・参考文献等

『実践ドリルで学ぶOffice活用術 2016対応』noa出版，2016
ISBN978-4-908434-17-4

成績評価方法

成績は，課題・演習(Wordのまとめ・Excelのまとめ・総合演習)の結果を総合して判定する。なお，課題・演習を期日までに提出しなかった回が，3回以上となった場合は成績評価の対象としない。配点の比率は，課題あわせて40点程度，演習はそれぞれ20点程度である。

その他

コンピュータの操作は，本を読んだだけでは修得できない。そのため，この授業では，実習に参加し課題をこなすことに評価の主眼がある。受講する場合は，この点に留意すること。

講義科目 : 情報処理実習 I	単位数 : 1
マークシート略 : [情報実 I]	学習形態 : 選択科目
担当 : 笠 浩一朗	教職選択科目(65期)

講義のねらい

現在、あらゆる場面でコンピュータの利用が欠かせなくなっている。そのコンピュータについての基礎知識を習得できるよう指導する。

特に、実際のアプリケーションソフト（Word, Excel, PowerPoint）を利用した課題に取り組むことで、パソコンの使用方法の基礎を習得できるよう指導する。

授業計画

- 第1回 実習室の利用方法とコンピュータの基本操作
- 第2回 Word の基礎 1（各部の名称）とタイピング練習
- 第3回 Word の基礎 2（ページ設定、文書入力、スタイル、脚注）
- 第4回 Word の基礎 3（表の作成、SmartArtグラフィック）
- 第5回 Word の基礎 4（図の作成、ヘッダーとフッター）
- 第6回 Word の基礎 5（段組み、数式）
- 第7回 Excel の基礎 1（入力方法、オートフィル、書式設定）
- 第8回 Excel の基礎 2（絶対参照、関数、グラフ）
- 第9回 Excel の基礎 3（表計算の応用）
- 第10回 PowerPointの基礎
- 第11回 最終課題作成 1
- 第12回 最終課題作成 2
- 第13回 最終課題作成 3
- 第14回 最終課題発表
- 第15回 まとめ

教材・テキスト・参考文献等

『MS OFFICE 2013を使った情報リテラシーの基礎』近代科学社、切田節子、三浦信宏、小林としえ、乙名健 共著、2014

成績評価方法

出席を毎回取り、成績評価に加味する。各課題の配点と出席点は下記のとおりである。

- Word課題：15点程度
- Excel課題：20点程度
- PowerPoint課題：10点程度
- 最終課題：40点程度
- 出席：15点程度

その他

- ・実習の講義は欠席するとついていけなくなります。欠席しないように。
- ・パソコンに不慣れな人は、講義の予習と復習を積極的にするように。
- ・パソコンに習熟した人は、追加の課題に取り組んだり、周りの人に教えたりすることで、さらに理解を深めるように。

講義科目 : 情報処理実習Ⅱ	単位数 : 1
マークシート略 : [情報実Ⅱ]	学習形態 : 選択科目
担当 : 田中 通	

講義のねらい

- ITが社会基盤のインフラとして定着し、現在ではその上でのスキルだけでなく、コミュニケーションがより重視されてきている。そのような社会環境の中で、その双方の理解の助けとなる講義を目指す。
- コミュニケーションツールとして**blog**を用い、自らの行動によって変化する状況を、様々な角度から分析する。

授業計画

- 第1回 ガイダンス, **blog**作成
- 第2回 **blog**のカスタマイズ, 画像入り記事の投稿, 授業用記事へトラックバック送信, **Evernote**を用いたリポートの共有
- 第3回 **Excel**へのアクセスデータ入力, **CMS**とは
- 第4回 **blog**を通じた相互交流
- 第5回 **HTML** (1)
- 第6回 **HTML** (2): コンピュータで扱う色について, ショートカット演習
- 第7回 **HTML** (3): 文字装飾, 画像表現, ハイパーテキスト
- 第8回 **HTML** (4): 内部リンク, 外部リンク
- 第9回 **HTML** (5): 相互リンク
- 第10回 **Excel** (1): 基礎, 連続データ入力, 計算, グラフ作成
- 第11回 **Excel** (2): 中級, 並び替え, フィルタ
- 第12回 **Excel** (3): データ合成, クロス集計
- 第13回 最終課題作成作業 (1): 各自でデータ解析
- 第14回 最終課題作成作業 (2)
Word: **Excel**との連携, 箇条書き, 表紙, 段組み等
- 第15回 最終課題作成作業 (3): 仕上げ作業, 査読

教材・テキスト・参考文献等

- 講義出席者に限りプリントを配布
- スクリーン出力

成績評価方法

- 出席状況と課題提出状況・内容から総合的に評価する。
- 最終課題は論文形式文書作成。E-Mailで提出。

その他

- 出欠確認と同時に状況報告の機会があるので、極力欠席しないこと。
- この授業は連続性のある実習です。欠席した場合は次回の実習までに欠席した実習の内容を自分で進めておいてください。能力が追い付いていなければ報告書もE-Mailで前日までに送っておくこと。

講義科目 : 心理学	単位数 : 2
マークシート略 : [心理学]	学習形態 : 選択科目
担当 : 中西 良文	

講義のねらい

日々の生活の中で、人は何らかの形で「こころ」を働かせている。そのため、「こころ」の働きについて理解することが、より良い生活に役に立つ場合もある。本講義では「こころ」の働きに関する様々なトピックを紹介し、「こころ」の働きを統合的に理解することを目指す。

授業計画

- 第1回 心理学とはどのような学問か
- 第2回 短期記憶の働き
- 第3回 長期記憶の働き(1)
- 第4回 長期記憶の働き(2)
- 第5回 短期記憶と長期記憶の連携
- 第6回 熟達するとはどういうことか
- 第7回 人は社会的な情報をどのように捉えるのか
- 第8回 印象形成
- 第9回 対人魅力(1)
- 第10回 対人魅力(2)
- 第11回 集団における人の行動(1)
- 第12回 集団における人の行動(2)
- 第13回 動機づけ(1)
- 第14回 動機づけ(2)
- 第15回 動機づけ(3)

教材・テキスト・参考文献等

授業内で参考資料を紹介する

成績評価方法

授業での活動への関与（私語なども評価の参考とする）や授業中に出される課題、試験の成績を総合的に判断して評価する。実施される試験は持ち込み不可で「理解を問う」問題が出される

その他

講義科目 : 環境論	単位数 : 2
マークシート略 : [環境論]	学習形態 : 選択科目
担当 : 南 有哲	

講義のねらい

環境問題は今日、人類が直面する最重要課題のひとつであるとみなされるに至っている。本講義の目的は、生物多様性、地球温暖化、核エネルギーという3つの大きなテーマについて概観することである。

授業計画

- 第1回 はじめに
- 第2回 地球温暖化のメカニズム
- 第3回 地球温暖化がもたらすもの
- 第4回 懐疑論について
- 第5回 地球温暖化にどう対応すべきなのか
- 第6回 核分裂と核融合
- 第7回 核分裂発電の仕組み
- 第8回 核エネルギー生産の利点と難点①
- 第9回 核エネルギー生産の利点と難点②
- 第10回 日本はなぜ「原発列島」と化したのか
- 第11回 生物多様性とは何か
- 第12回 生物多様性はなぜ大事なのか
- 第13回 生物多様性破壊の現状と背景①
- 第14回 生物多様性破壊の現状と背景②
- 第15回 まとめ

教材・テキスト・参考文献等

講義中に適宜指示する。

成績評価方法

毎回小レポートを課し、それをもとに評価を行う。

その他

講義科目	:教育の基礎理論	単位数	:2
マークシート略	:〔教育基礎〕	学習形態	:選択科目
担当	:山田 全紀・藤枝 律子		

講義のねらい

教育の基礎理論は、教育が成り立つための土台、すなわち教育の本質（何か？）と根拠（何故か？）について広く学び、現代教育を支えている理論を検証することをねらいとする。言い換えれば、現在行われている教育に対して、例えば、学校や教師について、「何故学校へ行くのか？」「教師とは何か？」というような最も基礎的な問いを立てることが肝要であり、これはわれわれの常識を問い直すことでもある。

授業計画

第1回	シラバス概観
2回	学校とは何か？教師とは何か？という基礎的な問い
3回	ギリシア哲学の学校とキリスト教の学校
4回	ソクラテスの教師とスコラの教師
5回	近代教育から現代教育への展開
6回	J. J. ルソーの教育観－消極教育と積極教育－
7回	I. カントの人間学と教育観
8回	近代教育批判と現代的人間観
9回	西洋と東洋の人間観・世界観－宗教と教育の関係－
10回	現代教育における個人の問題
11回	実存思想とO. F. ボルノーの教育観
12回	人間教育と日本人教育の間
13回	教育基本法改正と新しい学習指導要領
14回	現代日本の教育改革と求められる日本国民像
15回	まとめ－自己への問い－

教材・テキスト・参考文献等

講義中に資料を配布する。

成績評価方法

レポートおよび平常点による

その他

講義科目 : 発達と学習	単位数 : 2
マークシート略 : [発達学習]	学習形態 : 選択科目
担当 : 東福寺 一郎	

講義のねらい

- ①生涯発達の観点から誕生から死に至るまでの発達的变化について、ビデオを多用しながら解説します。
- ②行動分析的立場と認知心理学的立場から人の学習について、パワーポイントを使用しながら講じます。
- ③それらを通じて、人がどのように成長発達していくのかについて、心理学的な考え方を身につけることを目的とします。

授業計画

以下の予定で進めていきますが、進み具合によって若干の修正を加えることがあります。また、職務上休講が重なる可能性がありますが、その場合には補講（場合によっては土曜日に関講）で対応します。このことをわきまえたうえで、履修を決定してください。

- 第1回 人間の発達の可塑性 ビデオを通し、人間の発達の不思議について学ぶ。
- 第2回 人間の発達の可塑性 第1回のつづき。
- 第3回 発達の研究法 発達の考え方と研究方法について
- 第4回 乳児期 新生児期を含め、生後1歳半位までの発達的变化。
- 第5回 幼児期 パーソナリティの基本が形成される幼児期の心理学的特徴。
- 第6回 児童期 小学校の時期にあたる児童期の発達的变化。
- 第7回 青年期 自我同一性の達成を中心にした青年期の心理学的特徴。
- 第8回 成人・高齢期 成人後死に至るまでの発達的变化
- 第9回 教育とカウンセリングの関係について、ビデオを見ながら考える。
小テスト実施。
- 第10回 学習の諸相 学習の定義。学習にかかわるさまざまな知見。
- 第11回 行動分析の考え方 スキナーの行動分析の考え方について解説。
- 第12回 行動分析の考え方（2） プログラム学習を用いて前回の復習。
- 第13回 人間の記憶過程 認知心理学の立場から記憶情報処理について解説。
- 第14回 認知心理学と教育 認知心理学が教育に果たす役割について（ビデオ）
- 第15回 まとめと最終試験

教材・テキスト・参考文献等

教科書は使用しません。参考文献は講義の中で適宜紹介します。

成績評価方法

- ①出席を毎回取ります。6回以上欠席した場合には評価の対象外です。
- ②小テスト20点、筆記試験80点とし、その合計により評価します。

その他(学生へのメッセージ)

毎回ビデオやパワーポイントを用いることにより、学生の興味を喚起したいと思います。これからの社会生活や家庭生活において有意義なものとなるようにしていきます。

講義科目 :生涯学習論	単位数 :2
マークシート略 :[生涯学習]	学習形態 :選択科目
担当 :長島 洋(りょうがん)	教職選択科目

講義のねらい

生涯学習は、生まれたときから死ぬときまでのながいスパンのなかで、学びを通して人と人がつながり、その学んだ成果を地域に活かしあい、それを評価しあう、そんな社会の実現に向けて取り組むものです。学んだ成果をどうやって社会に還元していくか それをテーマに講義を進めます。

だれもが、いつでも、生涯をとおして学ぶことにより、自分の生活や人生感が豊かになり、その学んだ力、成果を地域や学校、職場でどのように活かしていくかを学習します。特に、三重県を中心に自分のふるさとの課題解決にむけた生涯学習のあり方を、学びあい、実際の活動へとつながるよう学習します。

具体的には、生涯学習概論をはじめに学び、後半には、三重県内等のふるさとを見つめ直し、課題を考え、その課題解決にむけた生涯学習プログラムを立案、発表してもらいます。ふるさとや三重が輝けることを願って進めます。

授業計画

- ① 生涯学習の意義と生涯学習社会の構築
- ② 生涯学習・社会教育行政の展開
- ③ 生涯学習・社会教育指導者の役割
- ④ 地域社会と生涯学習の実際 事例研究
- ⑤～⑧自分たちの住んでいる（ふるさと・三重県等）まちでの実際の生涯学習事例を集め研究します。
- ⑨ 三重県内生涯学習関連施設の実際 総合文化センター社会見学
- ⑩ 学社融合（学校教育と社会教育の融合）学校支援と生涯学習
- ⑩ 人権教育と生涯学習
- ⑪ 家庭教育と生涯学習
- ⑫～ ふるさとの地域課題解決に向けた生涯学習プログラム立案
- ⑬ 地域課題解決のための生涯学習プログラムの発表・評価

教材・テキスト・参考文献等

その都度資料を配布します

参考文献は講義中紹介。

成績評価方法

毎回小レポート提出60%、生涯学習プログラム立案・発表等40%による出席重要。毎回レポートが得点に。レポートは必ず授業の最後に回収。5回以上欠席は評価の対象外。つまり無効になります。

その他

自分のまち・三重県内の生涯学習イベント事業に関心をもって資料等を集めてください。

講義科目 : 差別と人権	単位数 : 2
マークシート略 : [差別人権]	学習形態 : 選択科目
担当 : 上田 浩	

講義のねらい

現代社会において重視されるようになってきた基本的人権の問題を考えていきます。人権とは何か、人権はなぜ重要なのか、私たちの人権の実態はどのようなになっているのか、等の問題です。労働者の企業での無権利状態、男女差別などの人権をめぐる現状についても考えたいと思います。

授業計画

基本的人権という考え方は、フランス人権宣言などにおいて明文化されてきましたが、こうした人権の歴史的な形成の経過を学ぶとともに、その内容の発展を知ることによって人権の普遍的な意味を考えたいと思います。さらに、日本国憲法や世界人権宣言、子どもの権利条約の内容について理解を深め、現代社会での生存権、労働権、教育権をめぐる人権の実態などを検討していきたいと思えます。

1. 現代社会と人権：授業概説
2. 近代的人権の成立の歴史
3. ロックの人権思想
4. 近代的人権の特徴と課題
5. 近代的人権の問題点
6. 人権の拡張の過程
7. 基本的人権と日本国憲法
8. 現代的人権の諸問題
9. 職場における人権
10. ワーキング・プアを考える
11. 男女賃金格差の現状
12. DVと女性の権利
13. 不登校・いじめと子どもの権利
14. 児童虐待と社会
15. まとめ

教材・テキスト・参考文献等

テキストは使用しません。授業時にプリントを配布します。
参考文献については授業時に指示します。

成績評価方法

レポート試験を行い、授業態度と出席率によって評価します。
出席を重視し、授業内容について考えたことや意見を書いてもらいます。
6回以上欠席した場合、評価の対象外とします。
レポート試験60%、出席・意見などの平常点40%

その他

講義科目 : ジェンダー論	単位数 : 2
マークシート略 : [ジェンダ]	学習形態 : 選択科目
担当 : 松田 いりあ	

講義のねらい

この授業では、性別に関わる私たちの一般的な認識が、一定の歴史的条件下で定着したものであることを、ジェンダー概念を通じて明らかにする。同時に性をめぐる二分法が世代を越えて伝えられる仕組みについても、生活感覚とともに理解することを目指す。

授業計画

- 第1回 はじめに：この授業の概要の説明
- 第2回 ジェンダーとは(1)
- 第3回 ジェンダーとは(2)
- 第3回 社会化(1)
- 第4回 社会化(2)
- 第5回 家族(1)
- 第6回 家族(2)
- 第7回 社会史とジェンダー
- 第8回 中間まとめ
- 第9回 社会階級・階層とジェンダー
- 第10回 アンペイド・ワーク
- 第11回 メディアとジェンダー
- 第12回 サブカルチャーとジェンダー
- 第13回 身体とジェンダー(1)
- 第14回 身体とジェンダー(2)
- 第15回 まとめ：この授業をふりかえって

教材・テキスト・参考文献等

木村涼子・伊田久美子・熊安貴美江編著『よくわかるジェンダー・スタディーズ』（ミネルヴァ書房）

成績評価方法

レポート70% 授業中課題30%

その他

成績評価の対象者になるためには、規定の出席回数を満たす必要がある。

講義科目 : 歴史学	単位数 : 2
マーケット略 : [歴史学]	学習形態 : 選択科目
担当 : 望月 秀人	

講義のねらい

西洋近代は明治時代以来、長らく日本にとっては追いつくべき模範でしたが、現在ではそうした西洋中心主義は批判され、むしろ他地域と対等に比較すべき一対象となっています。本講義ではそうした状況を踏まえつつ、西洋近代社会の成り立ちと展開を概説的に講義することで、日本にとって何を見習うべきであり、何を見習うべきでないのか、学生の皆さんと考えていきたいと思ひます。

授業計画

- 第1回 ガイダンス
- 第2回 大航海時代と世界の一体化
- 第3回 「宗教戦争」と「世俗化」
- 第4回 封建制から「絶対王政」へ
- 第5回 「絶対王政」の意義と限界
- 第6回 出版資本主義と啓蒙
- 第7回 「市民革命」と近代国家
- 第8回 ナショナリズムと国境問題
- 第9回 工業化とその影響
- 第10回 第一次世界大戦の衝撃
- 第11回 大恐慌の時代
- 第12回 ファシズムの脅威
- 第13回 第二次世界大戦
- 第14回 社会主義と冷戦
- 第15回 グローバル化とその課題

教材・テキスト・参考文献等

テキストは特に定めません。毎回のレジュメに掲載されている出典を参考にして下さい。ただ、高校世界史教科書程度のものは持っていた方が良いでしょう。

成績評価方法

試験60%、レポート40%で判断します。試験は紙媒体持ち込み可の論述試験で、講義内容に即して回答するものとします。レポートについては講義の際に説明します。5回以上の欠席はその時点で単位を失うものとします。

その他

言うまでもなく、講義中の私語や徘徊は原則禁止とします。学生としてふさわしい受講態度をとるようにして下さい。また、時事ネタ等を通じて、社会の課題に敏感になるようにして下さい。

講義科目	: 地理学(地誌を含む)	単位数	: 2
マークシート略	: [地理学]	学習形態	: 選択科目
担当	: 山崎 智博		

講義のねらい

- ・ 私たちが生活している地域はそれぞれが様々な特徴を持っています。本講義ではそうした地域がどのようにして形成されてきたかをみていくことにより、地域の特徴や抱えている問題等を考えていきます。

授業計画

- 第1回 地域・都市の形成（ガイダンス）
- 第2回 明治維新と都市の近代化
- 第3回 市区改正と都市計画法の制定①
- 第4回 市区改正と都市計画法の制定②
- 第5回 関東大震災復興都市計画①
- 第6回 関東大震災復興都市計画②
- 第7回 戦時期の都市・地域①
- 第8回 戦時期の都市・地域②
- 第9回 戦災復興計画①
- 第10回 戦災復興計画②
- 第11回 現代地域開発政策の展開①
- 第12回 現代地域開発政策の展開②
- 第13回 地域の現状と課題①
- 第14回 地域の現状と課題②
- 第15回 まとめと確認（筆記試験）

教材・テキスト・参考文献等

- ・ テキストは使用しません。
- ・ 参考文献はその都度紹介しますが、以下に2冊挙げておきます。
藤井正・神谷浩夫編著「よくわかる都市地理学」ミネルヴァ書房 2014年
平岡昭利・野間晴雄編「近畿 I 地図で読む百年」古今書院 2006年

成績評価方法

- ・ 試験（85%）、出席（15%）を基準に判断します。

その他

- ・ 地図、写真、映像等を適宜使用する予定です。
- ・ 津市など三重県に関する内容も折に触れ取り上げる予定です。

講義科目 : 哲学	単位数 : 2
マークシート略 : [哲学]	学習形態 : 選択科目
担当 : 吉本 陵	

講義のねらい

二十世紀後半になって急速に発展してきた医療技術によって、私たちは生と死の意味について再考するの必要に迫られている。本講義では、生命倫理学ないし医療倫理学の基本的な論点を確認し、そこから浮かび上がる私たちの生と死の意味という問題について哲学的に考察することを試みる。

授業計画

- 第1回 ガイダンス&イントロダクション
- 第2回 哲学的・倫理的なものの考え方
- 第3回 生命倫理学の成立とその背景 (Ⅰ)
- 第4回 生命倫理学の成立とその背景 (Ⅱ)
- 第5回 生命倫理学の成立とその背景 (Ⅲ)
- 第6回 インフォームドコンセントの可能性 (Ⅰ)
- 第7回 インフォームドコンセントの可能性 (Ⅱ)
- 第8回 インフォームドコンセントの可能性 (Ⅲ)
- 第9回 ケアの倫理 (Ⅰ)
- 第10回 ケアの倫理 (Ⅱ)
- 第11回 ケアの倫理 (Ⅲ)
- 第12回 脳死の倫理的問題 (Ⅰ)
- 第13回 脳死の倫理的問題 (Ⅱ)
- 第14回 脳死の倫理的問題 (Ⅲ)
- 第15回 まとめと確認

教材・テキスト・参考文献等

教科書は使用しない。参考文献は適宜指示する。

成績評価方法

論述形式の試験(80%)に、平常点(20%)を加味して評価する。五回以上の欠席が認められた場合には評価の対象外とする。

その他

講義形式で行う。各回の授業後、講義内容についての基本的な質問に対する解答の提出を求める。平常点はそれをもとに評価する。

講義科目 : 文学 I	単位数 : 2
マークシート略 : [文学 I]	学習形態 : 選択科目
担当 : 今本 幸平	

講義のねらい

文学作品の中には、ただ読まれるだけでなく、他の芸術家の創作意欲を刺激するようなものが多々あります。この講義では有名なヨーロッパの文学作品を取り上げて、その作者や時代背景について学び、ヨーロッパの文学や文化に関する知識を深めたいと思います。作品世界のイメージを広げるために、講義ではそれらの作品や作者に関する解説だけでなく、文学から派生した音楽や映像作品などの鑑賞も行う予定です。

授業計画 ()は取り上げる予定の作家、作品

第1回	ガイダンス、資料配布
2回	シェイクスピアの悲劇 (『ロミオとジュリエット』)
3回	『ロミオとジュリエット』2
4回	『ロミオとジュリエット』3
5回	シェイクスピアの喜劇 (『夏の夜の夢』)
6回	『夏の夜の夢』2
7回	民衆本の世界 (『ティル・オイレンシュピーゲル』)
8回	伝説と文学1 (民衆本『ファウスト博士』)
9回	伝説と文学2 (モリエール『ドン・ジュアン』)
10回	文学とオペラ1 (メリメ『カルメン』)
11回	文学とオペラ2 (デュマ・フィス『椿姫』1)
12回	『椿姫』2
13回	映画化された文学 (ベルンハルト・シュリンク『朗読者』1)
14回	『朗読者』2
15回	まとめとテスト

* 上記は予定です。取り上げる順序、内容等は変更される場合があります。

教材・テキスト・参考文献等

必要な資料は事前に (あるいは当日) 印刷して配布します。
参考文献等は授業中に紹介します。

成績評価方法

出席状況とテストで評価します。授業内容に関連する短い課題文、感想、質問などを記入して提出してもらい、出席確認をします。全15回の授業のうち、10回以上出席しない場合は評価の対象外となります。

期末テストでは、授業で取り上げた作品についてテーマを事前にいくつか提示し、その中から一つを選んで800~1000文字程度の小論文を書いてもらいます。

その他 講義を聞くだけでなく、自ら作品を読んで味わってください。

講義科目 : 文学Ⅱ	単位数 : 2
マークシート略 : [文学Ⅱ]	学習形態 : 選択科目
担当 : 今本 幸平	

講義のねらい

18世紀から20世紀までのドイツ文学作品から、毎回テーマに沿った作品をいくつか取り上げ、解説してゆきます。ドイツ文学にはあまりなじみがないという人が多いと思いますので、作家やその作品が生まれた時代背景などから説明します。難しそうな印象があるかもしれませんが、文学作品の味わい方に正解はありません。読む人それぞれが等身大で楽しめば良いのです。授業では作品をより親しみやすく読むための糸口を示してゆきたいと思います。

授業計画 ()は取り上げる予定の主な作品

第1回	ガイダンス、資料配布、ドイツ文学概観
2回	ドイツ文学概観
3回	ヨハン・ヴォルフガング・フォン・ゲーテ (人物と時代背景)
4回	ヨハン・ヴォルフガング・フォン・ゲーテ (『ファウスト』)
5回	ハイネの詩と音楽
6回	古いしがらみからの脱却 (W. ミュラー『冬の旅』)
7回	「ドイツ」を求める機運 (『グリム童話』)
8回	童話の解釈 (『グリム童話』2)
9回	イメージから生まれる言葉 (J. ケルナー『クレクソグラフィ』)
10回	不条理な文学 (フランツ・カフカ『変身』『訴訟』など)
11回	子供の文学1 (エーリヒ・ケストナー『飛ぶ教室』)
12回	子供の文学2 (J. シュपीーリ『ハイジの修行遍歴時代』)
13回	時間の文学 (M. エンデ『モモ』)
14回	自分を見つめる文学 (P. ジュースキント『コントラバス』など)
15回	まとめとテスト

* 上記は予定です。取り上げる順序、内容等は変更される場合があります。

教材・テキスト・参考文献等

必要な資料は事前に (あるいは当日) 印刷して配布します。
参考文献等は授業中に紹介します。

成績評価方法

出席状況とテストで評価します。授業内容に関連する短い課題文、感想、意見、質問などを記入して提出してもらい、出席確認をします。全15回の授業のうち、10回以上出席しない場合は評価の対象外となります。
期末テストでは、授業で取り上げた作品についてテーマを事前にいくつか提示し、その中から一つを選んで800~1000文字程度の小論文を書いてもらいます。

その他

講義を聞くだけでなく、自ら作品を読んで味わってください。

講義科目 : 比較文化論	単位数 : 2
マークシート略 : [比較文化]	学習形態 : 選択科目
担当 : 竹添 敦子	

講義のねらい

- ・ 西欧と日本を比較しながら、身近な文化現象を再考し、その背後にあるものとの見え方、考え方の違いを探ります。本年度は「余暇・娯楽」を軸に東西文化を比較します。
- ・ 当たり前だと思っている現象も、歴史をさかのぼると興味深い事実が見えてきます。また私たちの「常識」について、一度立ちどまってみると、思いもかけない発見があります。こういったことを確認するために、毎回映像を使用しながら、現在の私たちの文化を考えます。
- ・ 「伝統」や「慣習」のことで片づけられていた現象を再検討します。自分自身の感覚と理解を再確認する作業を通じ、「文化」とは何かを考察します。

授業計画

第1回 文化を比較するとは	第9回 日本の娯楽（旅と温泉）
第2回 おとぎ話の比較（日本の昔話）	第10回 西欧の娯楽（旅行と教養）
第3回 おとぎ話の比較（西欧の昔話）	第11回 日本の娯楽（花鳥風月と演芸）
第4回 余暇と娯楽（「見る」と「する」）	第12回 西欧の娯楽（カフェ文化）
第5回 日本の娯楽（歌舞伎・舞踊）	第13回 近代の余暇と文化（百貨店）
第6回 西欧の娯楽（オペラ・バレエ）	第14回 現代の余暇と文化（遊園地）
第7回 日本の娯楽（カルタ・釣り）	第15回 まとめと確認（試験）
第8回 西欧の娯楽（競馬・スポーツ）	

教材・テキスト・参考文献等

- ・ 使用しません。
- ・ 自ら参考文献を探ることが重要な作業となります。指示に従い、いかに資料を探し、いかに客観的、批判的に資料を分析できるかを学んでください。

成績評価方法

- ・ 小レポート（毎回実施、70%）と最終試験（論述式、30%）を基準に評価します。
- ・ 出席を重視します（毎回、講義の最後に小レポートを課します。講義内容を確認し、かつ自分の意見をまとめるものです。この小レポートによって出席の確認をします。小レポートは採点して（5点満点）をつけて返却します。講義開始までに当日のレジюмеとともに各自とおいてください。
- ・ 5回以上欠席した場合、評価の対象外とします。4回休んだ時点で名前の下にイエローラインがはいります。5回休むとレッドラインとなります。レッドライン以降欠席があると無資格となります。

講義科目 :英会話	単位数 :2
マークシート略 :〔英会話〕	学習形態 :選択科目
担当 :John Dykes	

講義のねらい

This course is designed for beginner to low-intermediate students and will focus on spoken English. The aim is to provide a foundation in the structure of the language, gradually building students' understanding of the basic grammar, vocabulary and idioms required for general communication in English. Each unit of the textbook will take approximately 2 classes to complete and regular mini-tests will be given to monitor students' progress. Students ***must*** work together to practice the spoken language.

ONLY ENGLISH IS USED ON THIS COURSE.

授業計画

1. Introductions and orientation.
2. Hello Everybody.
3. Meeting people.
4. The world of work.
5. Take it easy!
6. Where do you live?
7. Can you speak English?
8. Review & end of first semester test
9. Then and now.
10. A date to remember.
11. Food you like!
12. Looking Good!
13. Life's an adventure!
14. Have you ever?
15. Review & end of second semester test

教材・テキスト・参考文献等

American Headway 1 (2nd edition. ISBN 978-0-19-472945)

By Liz and John Soars (Oxford University Press)

成績評価方法

Work in class – 60%

(A positive attitude and a willingness to try are essential for conversation)

Tests – 40%

その他

講義科目 : 英語講読	単位数 : 2
マークシート略 : [英語講読]	学習形態 : 選択科目
担当 : 村井 美代子	

講義のねらい

- ・ 現代社会が抱える様々な問題を提起し、「いかに対応するか (HOW TO)」を論じたレベル別リーディングテキストを使用する。各章読み切り形式で、約 400 語にまとめられ、TOEICスコア 400～600 点程度をおおよその基準にしている。
- ・ 各章にはリーディング課題だけでなく、語彙や文法、イディオムに関連した問題や、正答を音声で確認する問題なども用意されている。これまでの英語学習の基礎の上に、実践的な読み取り、聞き取りの力を身につけてほしい。

授業計画

- ・ 1つの章を2回ないし3回の授業で読了する予定。ただし、受講生の学習の進捗度などによって、授業進行の速度は随時調整する。

第1回	オリエンテーション	第16回	第6章 オンライン学習
2回	第1章 学習スキルと習慣	17回	第6章
3回	第1章	18回	第7章 スマホ活用
4回	第1章・第2章	19回	第7章
5回	第2章 締切の遵守	20回	第7章・8章
6回	第2章	21回	第8章 対人関係
7回	第3章 旅行スキル	22回	第8章
8回	第3章	23回	第9章 会議の効率化
9回	第3章・第4章	24回	第9章
10回	第4章 飛行恐怖症	25回	第9章・第10章
11回	第4章	26回	第10章 宣伝広告
12回	第5章 うそ発見器	27回	第10章
13回	第5章	28回	第11章 チップについて
14回	第5章・6章	29回	第11章
15回	前期学習内容のまとめ	30回	後期学習内容のまとめ

教材・テキスト・参考文献等

『Readers' Forum 1 HOW-TO ENGLISH』 (南雲堂)

成績評価方法

- ・ 毎回出席をとる。
- ・ 前期最終授業時と後期最終授業時に試験を行う。全授業回数の3分の2以上の出席がない場合、評価の対象外とする。
- ・ 成績は前後期試験を中心にして、出席状況や課題の提出状況、学習態度などから総合的に判断する。評価基準の目安は、試験：平常点 = 7 : 3

講義科目	: 総合英語	単位数	: 2
マークシート略	: [総合英語]	学習形態	: 選択科目
担当	: 大蔵 香代子		

講義のねらい

- ・本講義ではTOEICテスト問題演習を通して、TOEICテストのスコアアップを目指す。
TOEIC問題を教材として、語彙力・文法・リスニング・リーディングを含む総合的な英語コミュニケーション、英語運用能力の向上を目指す。

授業計画

- ・TOEIC頻出重要語句の意味・発音・品詞・文の構造の基礎力を養成する。
- ・TOEICテストの出題傾向に慣れ、各パートの攻略法を学ぶ。
- ・TOEICテスト形式を解き、学習内容の確認・定着を図る。
- ・ユニット毎に復習テストまたは自己学習課題を提出する。

前 期		後 期	
第 1 回	イントロダクション Listening/Reading攻略法	第 1 回	Unit 11(1)
第 2 回	Unit 1(1)	第 2 回	Unit 11(2)
第 3 回	Unit 1(2)	第 3 回	Unit 12
第 4 回	Unit 2(1)	第 4 回	Unit 13
第 5 回	Unit 2(2)	第 5 回	Unit 14
第 6 回	Unit 3(1)	第 6 回	Unit 15
第 7 回	Unit 3(2)	第 7 回	Unit 16
第 8 回	Unit 4	第 8 回	Unit 17
第 9 回	Unit 5	第 9 回	Unit 18(1)
第10回	Unit 6	第10回	Unit 18(2)
第11回	Unit 7	第11回	Unit 19(1)
第12回	Unit 8	第12回	Unit 19(2)
第13回	Unit 9	第13回	Unit 20(1)
第14回	Unit 10	第14回	Unit 20(2)
第15回	Practice Test (1)	第15回	Practice Test (2)

教材・テキスト

- ・「Step-by-Step Prep for the TOEIC L&R TEST THE TOEIC Step 2 Intermediate Course」(株式会社アルク大学教材編集部)
- ・40% Practice Tests (1)(2)
- ・40% 復習テスト・課題提出
- ・20% 出席・授業参加

その他

- ・復習テストの追・再試及び課題提出期限の延長はありません。
- ・講義時間に相当する自宅・自己学習時間を必要とします。辞書必携。
- ・授業計画はクラスの進捗によって変更することがあります。

講義科目 : 独語Ⅱ	単位数 : 2
マークシート略 : [独語Ⅱ]	学習形態 : 選択科目
担当 : 今本 幸平	

講義のねらい

前期では独語Ⅰで扱えなかった文法の続きを勉強して、基礎的な文法を一通り学んだ後、後期はドイツ語検定試験の対策問題や、平易なドイツ語の読解などを行いながら、文法の定着をはかります。リスニングの練習も行い、ドイツ語検定試験4級～3級程度の力をつけることを目標とします。

授業計画

第1回	ガイダンス、独語Ⅰの復習	第16回	前期の復習
2回	独語Ⅰの復習2	17回	ドイツ語検定対策(4級)1
3回	独語Ⅰの復習3	18回	ドイツ語検定対策(4級)2
4回	独語Ⅰの復習4	19回	ドイツ語検定対策(4級)3
5回	過去形と過去分詞	20回	ドイツ語を読む1
6回	現在完了形1	21回	ドイツ語を読む2
7回	現在完了形2	22回	ドイツ語を読む3
8回	受動態	23回	ドイツ語検定対策(3級)1
9回	形容詞	24回	ドイツ語検定対策(3級)2
10回	形容詞の比較表現	25回	ドイツ語検定対策(3級)3
11回	再帰代名詞	26回	ドイツ語を読む4
12回	zu不定詞	27回	ドイツ語を読む5
13回	関係代名詞	28回	ドイツ語を読む6
14回	接続法	29回	ドイツ語を読む7
15回	まとめとテスト	30回	まとめとテスト

* 上記は予定です。授業の進度、内容は受講者の理解度に応じて調整します。

教材・テキスト・参考文献等

- ・ 独和辞典(独語Ⅰで使用したもの)
- ・ 教材は必要なものを印刷して配布します。
- ・ 参考文献: 独語Ⅰで使用した教科書。その他は授業時に随時紹介します。

成績評価方法

1. 前期、後期ともに10回以上授業に出席して勉強すること。
 2. 学期末テストで平均60点以上とること。
- 1.と2.の条件を両方満たせば単位取得できます。
評価は各学期末のテストの点数に基づきます。

その他

辞書は必ず毎回持参して、気になる単語は自主的に調べてください。
独語Ⅰの単位を取得していることを前提に授業を行いますので、ドイツ語の学習経験が無い方には履修をおすすめしません。

講義科目 : 仏語Ⅱ	単位数 : 2
マークシート略 : [仏語Ⅱ]	学習形態 : 選択科目
担当 : 岩本 篤子	

講義のねらい

昨年度の仏語Ⅰに続き、様々な場面での基本的な会話表現を学ぶ。

授業計画

第1回	仏語Ⅰで習ったことの確認	第16回	13課 過去のことを話す
2回	仏語Ⅰの対話文復習	17回	13課の続き
3回	8課 興味を述べる	18回	13課の続き
4回	8課の続き	19回	2種類の過去形の確認
5回	9課 誘う	20回	過去形の練習問題
6回	9課の続き	21回	仏検4級をめざして2
7回	9課の続き	22回	14課 仮定する
8回	綴り字の読み方と音節の復習	23回	14課の続き
9回	10課 天候と時刻	24回	仮定表現の練習問題
10回	10課の続き	25回	重要な動詞の復習
11回	仏検4級をめざして1	26回	基本動詞を用いた役に立つ表現
12回	11課 数量を表す	27回	役に立つ表現の確認
13回	11課の続き	28回	仏語Ⅱの対話文復習
14回	11課の続き	29回	講読部分の読み復習
15回	12課 比較する	30回	全体の復習と小テスト最終回

教材・テキスト・参考文献等

テキスト：藤田 裕二「パリ・ボルドー」 朝日出版社

成績評価方法

- ①授業中に行う小テストの平均点が60点以上あれば、合格とする。
- ②6回以上欠席すると単位を認めない。

その他

せっかく始めたフランス語をやめてしまうのはもったいないことです。仏語Ⅰの成績は全く関係ありません。必ず何かの役に立つと思って、頑張つて続けてみましょう！（フランス語初心者の方の受講はご遠慮ください）

講義科目 : 中国語Ⅱ	単位数 : 2
マークシート略 : [中国語Ⅱ]	学習形態 : 選択科目
担当 : 花尻 奈緒子	

講義のねらい

中国語Ⅰで学習した文法事項を踏まえ、簡単なリスニングと会話のトレーニングを行う。語彙や表現を増やし、中国語の背景にある文化や社会についても学ぶ。

授業計画

第1回	ガイダンス	第16回	第八課 航空券の予約1
2回	第一課 基礎発音1	17回	第八課 航空券の予約2
3回	第一課 基礎発音2	18回	第九課 定期便の遅延1
4回	第二課 基礎発音3	19回	第九課 定期便の遅延2
5回	第二課 基礎発音4	20回	第十課 虎の威を借る狐1
6回	第三課 基礎発音5	21回	第十課 虎の威を借る狐2
7回	第三課 基礎発音6	22回	第十課 虎の威を借る狐3
8回	第四課 あいさつ1	23回	第十一課 ウサギとカメ1
9回	第四課 あいさつ2	24回	第十一課 ウサギとカメ2
10回	第五課 自己紹介1	25回	第十二課 運転できますか1
11回	第五課 自己紹介2	26回	第十二課 運転できますか2
12回	第六課 日本の春はどう？1	27回	第十三課 何をしてるの？1
13回	第六課 日本の春はどう？2	28回	第十三課 何をしてるの？2
14回	第七課 ご飯は食べた？1	29回	第十四課 差不多先生1
15回	第七課 ご飯は食べた？2	30回	第十四課 差不多先生2

教材・テキスト・参考文献等

「パイロットテキスト—中国語のことばと文化—」

成績評価方法

出席および前・後期の期末試験

その他

予習復習を欠かさず行うこと。中国語Ⅰとセット履修も可能です。

講義科目	: 地域史	単位数	: 2
マークシート略	: [地域史]	学習形態	: 選択科目
担当	: 鈴木 えりも		

講義のねらい

- ① 三重地域の近世・近代の歴史を学ぶために必要な基礎知識を身につける
- ② 三重地域が近世・近代にどのような特徴を持つ地域であったのかを考える
- ③ 史料を基礎としてそこから何が読みとれるのかを学び考える
- ④ 自分の育った地域の歴史に関心を持つ
- ⑤ 文献に基づいて自分の考えをまとめる方法を身につける

授業計画

- 第1回 講義の進め方、時代の区切り
- 第2回 近世概略(近世という時代の基礎知識) 1
- 第3回 近世概略(近世という時代の基礎知識) 2
- 第4回 三重地域の諸蕃
- 第5回 海運と河村瑞賢
- 第6回 近世の三重地域周辺の物流と伊勢商人の活躍
- 第7回 三重地域の村と町
- 第8回 三重地域の街道と宿場
- 第9回 伊勢神宮の近世とおかげまいり
- 第10回 近世の人々の暮し
- 第11回 近代のはじまり
- 第12回 三重地域の地租改正
- 第13回 三重地域の一揆
- 第14回 三重地域の自由民権運動
- 第15回 三重地域の災害

受講生の希望する事柄を取入れた講義を1回は行い、希望内容によって上記の適当な回と差替える。また学生の理解程度によって回数を増やしたり、講義の順序を入換えることもある

教材・テキスト・参考文献等

教科書は使用しない。講義中に配布するプリントに即して講義を行う
参考文献は講義中に取上げた内容に即して紹介する

成績評価方法

レポートによって評価する。課題及び評価基準は講義中に随時伝達する
出欠はとるが、評価の参考とするにとどめる

その他

レポートの書き方・評価基準について、聞きのがす学生が多い。講義を欠席した場合は講義内容を出席者に確認するなど、各自注意を怠らないこと
欠席した場合、講義中に配布した資料を入手することを怠らない
講義に取入れてほしい内容、理解できなかった点等を発言するなどの積極性を望む

講義科目	:自治体行政特論	単位数	:2
マークシート略	:〔自治行政〕	学習形態	:選択科目
担当	:小野寺 一成		

講義のねらい

この講義は、津市長をはじめ津市の職員によるリレー式の講義であり、本学の「地域連携講義」の一つとして行われる特色ある講義である。また、地方議会の傍聴も予定している。

法経科では行政法、行政学、財政学など地方行財政を取り扱う講義科目があるが、それらとあわせて受講することにより、現在の地方行財政に対する理解が深まることを期待している。

生活科学専攻では、地域政策論、地域福祉論Ⅰ、地域福祉論Ⅱ、地域環境学、都市計画論、環境政策論など、自治体行政に関わる講義科目があるが、それらとあわせて受講することにより、現在の地方行政に対する理解が深まることを期待している。

特に公務員を志望する学生には、行政の現場で何が行われているのかを理解する格好の機会となると思われる。

授業計画(予定 順番は変更されます)

- 第1回 オリエンテーション
- 第2回 津市の政策について(政策財務部政策課)
- 第3回 津市の教育について(教育委員会事務局)
- 第4回 文化・スポーツについて(スポーツ文化振興部)
- 第5回 産業振興(商工業/観光)について(商工観光部)
- 第6回 産業振興(農林水産業)について(農林水産部)
- 第7回 都市計画について(都市計画部)
- 第8回 中間まとめ
- 第9回 津市議会見学
- 第10回 財政について(政策財務部財政課)
- 第11回 環境行政について(環境部)
- 第12回 津市の福祉について(健康福祉部)
- 第13回 参加と協働のまちづくりについて(市民部)
- 第14回 自治体経営(市長)
- 第15回 最終まとめ

- 毎回の講義を聞いて、その概要、感想などをまとめた「講義ノート」を提出する。
- 6月津市議会を傍聴し、レポートを提出する。

教材・テキスト・参考文献等

- ・教科書・参考文献等の指定はない。毎回の講義時に配布される各講師が準備したレジュメ・資料をもとに進めていく。

成績評価方法

- ・出席状況、講義ノートの提出状況、議会傍聴レポートなどを総合して評価する。
- ・1/3以上欠席した場合は評価の対象外、遅刻3回で1回の欠席とみなす。

講義科目 : キャリア形成セミナー	単位数 : 2
マークシート略 : [キャリア]	学習形態 : 選択科目
担当 : 村井 美代子	

講義のねらい

- ・自分のこれからの人生をいかにとらえ、いかに生きていくのかを考えます。
- ・「自分を知る」ことから始め、「社会を知る」ことへとつなぎます。
- ・職場、家庭、地域の一員として、将来の自身のあり方を考えます。
- ・本学の卒業生、あるいは様々な分野の専門家、人生の先輩たちの話を通し、自身の人生を選びとってゆく力をつけます。(講師は毎回変わります。)
- ・具体的な仕事や人生観に触れながら、自身の職業観、勤労観を獲得し、卒業後の進路選択に役立てます。
- ・全講義を通して学ぶことで、自身のキャリアイメージを形成していきます。
- ・毎回、アンケート、質問票を兼ねた小レポートを提出し、文章を簡潔にまとめる力、適切な表現力をつけることを目指します。
- ・1年生の履修を原則とします。

授業計画

- ・講師の都合などによって前後することがあります。

第1回	キャリアとは何か(ガイダンス)
2回	自分を見つめる(自己分析をキャリア形成にいかそう)
3回	働くことの意味
4回	働くことの意味
5回	国際協力という仕事
6回	栄養士の現場で働く
7回	福祉の現場で働く
8回	建築士として働く
9回	企業から求められる人材とは
10回	働くことの意味
11回	労働者をとりまく環境を知る
12回	人生設計を考える
13回	地方公務員として働く
14回	地域を知る、地域で生きる
15回	まとめ(最終レポート作成)

教材・テキスト・参考文献等

- ・各講師より配布されるレジュメ、資料を使用します。

成績評価方法

- ・出席が基本です。出席状況や毎回の小レポート、最終レポートなどの提出状況、学習態度などから総合的に評価します。
- ・5回以上欠席した場合、評価の対象外とします。

講義科目	: 農林体験セミナー	単位数	: 2
マークシート略	: [農林体験]	学習形態	: 選択科目
担当	: 石原 洋介		

この授業科目は、三重大大学の夏季集中授業に本学の学生も参加し、生物資源学部の農場や演習林での講義・実習・体験学習を通じ、自然環境や農林業に対する理解を深めることを目的にしています。

①農場コースと、②演習林コースの2つのコースを設けます。6月に募集を行い、希望者多数の場合は選考により受講生を決定します。なお、食費として実費が必要です。

(1) 農場コース 【土は生きている】 8月下旬実施予定

講義のねらい

- 土と食料生産の関係について地域特産物を素材にして包括的な理解を深めるための技術的経験を積む。

授業計画

- 生物資源学部付設農場で2泊3日にわたって講義、実習、体験学習を行います。
(第1日目) 第1回 授業の概要説明／第2回 地域特産農産物の概要／第3回 サイズの栽培管理／第4回 世界と日本の食料事情 (ナイトセミナー)
(第2日目) 第5回 イネの収穫／第6回 肉牛の肥育管理／第7回 豆腐作り／第8回 食の安全・安心と社会 (ナイトセミナー)
(第3日目) 第9回 茶の加工／第10回 温州ミカンの栽培管理／第11回 うどん作り／第12回 授業の総括

成績評価方法

- レポート70% 実習態度20% 出席10%の評価を総合判断する。

(2) 演習林コース 【森は生きている】 9月上旬実施予定

講義のねらい

森林で安全に行動するための基本を学び、また、演習林の役割や自然状態が維持されている現場で山地・森林・溪流の意義を理解する。また、林業の実際と林産加工の実践を学ぶ。

授業計画

- 生物資源学部付設演習林で2泊3日にわたって講義、実習、体験学習を行います。
(第1日目) 演習林の概要解説、諸注意事項／森林の多面的機能について林内学習／天然生林・二次林の植生観察／人工林施業の解説、溪流沿いの土砂災害見学
(第2日目) 映画WOODJOB!ロケ撮影と日本の森林・林業の課題学習／林業体験：人工林での小径木間伐／林産加工実習：コースター加工または丸太ベンチ製作／BBQ：野外活動＋木質資源のエネルギー活用と環境について学ぶ！／野生動物の被害観察
(第3日目) 環境学習：涼しい溪流環境散策とふりかえり学習／レポート作成／WOODJOB!ロケ地、御神木、木材市場などを経由し帰学

成績評価方法

- レポート、学習態度、出席などを総合的に評価する。

講義科目	:食と観光実践	単位数	:2
マークシート略	: []	学習形態	:選択科目
担当	:石原 洋介		

講義のねらい

- ・この授業科目は、三重大大学の夏季集中授業に参加し、三重大生とともに受講することになります。
- ・開講形態は、合宿型（去年は2泊3日）です。全日程に参加することが受講の条件となります。
- ・本講義では、三重県をフィールドとして、「食と観光」をテーマに、現場見学とグループワーク、ディスカッションを実施し、地域課題の発見とそれに対する分析・考察を行います。
- ・今年度の実施内容の詳細は後日掲示にて発表します。
- ・本講義は通常の履修登録とは異なり、6月に履修希望者を募集し、希望者多数の場合は選考により受講生を決定します。

講義科目 : 次世代産業実践	単位数 : 2
マーケット略 : []	学習形態 : 選択科目
担当 : 石原 洋介	

講義のねらい

- ・この授業科目は、三重大大学の夏季集中授業に参加し、三重大生とともに受講することになります。
- ・開講形態は、合宿型（昨年は2泊3日）です。全日程に参加することが受講の条件となります。
- ・本講義では、三重県をフィールドとして、「次世代産業」をテーマに現場見学とグループワーク、ディスカッション、実証実験を実施し、地域課題の発見とそれに対する分析・考察を行います。
- ・今年度の実施内容の詳細は後日揭示にて発表します。
- ・本講義は通常の履修登録とは異なり、6月に履修希望者を募集し、希望者多数の場合は選考により受講生を決定します。

講義科目 : 住生活論	単位数 : 2
マークシート略 : [住生活論]	学習形態 : 選択科目
担当 : 木下 誠一	建築士指定科目

講義のねらい

人間の生活にとって欠かせない存在である住まいが、風土や家族、社会的・文化的条件など、生活を取り巻く諸条件との関係によって、これまで歴史的にどのように形成されてきたか、また、家族形態の多様化や高齢化、情報化など現代の住生活が抱える課題を理解し、今後の住生活のあり方を考察する。

授業計画

- 1) 住まいと風土 (1) 世界の住まい
- 2) " (2) 日本の住まい
- 3) 住まいの歴史 (1) 近代以前
- 4) " (2) 近代以降
- 5) 住まいと生活様式 (1) 起居様式
- 6) " (2) 食事・入浴慣習
- 7) 住まいと家族 (1) ライフスタイル
- 8) " (2) ライフサイクル
- 9) 住まいの快適性 (1) 室内環境
- 10) " (2) 維持管理
- 11) " (3) 福祉
- 12) 住まいと地域 (1) コミュニティ
- 13) " (2) 共同秩序
- 14) " (3) 団地再生
- 15) まとめと確認

教材・テキスト・参考文献等

随時、資料を配付する

成績評価方法

- ・出席を毎回取る。5回以上欠席した場合には評価の対象外とする。
- ・レポートにより評価する（授業時間内に適宜行う）。

その他

講義科目 : 食生活論	単位数 : 2
マークシート略 : [食生活論]	学習形態 : 選択科目
担当 : 山田 徳広	

講義のねらい

本講義では、食は単に生物的に『食べる』行為というだけではなく、社会生活全般に影響を及ぼして来た事を理解する。

授業計画

- 第1回 講義：「栄養の基礎」,「三重県の食生活」
- 第2回 講義：「鉄の大切さ」,「運動と肥満」
- 第3回 DVD：スーパーサイズ・ミー①
- 第4回 DVD：スーパーサイズ・ミー②
- 第5回 講義：「魚を食べよう」
- 第6回 DVD：人間は何を食べてきたか
『第1集 一滴の血も生かす～肉～』
- 第7回 講義：「食と人間」
- 第8回 講義：「食材の起源」
- 第9回 講義：「宗教と食事」,「世界の食事」
- 第10回 講義：「日本食」
- 第11回 講義：「食糧問題を考える」
- 第12回 講義「ラーメンに見る明治維新後の日本の食生活の変遷」
- 第13回 講義「三重県の特産物の開発について」
- 第14回 講義「食に関する質問に答えます」
- 第15回 最終確認試験

教材・テキスト・参考文献等

適宜配布する

成績評価方法

平常点と最終確認試験によって評価する。

その他

わからないことがあったら、気軽に質問してください。

講義科目 : 社会学	単位数 : 2
マークシート略 : [社会学]	学習形態 : 選択科目
担当 : 松田 いりあ	

講義のねらい

21世紀の現代、19世紀から20世紀にかけて社会を支えてきた条件が再編される時期を迎えている。この授業では、かつて自明と思われてきたことがらを社会的に検討し直すことによって、21世紀の社会でともに生きる方法を探究していく。

授業計画

- 第1回 はじめに：この授業のねらいの説明
- 第2回 社会学とは何か（1）：伝統社会・近代社会・現代社会
- 第3回 社会学とは何か（2）：社会問題と社会学
- 第4回 自我と社会
- 第5回 家族とライフコース
- 第6回 人口の変化と地域社会
- 第7回 ジェンダーという視点
- 第8回 都市的生活とコミュニティ
- 第9回 グローバル化とエスニシティ
- 第10回 社会集団・組織
- 第11回 社会階級・階層
- 第12回 社会構造と社会変動
- 第13回 現代社会のゆくえ
- 第14回 この授業のまとめ
- 第15回 筆記試験

教材・テキスト・参考文献等

三本松政之・杉岡直人・武川正吾編著『社会理論と社会システム』
(MINERVA社会福祉士養成テキストブック) ミネルヴァ書房

成績評価方法

筆記試験70% 授業内課題30%

その他

成績評価の対象者になるためには、規定の出席回数を満たす必要がある。

講義科目	: 社会調査論	単位数	: 2
マークシート略	: [社会調査]	学習形態	: 選択科目
担当	: 安藤 直樹		

講義のねらい

本講義では、社会調査の中でも質問紙（調査票）を用いた調査が行われるプロセスについて紹介していきます。そして、具体的な作業を通して、調査を実施するのに必要な基本的知識と方法を身につけていきます。

また、講義で取り上げる事例をもとに、社会科学的な考え方も養っていきたいと思います。

授業計画

以下の予定で進めていきますが、進行状況によって変更することもあります。また、やむをえず休講とした場合には補講を行う予定です。

- 第1回 オリエンテーション（シラバスの内容確認）、社会調査とは
- 第2回 調査の企画と設計①（問題の設定、情報収集の方法）
- 第3回 調査の企画と設計②（仮説の設定）
- 第4回 調査の企画と設計③（測定と尺度水準）
- 第5回 質問紙の作成①（質問文の作成）
- 第6回 質問紙の作成②（回答形式）
- 第7回 質問紙の作成③（質問紙の構成）
- 第8回 サンプルングの考え方と実際（標本調査とサンプルング）
- 第9回 調査の実施とデータ化①（調査の方法）
- 第10回 調査の実施とデータ化②（コーディングとエディティング）
- 第11回 データのまとめ方①（1つの変数の特徴を記述する）
- 第12回 データのまとめ方②（2つの変数の関係を記述する）
- 第13回 データの分析①（母集団の特徴について推測する－推定－）
- 第14回 データの分析②（母集団の特徴について推測する－検定－）
- 第15回 結果のまとめ方（報告書の書き方）

教材・テキスト・参考文献等

テキストは使用せず、必要な資料を適宜配布します。参考文献については授業の中で紹介します。

成績評価方法

出席状況（40%）とレポート（60%）により成績を評価します。授業では毎回出席を確認します。特別な理由なく、出席回数が授業回数の3分の2に満たない場合は評価の対象外となりますので、注意してください。レポートの内容や提出方法については授業の中で詳しく説明します。

その他

データを扱う際に電卓を使用するので、事前に準備しておいてください。電卓を使用する時期については授業の中で指示します。

質問はいつでも受けつけますので、わからないことがあれば遠慮なく聞いてください。

講義科目	:ヘルスカウンセリング論	単位数	:2
マーケット略	:[ヘルスカ]	学習形態	:選択科目
担当	:二ノ村 玲子		

講義のねらい

クライアントの健康管理を従来のコンプライアンス行動（医療者側からの望ましい行動からQOLに重点を置いたセルフケア行動に変化させる援助方法であるヘルスカウンセリングの視点、方向、姿勢、手順の習得と心因性疾患のメカニズムを解いていくために必要な心理学的理論や食行動理論を習得し実際の相談に役立つ力を持たせていく。

授業計画

- 第1回 現代家族の構造の変化と社会文化との関連
- 第2回 ヘルスカウンセリングの定義と目的
- 第3回 ストレスと病気についての解説
- 第4回 人格・心の形と働き
- 第5回 精神発達段階を精神分析的観点から説明
- 第6回 ライフサイクル上の危機
- 第7回 併用可能な精神療法と適応範囲
- 第8回 食行動理論の解説と一般的発達
- 第9回 ヘルスカウンセリングの展開と技法の説明
- 第10回 同上
- 第11回 ロールプレイ
- 第12回 同上
- 第13回 カウンセリングのコツと注意点
- 第14回 家庭内力動がクライアントに与える影響
- 第15回 まとめとレポート

教材・テキスト・参考文献等

ヘルスカウンセリングのプリントを随時配布していく。
参考文献は適宜紹介する。

成績評価方法

毎回出席と取り、5回以上の欠席は評価の対象外とする。
出席、ロールプレイ、レポート、まとめを通して自己成長への支援の構えを評価の対象とする。

その他

健康ブームの昨今、多彩な情報が飛び交っている中で自分自身の心と体の健康をこの講義を通して自己決定、自己決定の大切さを考えて頂ければと思います。

講義科目 : 化学	単位数 : 2
マークシート略 : [化学]	学習形態 : 選択科目
担当 : 山崎 賢二	

講義のねらい

「食」にたずさわる資格を取得するためには、多くの専門科目を学ばなければなりません。その基礎となる「化学」の知識を身につけることは必要不可欠です。食べ物に関する化学の知識を中心に、高校まで化学をあまり勉強してこなかった学生にも、わかりやすく親しみやすい講義を心がけます。

授業計画

第1回	第1章	食品の中身を見る－物質の成り立ちと構成元素
第2回	第1章	食品の中身を見る－物質の成り立ちと構成元素
第3回	第2章	食品中の原子、分子、イオンの重さ
第4回	第2章	食品中の原子、分子、イオンの重さ
第5回	第3章	食品の状態とその変化
第6回	第3章	食品の状態とその変化
第7回	第4章	食品とエネルギー－生体内の化学エネルギー
第8回	第5章	食品内で起こる変化－化学反応と化学反応式
第9回	第5章	食品内で起こる変化－化学反応と化学反応式
第10回	第6章	食品中の濃度を考える－溶液の濃度とその表し方
第11回	第6章	食品中の濃度を考える－溶液の濃度とその表し方
第12回	第7章	食品中の有機化合物とその働き
第13回	第7章	食品中の有機化合物とその働き
第14回	第8章	食品中の無機化合物とその働き
第15回	第8章	食品中の無機化合物とその働き

上記8つの章、34の節の中から抜粋して解説します。

第8回目に前期中間試験、第15回目に前期末試験を行います。

教材・テキスト・参考文献等

- ・テキスト「わかる化学・知っておきたい食とくらしの基礎知識」
松井徳光・小野廣紀著、化学同人発行、ISBN 978-4-7598-0920-6
- ・プリント「知っておきたい食べ物の話」（社）日本化学工業協会

成績評価方法

- ・出席状況把握のため、毎回食物に関するクイズや小テスト等を行います。
- ・出席20%、前期中間試験40%、前期末試験40%で評価します。
講義を欠席しないようにしましょう。

その他

- ・テキストは各自で購入してください。
- ・プリントは配布します。

講義科目 : 数理科学	単位数 : 2
マークシート略 : [数理科学]	学習形態 : 選択科目
担当 : 笠 浩一朗	

講義のねらい

本講義では、微分・積分の基本を復習から始めて、「平均値の定理」、「テイラーの定理」など重要な定理についても紹介する。さらに、偏微分、重積分、微分方程式についても基本的な考え方について解説する。

授業計画

第1回	微積分とは
2回	数列と関数の極限(1)
3回	数列と関数の極限(2)
4回	微分法とその応用(1)
5回	微分法とその応用(2)
6回	微分法とその応用(3)
7回	積分法とその応用(1)
8回	積分法とその応用(2)
9回	2変数関数の微分(1)
10回	2変数関数の微分(2)
11回	2変数関数の重積分(1)
12回	2変数関数の重積分(2)
13回	微分方程式(1)
14回	微分方程式(2)
15回	期末試験

教材・テキスト・参考文献等

教科書: 江川博康「大学1・2年生のためのすぐわかる数学」(東京図書)

参考文献: 馬場敬之ら「スバラシク実力がつくと評判の微分積分キャンパス・ゼミ」(マセマ出版社)

成績評価方法

- ・ 期末試験を実施する。50%程度成績に反映させる。
- ・ 小テストを毎回実施する。40%程度成績に反映させる。
- ・ 出席を取り、10%程度成績に反映させる。
- ・ 5回以上欠席した場合は、単位認定しない。

その他

高校の「数学Ⅱ」、及び、「数学Ⅲ」で微分、積分を習っていない学生は、「数学Ⅱ」、「数学Ⅲ」の微積分の内容を予習しておくことが望ましい。

講義科目 : 統計学	単位数 : 2
マークシート略 : [統計学]	学習形態 : 選択科目
担当 : 宮西 基明	

講義のねらい

- ・大量のデータを整理し、全体の性質を読み取る能力を身につけます。
- ・平均値、標準偏差の求め方、グラフの作成方法を修得します。
- ・統計解析で得られる数値の意味、正規分布、母集団と標本など統計に関する法則、確率と統計について理解を深めていきます。

授業計画

- 第1回 代表値：最頻値、中央値、平均値
- 第2回 ばらつきを表す量：範囲、平均偏差、標準偏差
- 第3回 度数分布表の作成
- 第4回 ヒストグラム、平均値と標準偏差の概略値の求め方
- 第5回 様々な分布の形、正規分布
- 第6回 標準正規分布、正規分布表の見方
- 第7回 正規分布の標準化と個数の推定
- 第8回 母集団と標本、標本の選び方、乱数
- 第9回 t分布、t分布表の見方
- 第10回 標本からの推定、平均値の信頼区間
- 第11回 Σ を用いた計算
- 第12回 カイ2乗分布、カイ2乗検定
- 第13回 二項分布と正規分布
- 第14回 回帰直線と相関
- 第15回 まとめと筆記試験

教材・テキスト・参考文献等

- ・教科書：石井俊全著『意味がわかる統計学』ベレ出版。
- ・参考書：入門書として大村平著『今日から使える統計解析』講談社
- ・より専門的な内容の参考書を揃え自主的に学習することを希望します。
- ・随時プリントを配布します。

成績評価方法

- ・欠席は5回以内とし、それ以上は評価の対象外とします。
- ・成績は小テスト30%、筆記試験70%として評価します。
小テストは10回程度を予定しています。小テストは練習と理解度の確認と平常の取り組みも考慮して成績に加点していきます。

その他

- ・平方根を求めることができる電卓を用意して下さい。
- ・解説と練習を適宜組み合わせ進めていきます。毎回出席をとります。欠席、遅刻のないように注意して下さい。

講義科目	: 日本国憲法 I	単位数	: 2
マークシート略	: [日本憲 I]	学習形態	: 選択科目
担当	: 飯島 滋明		

講義のねらい

私たちが日常生活を営む中で憲法の存在を意識することは、ほとんどないといってもよいだろう。例えていうならば、憲法とは、人体にとっての水や空気のようなものなのかもしれない。そして、単にそのことからすれば、私たちが憲法について日常的に意識することがないというのは、ある意味健全な社会にあるということになりそうである。

しかし、果たして本当にそうだろうか。水や空気は汚染されれば、それはその瞬間から人体に悪影響を及ぼし始め、人はそれを早晚身体で知覚することになる。けれども、同じく水や空気にあたるはずの憲法への侵害は、私たちが憲法に無関心である中で、憲法が保障する市民の基本的な人権に対して日常的かつ潜在的に行われている場合も往々にしてありうるのではないだろうか。それについて敏感であるためには、なによりも憲法という法規範が、そもそもどのような本質をもち、どのような内容・構造になっているかを常日頃から理解しておくことが不可欠となる。

この講義では、できるだけ身近な事件や問題を手がかりとして、日本国憲法が私たちの日常生活にどのようにかかわっているのかを検証していくことを目的とする。

授業計画

- 第1回 憲法とはなにか
- 第2回 日本国憲法の制定の意義
- 第3回 死刑の是非について
- 第4回 平和主義の意義
- 第5回 平和主義の現実
- 第6回 人権の種類と性質
- 第7回 人権の享有主体
- 第8回 包括的人権
- 第9回 人権の私人間効力
- 第10回 平等について
- 第11回 思想・良心の自由
- 第12回 信教の自由と政教分離①
- 第13回 表現の自由①
- 第14回 表現の自由②
- 第15回 試験

教材・テキスト・参考文献等

榎澤幸広・奥田喜道編『憲法未来予想図』(現代人文社、2014年)

成績評価方法

筆記試験の評価を基本として、その他不定期に実施する小レポートなどを加味しながら総合的に判定する。出席はとらないが、正当な理由なく欠席した際に生じた不利益については、救済の対象としないので注意すること。

その他

「自由とは、他人を害さないあらゆることをなしうること」(1789年「フランス人権宣言」4条)というのが法の基本です。講義中の私語や携帯電話には厳格に対処します。

講義科目 : 社会保障法	単位数 : 2
マークシート略 : [社会保障]	学習形態 : 選択科目
担当 : 川崎 航史郎	

講義のねらい

病気、障害、高齢、失業、育児、介護、労災などは、誰にでも生じ、これらをきっかけに容易に貧困に陥る危険がある。これらの状態に遭遇した場合でも、人間らしい生活を送ることを権利として保障するために、憲法は、生存権を保障した。社会保障法は、憲法25条生存権規定を受け、年金、医療、介護、雇用、労災保険などの社会保険制度や福祉サービス提供の仕組みを整え、生活保障を実現する法分野である。本講義は、人々の社会保障に対する権利構造と国等の社会保障実施・生存権保障義務について理解することを目的とする。

講義は、リアクションペーパーを用いて①予習②予習個所の講義③講義中、2・3の課題を示し、回答を記入する④質問や感想、復習なども記入、⑤次週以降に講師から回答を行う、という流れで行います。教科書の予習とまとめがほぼ毎週あります。

授業計画

- 第1回 権利としての社会保障受給の意義
- 第2回 社会保障の成立と発展①イギリス
- 第3回 社会保障の成立と発展②日本
- 第4回 国際化と外国籍の社会保障受給権
- 第5回 社会保障法の保障方法(社会保険、社会福祉、社会手当、公的扶助)
- 第6回 生活保護法①生活保護の実態
- 第7回 生活保護法②生活保護の給付構造
- 第8回 生活保護法③保護の補足性
- 第9回 労災補償①労災への使用者の責任
- 第10回 労災補償法②労災保険の給付内容
- 第11回 医療保障①医療制度と医療保険
- 第12回 医療保障②医療保険の給付内容
- 第13回 所得保障①年金保険の構造
- 第14回 所得保障②年金保険の給付内容
- 第15回 試験

教材・テキスト・参考文献等

講義の最初に指示します。

成績評価方法

筆記試験70%、ペーパーへの記述内容30%。

その他

積極的な授業参加ができるように、予習をすることが重要です。「労働法」と「社会福祉論」も受講することが望ましいです。自分自身や家族、友人などが必ず社会保障に関係をしています。その人から生活相談を受けたと想定し、どう答えるべきかを考えながら、講義を受けてください。

講義科目 : 地域政策論	単位数 : 2
マークシート略 : [地域政策]	学習形態 : 選択科目
担当 : 小野寺 一成	

講義のねらい

地域政策とは、地域問題を把握し、その解決を図る政策のことである。地域政策は、人口の減少・超高齢化、経済等の国際化、財政の困難等多くの課題に直面しながらも、その地域をより良くしていくよう活性化していくことを目的としている。本講義では、豊かな地域を実現するために必要な社会資本などの国土政策を中心として、県内市町村などの具体例をあげながら講義し、地域の活性化を考えていく。

授業計画

第1回	ガイダンス：地域政策とは、国土のグランドデザイン
2回	社会資本の歴史とその役割
3回	社会資本を取り巻く社会の状況
4回	今後の社会資本のあり方－維持管理－
5回	今後の社会資本のあり方－将来を見越した取り組み－
6回	社会資本に関する国土交通行政の方向
7回	観光立国と美しい国づくり
8回	中間試験
9回	東日本大震災からの復興に向けた取り組み
10回	美しく良好な環境の保全と創造
11回	安全・安心社会
12回	競争力のある社会
13回	心地よい生活空間づくり
14回	地域活性化の推進
15回	まとめと確認

※なお、授業の進捗状況によって、内容を変更することもありえる。

教材・テキスト・参考文献等

- ・基本的には、Power Point を使用した講義。ppt資料などを配布。
- ・テーマによっては、DVD 教材などの視聴覚教材の利用を予定。

成績評価方法

- ・中間試験、試験、講義後のキーワード試験をあわせて評価。
- ・1/3以上欠席した場合は評価の対象外、遅刻3回で1回の欠席とみなす。

その他

- ・授業の最後に、当日行った講義の重要なキーワードの回答を求める簡単な小試験を予定。

講義科目	: 行政学	単位数	: 4
マークシート略	: [行政学]	学習形態	: 選択科目
担当	: 立石 芳夫		

講義のねらい

少子高齢社会に対応するための安定した社会保障制度改革、財政危機に端を発する税財政改革、東日本の震災復興など、今日、日本の政治行政課題は山積している。

一般的にあって、現代社会ではさまざまな新しい社会問題が噴出してくるが、政府はそのなかから解決すべき行政課題を選択し、政策的に対応していくことになる。しかし、政府がさまざまな問題に関与すればするほど、行政制度や政策体系がいつそう複雑なものになり、その影響力も増大していく。そうなれば、一般の人びとがそれをコントロールできる余地は次第に縮小していく。

このように、巨大化・複雑化した現代行政の制度や仕組みを理解するうえで、行政学の学習は重要な水先案内人の役を引き受けてくれることになるだろう。なぜなら、行政とはさしあたり政府の活動を意味するが、行政学は、この政府の機構・組織とその活動について考察する学門だからである。いうまでもなく、行政の活動は、よかれ悪しかれ国民・市民の日常生活に大きな影響を及ぼす。それゆえ、行政について学習することは、現代人にとって「必須の教養」であるといってもいいだろう。

授業計画

下記の教科書とレジュメにそって講義を進める。テーマは、以下を予定。

- 1 講義の概要説明および序
- 2～9 福祉国家
- 10～15 行政国家、官僚制論
- 16～17 日本の政治行政制度の戦前と戦後
- 18～19 日本の議院内閣制における制度と実態
- 20～23 中央省庁とその再編
- 24～27 公務員制度とその改革
- 28～29 法案・予算の作成過程、まとめ
- 30 試験

教材・テキスト・参考文献等

テキストとして、新藤宗幸『新版 行政ってなんだろう』岩波ジュニア新書、2008年。初回の講義から使用する。

成績評価方法

試験で評価する。出欠はとらない。

その他

- * 政治行政のリアルな展開に関する主要情報は、日々ニュース報道で伝えられている。日頃からとくに新聞購読を心がけてほしい。
- * 本講義とあわせて、他の政治学関連の科目（政治学原論・地方政治論・政治史・政治思想史）の履修を勧めたい。

講義科目 : 国際関係論	単位数 : 2
マーケット略 : [国際関係]	学習形態 : 選択科目
担当 : 三瀬 貴弘	

●講義のねらい

・国際社会においてまさに今、生じている様々な問題について、政治的、経済的、文化的、歴史的背景を含めて理解する。それらを、よりよく理解するために必要となる、国際関係論の基礎的な理論、考え方を習得する。さらに、理論と現実の相互作用に注目しながら、「国際公共財」の概念を用いて、ポスト冷戦期における日米関係について考察する。

●授業計画

・毎回の講義を以下の4部で構成する。それぞれに学生に求められる役割は異なる。出席した学生が、毎回「何か」を得られるような講義にしたい。講義を通じ「興味を持ったこと」について、自主学習することを強く期待する。

- ①15分間「頭の体操」……国際関係論に関する、面白くてためになるクイズをする。地理、歴史、文化に関する楽しい問題を予定。
- ②55分間「理論講義」……授業計画に沿って、穴埋め形式のレジュメを配布、それに沿い講義する。
- ③15分間「映像資料」……国際社会で現在起こっている問題を、映像資料を用いて講義する。
- ④5分間「感想記入」……講義に対する感想、要望や質問などを記入する。

・「②理論講義」の授業計画

- | | |
|------|---------------------|
| 第1週 | オリエンテーション |
| 第2週 | 国際関係論と国際政治経済学の関係 |
| 第3週 | 国際関係論の誕生① |
| 第4週 | 国際関係論の誕生② |
| 第5週 | リアリズムとリベラリズム① |
| 第6週 | リアリズムとリベラリズム② |
| 第7週 | リアリズムの隆盛と行き詰まり① |
| 第8週 | リアリズムの隆盛と行き詰まり② |
| 第9週 | 学術的政経架橋① |
| 第10週 | 学術的政経架橋② |
| 第11週 | 覇権安定論① |
| 第12週 | 覇権安定論② |
| 第13週 | 相互依存論 |
| 第14週 | 国際政治学に基づくポスト冷戦秩序の構築 |
| 第15週 | 講義のまとめ |

・「③映像資料」は、日本の安全保障戦略、トランプの外交政策、中東問題、貧困・格差問題、世界遺産など。最新のトピックを随時取り入れる予定。

●教材・テキスト・参考文献等

参考文献 坂井昭夫『国際政治経済学とは何か』青木書店、1998年。

●成績評価方法

レポートのみでの評価を予定している（レポート100%）。

●その他

・詳細なレジュメを毎回配布するので、講義中に理解できなかった場合は、家で読み直して復習すること。また講義に関連する（読みやすい）文献を、毎回数冊紹介し、希望者にその場で貸し出す「講義図書館」を実施する。講義で感じた「何かしらの引っかかり」を契機として、関心ある問題について自主的に勉強するサイクルを確立して欲しい。

講義科目	: 日本経済論	単位数	: 2
マーケット略	: [日本経済]	学習形態	: 選択科目
担当	: 鷲尾 和紀		

講義のねらい

我が国の経済環境変化は我々にとって生活そのものを変化させている。今日家計や企業を取り巻く環境にはさまざまな課題が表出している。これらの課題に取り組むためにどう経済を読み解くのか事例を交えて解説していく。また新聞記事や各庁が発行する白書の内容が理解できるようになることを目標とする。

授業内容

第1回	ガイダンス
第2回	現代経済の仕組み
第3回	日本経済の姿・全体像
第4回	日本経済の歩み①~高度経済成長期
第5回	日本経済の歩み②~バブル経済
第6回	日本経済の歩み③~21世紀
第7回	日本経済の歩み④~次世代
第8回	企業活動①~企業とは、
第9回	企業活動②~グローバル化、IT化
第10回	労働①~今日の現状
第11回	労働②~若年者、女性の就労
第12回	少子高齢化と社会保障制度
第13回	医療・公的年金制度
第14回	経済と環境問題
第15回	まとめ、テスト

テキスト

浅子和美・飯塚信夫・篠原総一『入門・日本経済 第5版』 有斐閣,2015年3月

成績評価方法

- ・テスト
- ・出席を毎回していれば自然とテストの点数が取れます。

その他

毎回ではないが簡単な小テストまたはレポートを実施する場合があります。

パワーポイントで授業を行った場合、スライドを携帯電話でカメラ撮影することは禁止しています。

受動ではなく能動に学生が主体的に考え、教員と学生がコミュニケーションをし、また将来への意識付けができるような授業を目指します。

講義科目 :生活経営(生活経済学を含む)	単位数 :2
マーケット略 :〔生活経営〕	学習形態 :選択科目
担当 :南有哲	

講義のねらい

本講義においては、「生活」を総合的に理解する上で必須となる基本概念について検討した後、生命再生産の行き詰まりとしての「少子化」について、市場経済の仕組みや賃金論を踏まえた上で、生活者・主権者としての観点から考察していく。

授業計画

- 第1回 生活とは何か
- 第2回 生活と労働①
- 第3回 生活と労働②
- 第4回 市場経済の仕組み①
- 第5回 市場経済の仕組み②
- 第6回 賃金とは何か①
- 第7回 賃金とは何か②
- 第8回 現代日本の労働問題①
- 第9回 現代日本の労働問題②
- 第10回 格差社会について①
- 第11回 格差社会について②
- 第12回 少子化の進行とその背景①
- 第13回 少子化の進行とその背景②
- 第14回 まとめ
- 第15回 試験

教材・テキスト・参考文献等

講義中適宜指示する。

成績評価方法

- ・毎回の小レポート…50%
- ・試験…50%

その他

「生活科学概論」における南の担当分は、事実上本講義の一部分に該当する内容であるので、本講義聴講希望者は、特に注意して聴いておくこと。

講義科目 : 建築史概論	単位数 : 2
マークシート略 : [建築史論]	学習形態 : 選択科目
担当 : 菅原 洋一	建築士指定科目

講義のねらい

建築の歴史や文化、技術とその広域的な影響関係について、日本における技術意匠生活の発展と、世界的な視野による比較検討の観点から概観し、基本的な理解を得る。また、現実の都市集落や建築から、歴史と伝統の基盤に立脚した環境創造のための手がかりを得ることを目的とする。

授業計画

第1回	ヴァナキュラー建築の材料と技術、空間
2回	モニュメントと工匠、建築家の誕生
3回	西洋宗教建築におけるモニュメントの系譜
4回	日本寺院建築における建築文化の伝播と変容
5回	日本神社建築に見る建築の記念性
6回	日本近世都市の誕生
7回	日本民家の建築と暮らし
8回	西洋の都市と住宅1
9回	西洋の都市と住宅2
10回	欧米建築文化との出会い
11回	日本近代都市住宅の誕生
12回	日本近代都市の展開
13回	近代工業社会と建築の変容
14回	歴史的建築と現代社会
15回	まとめ

教材・テキスト・参考文献等

教科書：『カラー版 図説 建築の歴史』、学芸出版社、
定価 本体3000円＋税、ISBN978-4-7615-3207-9

成績評価方法

出席及びレポート、発表により総合的に評価する。

その他

理解度により進捗の予定を変更することがある。

講義科目 :被服学	単位数 :2
マークシート略 :〔被服学〕	学習形態 :選択科目
担当 :西川 光子	

講義のねらい

私たちの生活において一番身近な環境である「衣」
衣服の役割、機能、人体に及ぼす影響、生産、管理、環境問題についての知識を修得することで、何を着用するべきか、経済的で心身共に健康な衣生活を営むことを目標とする。

授業計画

以下の予定で進めていくが、進度によって若干の修正を加えることがある。

第1回	被服の起源	ひとはなぜ装うのか
第2回	被服の変遷	民族服
第3回		被服の変化と流行
第4回	被服の素材	繊維の種類と特徴
第5回		布の性能
第6回	被服の選択	被服の色彩と消費性能
第7回	被服の設計	体型に合う被服
第8回	被服と健康	被服による気候調節
第9回		動作適合性
第10回	被服の管理	品質表示と洗濯
第11回		洗剤の種類と働き
第12回	被服と環境	被服の廃棄とリサイクル
第13回	進化する被服	機能性素材
第14回	身体機能と被服	ユニバーサルデザインと装い
第15回	まとめ・確認	

教材・テキスト・参考文献等

教科書：「消費者の視点からの衣生活概論」 井上書院

成績評価方法

- ① 出席を毎回取る。6回以上欠席した場合には評価の対象外とする。
- ② 受講態度（20%）、レポート課題2回（20%）、試験結果（60%）により総合的に評価する。

その他

講義には、主に教科書を使用するが、必要に応じて適宜プリントを配布する。

講義科目 :調理学	単位数 :2
マークシート略 :〔調理学〕	学習形態 :選択科目
担当 :平島 円	

講義のねらい

食品や栄養，調理に関する知識を習得し，調理についての理論を理解し，調理についての関心度を高める。

また，おいしさの要因について理解し，おいしく食べるための知識を身につけ，実践できるようになる。

授業計画

- 第1回：おいしさに影響する要因
- 第2回：味と調味料
- 第3回：外観とテクスチャー
- 第4回：たんぱく質の調理
- 第5回：魚介類
- 第6回：食肉
- 第7回：豆・豆製品
- 第8回：卵
- 第9回：牛乳・乳製品野菜類
- 第10回：炭水化物の調理
- 第11回：穀類
- 第12回：イモ類
- 第13回：野菜
- 第14回：ゲル化材料
- 第15回：期末試験

教材・テキスト・参考文献等

楽しい食品成分のふしぎ 調理科学のなぜ？（朝日新聞出版）

成績評価方法

授業への取り組み態度30%，期末試験70%，計100%

その他

講義科目 : 福祉心理基礎演習	単位数 : 2
マークシート略 : [基礎演習]	学習形態 : 選択科目
担当 : 北村 香織	* 第1学年で履修

講義のねらい

この演習は、各自が関心のあるテーマを見つけること及び研究の方法を学ぶことを目的とする。

具体的には、各自で関心のあるテーマについて、レジュメなどを用いながらグループ報告・個人報告を行い、ゼミ内で討議するという形を基本とする。そして、二年次に取り組む卒業論文に向けて、研究課題を明確にしていくことを目指す。

また、基礎的な文章力を身につけていくこと、ゼミ内の討議を通して、意見の述べ方、聞き方について体得することを目指す。

授業計画

- 1) オリエンテーション
- 2) 研究とは何か？研究対象とは？
- 3) 各自関心テーマの検討
- 4) 各自テーマ別の報告 ーグループ
- 5) 各自テーマ別の報告 ーグループ
- 6) 各自テーマ別の報告 ーグループ
- 7) 各自テーマ別の報告 ーグループ
- 8) 施設見学 など
- 9) 施設見学 など
- 10) 各自テーマ別の報告 一個人
- 11) 各自テーマ別の報告 一個人
- 12) 各自テーマ別の報告 一個人
- 13) 各自テーマ別の報告 一個人

※なお、毎回当番を決めて自分の関心のある新聞記事や出来事について紹介する時間を設けます。

教材・テキスト・参考文献等

特に使用しない。

参考文献は適宜提示。

成績評価方法

出席、報告内容、ゼミへの参加度などを総合的に評価する。

(特に出席は重視する)

その他

演習は、受講者が中心となって創りあげていくものです。自分が考えていることをまとめる、話す、書く、人の話を聞く、ということを練習できる場ですので、積極的な参加を望みます。また、問題意識を深めるとともに、短大生活での仲間をつくる場にもなればと考えています。楽しく、みんなで自分たちのゼミを創っていきましょう。

講義科目	: 福祉心理基礎演習	単位数	: 2
マークシート略	: [基礎演習]	学習形態	: 選択科目
担当	: 武田 誠一		* 第1学年で履修

講義のねらい

- ① 社会福祉・社会保障についての、基本的な物の見方や考え方についての理解を深めることを目的とします。
- ② 調査・研究のテーマを、各人が選ぶことから始めます。
- ③ 「読む」「聞く」「話す」「考える」とおして、個人で、グループでの学習・研究の基礎を身に付けることを目的とします。

授業計画

	主な内容
1	オリエンテーション 自己紹介、演習の進め方、レポート作成の手順、 レポートの課題
2	情報収集①—大学図書館・インターネットによる情報収集— レポート課題の決定、データベースによる文献調査 (図書・雑誌論文・新聞記事など)、レポートの構成
3	情報収集②—大学図書館における情報収集の実際— 図書館資料(図書・雑誌・雑誌論文)の活用
4	レポートの作成 引用・参考文献の表記のしかた、レポートの執筆 レポートの執筆、校正
5	ハンドアウトの作成 ハンドアウト(配布資料)の作成
6	レポートの発表
7	研究報告書の作成

* なお、受講生の状況などによって内容を変更する可能性がある。

教材・テキスト・参考文献等

「新版 大学生のためのレポート・論文術」(講談社現代新書)、2009年。

成績評価方法

調査・研究の発表やゼミでの役割等を総合的に評価します。

その他

「自ら考える」「他者に伝える」、そしてメンバー相互に「学び合う」がゼミの基本です。
みんなといっしょにゼミを楽しく作り上げる、そんな意識で積極的に参加してください。

講義科目 : 福祉心理基礎演習	単位数 : 2
マークシート略 : [基礎演習]	学習形態 : 選択科目
担当 : 東福寺 一郎	* 第1学年で履修

講義のねらい

心理学の基本的領域にかかわる知見に触れ、心理学に対する理解と関心を深めることを目的とします。方法としては、心理学の基本的な文献を読んだり、ビデオを見て討論することと平行して、ゼミ生各自が興味を持つテーマについて発表することを行います。また、1～2回程実験やテストを実施し、レポートを提出してもらいます。

授業計画

- 1回目 ガイダンス、自己紹介、役割
- 2回目 心理学実験
- 3回目 文献講読（もしくはビデオ視聴）および話題提供開始

以下、文献講読（もしくはビデオ視聴）と話題提供を基本としながら、実験やテストを織り交ぜていきます。

話題提供については、1回につき1～2名が各自の興味・関心のあるテーマについて15分程度の発表と質疑・コメントを行います。発表の際には、A4サイズ1枚のレジメを用意することとします。

教材・テキスト・参考文献等

文献については追って指示します。

成績評価方法

- ① 出席を重視します。無断欠席はしないでください。
- ② 平常点とレポートに基づき評価します。

その他

演習科目であるので、主体的、積極的な受講態度を望みます。春休み中にゼミ旅行を行いたいと思います（希望者が多ければ実施）。また、大学祭に参加しますので、積極的に企画や運営してください。

春休み中に半日程度の集中ゼミを行うことがあります。

また、東福寺は今年度末をもって定年退職しますので、来年度の演習担当者については未定です。

講義科目	: 福祉心理基礎演習	単位数	: 2
マークシート略	: [基礎演習]	学習形態	: 選択科目
担当	: 長友 薫輝	* 第1学年で履修	

講義のねらい

各自が関心あるテーマを発見するサポートをしながら、学ぶための基礎を学ぶ場です。取り組むテーマは各自が自由に設定してください。社会福祉に関連するテーマ以外でも構いません。

なお、本基礎演習は次の3点を重視しています。

①受講生の自主的な行動、②グループでの協同行動を学ぶ場（他人とつながる場）、③社会人として必要な基礎的教養を身につける場、です。

授業計画(それぞれ2回程度を予定している)

- 1) 基礎研究のテーマ設定
- 2) 調査・研究の基礎その1
- 3) グループワークについて
- 4) グループワーク実践
- 5) 調査・研究の基礎その2
- 6) 研究報告
- 7) 研究報告書の作成

*なお、受講生の状況などによって内容を変更する可能性があります。

教材・テキスト・参考文献等

参考文献や資料は必要に応じて、講義時に配付します。

成績評価方法

自らのテーマについてのゼミ発表や、ゼミへの積極的な参加度などを総合し評価します。

その他

「楽しく・おもしろく」が私の担当する演習の大原則です。そして、「時には少し真面目に」社会の出来事や生活の身の回りのことなどを取り上げて考えてみましょう。

講義科目 : 社会福祉論 I	単位数 : 2
マークシート略 : [社福論 I]	学習形態 : 選択科目
担当 : 長友 薫輝	社会福祉士必修科目

講義のねらい

社会福祉の理念とその進展、概念の理解を通じて、社会福祉の役割について十分に理解させることを目的とする。さらに、実際に援助者として社会福祉の対象と援助、援助形態についての基本的理解を求める。また、社会福祉の取り組むべき対象とする課題は何か、その課題に対してどのような援助が存在するのかといったことについて理解させる。

授業計画

- 1) 社会福祉とは その 1
- 2) 社会福祉とは その 2
- 3) 社会福祉の理念とその進展（人権の尊重、権利擁護、自立支援など）その 1
- 4) 社会福祉の理念とその進展（人権の尊重、権利擁護、自立支援など）その 2
- 5) 社会福祉の概念 その 1
- 6) 社会福祉の概念 その 2
- 7) 社会福祉の範囲
- 8) 社会福祉の意義、役割 その 1
- 9) 社会福祉の意義、役割 その 2
- 10) 社会福祉の対象 その 1
- 11) 社会福祉の対象 その 2
- 12) 社会福祉の援助 その 1
- 13) 社会福祉の援助 その 2
- 14) 社会福祉の援助形態
- 15) 社会福祉の方法

*なお、受講生の状況などによって内容を変更する可能性がある。

教材・テキスト・参考文献等

教科書：追って指示する。

上記以外の参考文献や資料は必要に応じて、講義時に指示または配付する。

成績評価方法

①毎回の講義時の小レポート、②小テスト（2回程度）、③筆記試験を総合的に評価する。

その他

講義科目 : 社会福祉論Ⅱ	単位数 : 2
マークシート略 : [社福論Ⅱ]	学習形態 : 選択科目
担当 : 脇田 愉司	社会福祉士必修科目

講義のねらい

社会福祉への幅広い関心（面白さと深さ）を誘いながら、社会福祉の具体的各分野を取り上げる中で、私たちの暮らしをめぐる社会福祉各領域の問題・課題や今後の方向性などを考えていくことを目的とする。

あわせて、現実の生活・暮らしにつながるテーマを設定して、①社会福祉の目指すものとは何か、②社会福祉の理念と実際の差異はどこにあるのかなど、日常の足元でおこる身近な問題として学び深めていくことにする。

授業計画

基本的には、次のようなテーマを設定しながら、講義を進めていく。

- 第1回 オリエンテーション、「福祉とは、学ぶとは」「福祉を学ぶとは」
- 第2回 「人間の生命の3つの本性」「ささえあいの人間学」
- 第3回 「現代の姥捨山問題」、「檜山節考」を考える
- 第4回 「福祉国家、社会保障、社会福祉とは」
「社会福祉とニード」－社会福祉の対象とは何か
- 第5回 「社会福祉の思想のルーツ（原型）と原理－歴史的展開」
- 第6回 「この国の社会福祉の歴史」野本三吉著『社会福祉事業の歴史』から
- 第7回 「老いと生い（おい）－介護保険の光と陰」、
「痴呆（認知症）を生きるということ」
- 第8回 「障害、障害者とは何か」、「障害学」とは何か
- 第9回 「貧困・不平等・社会福祉－生活保護の現場から考える」
- 第10回 「風になれ！子どもたち－児童福祉の風景」、児童虐待とは
- 第11回 「地域福祉とコミュニティ共同体的かなたへ」
- 第12回 「地域福祉の創造－ボランティアとNPO活動」
- 第13回 「社会福祉の目指すもの～ノーマリゼーション思想と共生の思想」
- 第14回 「現代社会のゆくえ－魂に触れる福祉の世界」
- 第15回 まとめと確認（レポート等）

教材・テキスト・参考文献等

教科書は「社会福祉原論」講義ノート（私家版）。随時、資料を配布する。

参考書は次のとおり。

『社会福祉事業の歴史』 野本三吉著 明石書店 1998年

成績評価方法

出席、レポートなどにより、総合的に評価する。概ね、出席30%、レポート70%の配分。出席を重視し、原則として、5回以上の欠席は評価外。

毎回、講義終了後に、講義の感想等のアンケートを徴取する。

その他、学生へのメッセージ

ひとは何故他者を助けたりするのか、そもそもどうしてひとは他人を支えたりしようとするのか。「福祉を哲学する」ことをベースに、福祉の「内的衝動」を探っていく中で、生きることや学ぶ意味、「生命（いのち）はいのちでしか語れないこと」（いのち論）などを共に考えていきたい。また、「覚える」ことに止まらない、なぜなのかという「考える」ことを重視していきたい。

講義科目	: 老人福祉論	単位数	: 4
マークシート略	: [老人福祉]	学習形態	: 選択科目
担当	: 田中 武士		社会福祉士必修科目 教職選択科目 ()

講義のねらい

日本の総人口1億2,693万人（平成28年10月1日現在）のうち、65歳以上の高齢者人口は3,459万人、総人口に占める割合（高齢化率）は27.3%と増加しています。また、認知症のある高齢者は500万人に迫る勢いです。高齢者世帯における経済面や健康面における格差はますます拡大し、「介護殺人・心中」や「孤独死」などの問題も引き起こされています。果たして高齢者やその家族を取り巻く環境はどのようになっているのでしょうか。現代社会における高齢者の尊厳ある生活のあり方について考えます。

授業計画

1. オリエンテーション
2. 現代社会における医療や介護、福祉に関する諸問題にふれる（1）
3. 事例の状況把握と理解
4. 現代社会における医療や介護、福祉に関する諸問題にふれる（2）
5. 事例の状況把握と理解
6. 高齢者の特性（身体、精神的変化）
7. 健康の社会的決定要因
8. 高齢者の保健医療福祉にかかわる歴史と制度（1）
9. 高齢者の保健医療福祉にかかわる歴史と制度（2）
10. 高齢者にかかわる関係法規
11. 介護保険制度（1）
12. 介護保険制度（2）
13. 高齢期における「自立」
14. 戦争と高齢者
15. 前期のまとめ
16. 後期オリエンテーション
17. 高齢者施策をめぐる最近の動向
18. 高齢者虐待（1）
19. 高齢者虐待（2）
20. 高齢者支援の方法（1）
21. 高齢者支援の方法（2）
22. 権利擁護（1）
23. 権利擁護（2）
24. 当事者から学ぶ（1）
25. 当事者から学ぶ（2）
26. 認知症のある人の意思決定（1）
27. 認知症のある人の意思決定（2）
28. 専門職の倫理
29. 高齢者の生活保障
30. 全体のまとめ

※受講生の状況によって内容を変更することがある。

<教材・テキスト>

指定のテキストは使用しない。適宜、レジюмеや資料を配布。

<参考文献>

- ・ 鷺田清一（2015）『老いの空白』岩波書店
- ・ クリスティーン ボーデン（2003）『私はだれになっていくの？－アルツハイマー病患者からみた世界』クリエイツ

※他にも随時紹介する。

<成績評価方法>

- ・ 授業への参加姿勢、毎授業終了後の小レポートを重視（50%）
- ・ 期末レポート（50%）

<その他>

主体的な授業への参加を求める。

講義科目 : 障害者福祉論	単位数 : 2
マークシート略 : [障害福祉]	学習形態 : 選択科目
担当 : 北村 香織	社会福祉士必修科目

講義のねらい

この講義では、「障害」を社会との関係でとらえていくことによって、「障害」とは何か、「障害者」とは誰のことを指すのか、自分の生活と「障害者福祉」がどのようなかかわりを持つのかを学ぶ。

講義中はビデオや資料を積極的に使用し、障害のある人の生活に目を向けると同時に、障害に関する正確な知識を身につけることを目的とする。

授業計画

- 1) オリエンテーション
- 2) 「障害」概念について
- 3) 障害がある人の生活 (障害のある子どもと家族)
- 4) 障害がある人の生活 (身体障害とは?)
- 5) 障害がある人の生活 (知的障害とは?)
- 6) 障害がある人の生活 (精神障害とは?)
- 7) 障害がある人の生活 (発達障害とは?)
- 8) 障害者総合支援法
- 9) 障害者差別解消法
- 10) 障害がある人の生活を支えるサービス体系
- 11) 障害に対する社会意識—偏見・スティグマ・差別
- 12) 障害者福祉を支える理念・思想 1
- 13) 障害者福祉を支える理念・思想 2
- 14) 障害者虐待について考える—権利を守るとは
- 15) まとめ

教材・テキスト・参考文献等

小澤温編『よくわかる 障害学』ミネルヴァ書房。

参考文献は適宜提示。資料は必要に応じて配布。

成績評価方法

小テスト：10%、試験：90%。

その他

出席は重視しません。講義へは自分のために出席して下さい。

自分の周りには想像しているよりも多く「生きづらさ」を抱えて人がいるということを知り、「障害」とは何か?ということや、自分が「障害」をどうとらえているのかということに向き合って考えて欲しいと思います。そして、自分の考えや態度が人々にとって生きやすい社会を創ることにつながっていることを実感してもらえればと思います。障害のある人々を支える制度についても学んでいきます。正解はありません。一緒に考え、講義を創っていただけることを期待しています。

系列 : 専修科目	講義科目 : 児童福祉論	単位数 : 2
専修第一分野	マークシート略 : [児童福祉]	学習形態 : 選択科目
生活福祉・心理コース	担当 : 笠松 成夫	社会福祉士必修科目
開設 : 前期		教職選択科目

講義のねらい

- 1 現代社会における児童の成長・発達と生活実態について理解すると共に、児童福祉の社会的背景における愛着・愛着障害・虐待・DVについて理解する。
- 2 現代社会における児童福祉の理念と意義について理解する。又、子どもへの自尊感情を子育ての中でどう組み入れるか、子どもへの自信、子育て環境を親が確保していくには…子どもは言うようにはならず親のするようになる…その方法を皆で学ぶ。
- 3 人生と社会を左右する乳幼児期のケア「妊娠からの3年が重要」現代の子育てを考える。
- 4 児童家庭の福祉・保健・医療に関わる施策を理解する。
- 5 国は「児童福祉法及び児童虐待の防止等に関する法律」を一部改正する法律（平成29年6月14日成立）更に「新しい社会的養育ビジョン」（平成29年8月2日厚生労働省より公表）の理解とその課題

授業計画

以下の予定で進めていくが、進み具合によって若干の修正を加えることがある。また、やむを得ず休講した場合には原則として補講で対応する。

- 第1回 現代社会と児童：人間の成長・発達と児童・家族と児童・社会と児童
- 第2回 現代社会と児童福祉：児童福祉理念の発達・概念と範囲
- 第3回 現代社会と子ども家庭：現代社会と子ども家庭環境の問題・子ども育ち、愛着
- 第4回 子ども家庭に関わる福祉・保健：ひとり親家庭の福祉・児童健全育成・保育
- 第5回 児童の権利及び児童虐待：児童虐待の原因とその現状・養護施設とケース
- 第6回 児童の権利及び児童虐待：児童虐待と発達障害・心の成長
- 第7回 児童の権利及び児童虐待：児童虐待とトラウマ・DV・デートDV
- 第8回 児童の権利及び児童虐待：児童虐待防止と家庭支援等をグループワークする
- 第9回 児童の福祉需要の把握方法とその具体内容：把握方法・具体内容
- 第10回 児童福祉に関する法の目的、対象及びサービスの体系とその具体的内容：児童福祉法・母子及び寡婦福祉法・母子福祉法・その他関連法規
- 第11回 児童に対する保健・医療・福祉サービスの現状：在宅サービス・福祉サービス
- 第12回 児童のための地域及び住環境の整備と福祉用具：地域及び住環境の整備・福祉用具
- 第13回 児童福祉及び関連分野の組織・専門分野及びその連携のあり方：組織・専門職
- 第14回 児童に対する相談援助活動：相談援助活動をすすめるうえでの留意点・具体的事例とジェノグラム・エコマップ
- 第15回 まとめと確認

教材・テキスト・参考文献 教科書は使用しない。参考文献は適宜紹介するが、以下3点を示す。

- ① 西澤 哲 子どもの虐待と被虐待児への臨床心理的アプローチ
- ② 子ども虐待の防止とケア研究会 編著 子ども虐待の防止とケアのすべて 第一法規
- ③ 子ども虐待虹情報センター「1890年代別子ども虐待」

成績評価法

1, 出席を毎回取る。5回以上欠席した場合には評価の対象外とする。 2, レポート及び小レポート

その他（学生へのメッセージ） →子育ての分野で親子の絆、愛着、子育て環境について考え、これからの社会をどう見直し、学生が青年期を迎え子育てしやすい社会作りとは何かを創作していきたい。また児童虐待の相談受理件数が平成28年度で12万件を超える等、子どもの権利侵害の状況は深刻化しており、犠牲になった子どもの心身の回復や自立支援を含めて社会的養護の体制整備、実践に充実が課題となっている。社会的養護の対象となる約4万6千人（平成28年1月現在）児童養護施設実態・ケースに触れ、虐待や貧困の連鎖を断つ…には、その取り巻く環境の中で大人として子どもへのモデル化をどのようにしていければいいか、グループワークで一人ひとりの意見を出し合って人間関係と深めていきたい。

講義科目 : 社会保障論 I	単位数 : 2
マークシート略 : [社保論 I]	学習形態 : 選択科目
担当 : 長友 薫輝	社会福祉士必修科目

講義のねらい

私たちの生活を支えている社会保障の成立過程の理解を土台とし、現状と課題を分かりやすく説明し体系的に社会保障を理解させることを目的とする。

あわせて現行の5つの社会保険のうち、本科目では医療保険、年金保険、雇用保険、労災保険を中心に講義する。

授業計画

第1回	社会保障、社会福祉の定義
第2回	社会保障の歴史～欧州編1～
第3回	社会保障の歴史～欧州編2～
第4回	資本主義社会と社会保障その1
第5回	資本主義社会と社会保障その2
第6回	年金保険その1（年金保険の現状）
第7回	年金保険その2（年金保険の課題）
第8回	年金保険その3（社会保障協定）
第9回	雇用保険の現状と課題
第10回	労災保険の現状と課題
第11回	働く時のルールを知る（雇用、労働の現状と課題）
第12回	公的医療保険と民間医療保険
第13回	皆保険体制下での医療保険の現状
第14回	医療保険の課題
第15回	これからの社会保障

*受講生の状況等によって進行速度を調整するため、内容を変更することがあります。

教材・テキスト・参考文献等

<教科書>

長友薫輝編著『長友先生、国保って何ですか』自治体研究社、2013年

<参考資料>

参考資料等は適宜、配付する。

成績評価方法

①毎回実施する小レポート、②2～3回程度実施する小テスト、③筆記試験を総合的に判断し評価する。

その他、学生へのメッセージ

本講義はみなさんにとって聞き慣れない用語を使用しなければなりません、みなさんにとってこの社会で生きる上で必要な知識、知見ばかりです。できるだけわかりやすく講義することに努めたいと思います。

講義科目 : 社会保障論Ⅱ	単位数 : 2
マークシート略 : [社保論Ⅱ]	学習形態 : 選択科目
担当 : 長友 薫輝	社会福祉士必修科目

講義のねらい

「社会保障論Ⅰ」において社会保障の歴史、社会保障の体系等を学んだ学生を対象に、公的扶助（生活保護）との関係性、社会政策の構造的理解の促進を図り、社会保障のそれぞれの制度や施策に対する理解をさせる。

また、ソーシャルワーカーとして社会保障の最低限の知識、知見を身につけるとともに、社会保険の中でも介護保険、医療保険を中心に現行制度の把握ができるようにする。

なお、「社会保障論Ⅰ」を履修した者のみを対象とします。

授業計画

- 第1回 社会保障の成立過程
- 第2回 年金保険その1
- 第3回 年金保険その2
- 第4回 年金保険その3
- 第5回 公的扶助との関係性から社会保障を理解する
- 第6回 最低賃金との関係性から社会保障を理解する
- 第7回 社会政策と社会保障その1
- 第8回 社会政策と社会保障その2
- 第9回 地域包括ケア構想と介護保険
- 第10回 介護保険その1
- 第11回 介護保険その2
- 第12回 介護保険と医療保険その1
- 第13回 介護保険と医療保険その2
- 第14回 地域医療と介護
- 第15回 これからの社会保障

*受講生の状況等によって進行速度を調整するため、内容を変更することがあります。

教材・テキスト・参考文献等

<教科書>

参考資料等は適宜、配付する。

<参考資料>

長友薫輝編著『長友先生、国保って何ですか』自治体研究社、2013年

成績評価方法

①毎回実施する小レポート、②2～3回程度実施する小テスト、③筆記試験を総合的に判断し評価する。

なお、「社会保障論Ⅰ」を必ず履修してください。

講義科目 : 公的扶助論	単位数 : 2
マークシート略 : [公的扶助]	学習形態 : 選択科目
担当 : 脇田 愉司	社会福祉士必修科目

講義のねらい

ソーシャルワーカーにとっての貧困問題について、貧困を深く理解すること、貧困問題に直接対応する制度である公的扶助（生活保護）制度を正確に把握すること、公的扶助制度を資源として利用した援助のあり方を学ぶことを目的とする。あわせて、わが国の公的扶助の仕組みに対する制度疲労が言われる中で、改めて基本原理や実施過程、関連の低所得者対策にも触れるとともに、公的扶助制度の歴史や福祉国家における役割、諸外国との比較を通して、今後の公的扶助のあり方を展望していく。

授業計画

基本的には、次のようなテーマを設定しながら、講義を進めていく。

- 第1回 オリエンテーション、「福祉とは、公的扶助（生活保護バッシング）とは」
- 第2回 公的扶助とソーシャルワーカー
- 第3回 貧困・低所得者問題とは何か
- 第4回 福祉国家と公的扶助
- 第5回 わが国の公的扶助（生活保護制度）の歴史
- 第6回 生活保護制度の原理原則（生存権）、保護基準
- 第7回 生活保護の実施体制と援助方法
- 第8回 福祉事務所の組織・運営、生活保護における援助活動
- 第9回 被保護層の動向と課題
- 第10回 新しい貧困対策法の成立（子どもの貧困対策法ほか）
- 第11回 低所得・貧困層への自立支援政策（自立支援プログラム）
- 第12回 生活保護法改正と生活困窮者自立支援法制定
- 第13回 低所得・貧困層への他の政策（ホームレス自立支援政策等）
- 第14回 これからの公的扶助とソーシャルワーカー
- 第15回 まとめと確認（レポート等）

教材・テキスト・参考文献等

教科書は、次のとおり指定する。

『公的扶助論（第3版）』－低所得者に対する支援と生活保護制度－
岩田正美・杉村宏編著 ミネルヴァ書房 2016年

参考書は次のとおり。適宜追加の資料を配布する。

『貧困問題とソーシャルワーク』社会福祉基礎シリーズ⑩公的扶助論 有斐閣

成績評価方法

出席、レポートなどにより、総合的に評価する。概ね、出席30%、レポート70%の配分。出席を重視し、原則として、5回以上の欠席は評価外。

毎回、講義終了後に、講義の感想等のアンケートを徴取する。

その他、学生へのメッセージ

今の「生活保護バッシング、セーフティネットのゆらぎ等」はどこからきているのか。人間にとって「貧困」とはどのようなことを意味するのか。「この世に一人の不幸な人間がいる限り、この世界は不正義である」という視点から、共に考えていきたい。

講義科目 : 地域福祉論 I	単位数 : 2
マーケット略 : [地福論 I]	学習形態 : 選択科目
担当 : 水谷 久	社会福祉士必修科目

講義のねらい

地域福祉における住民参加型福祉の創造と住民主体の地域福祉の創造が、地方自治体で模索されています。この授業では、地域福祉の理念や歴史、地域における高齢者・児童・障がい者の生活と暮らしに焦点をあて、すべての人が安心して暮らせる地域づくりについて学びながら、地域福祉にかかわる地方自治体・社会福祉法人・社会福祉協議会、住民組織・NPO・ボランティアなどの機関・団体の役割と機能、その現状・課題について理解を深めます。

授業計画

第1回	地域福祉の基本的な考え方	(授業内容の説明)
第2回	地域福祉活動について	(地域福祉と福祉活動計画について)
第3回	地域福祉活動について	(地域社会の変化)
第4回	地域福祉活動計画について	(社会福祉協議会が取り組む内容例)
第5回	障がい者の地域生活の課題	(地域で支えるネットワーク)
第6回	地域福祉の課題	(地域交流と地域福祉の推進)
第7回	地域福祉の課題	(健康管理対策の充実)
第8回	地域福祉の課題	(子どもを取り巻く療育・教育の充実)
第9回	社会福祉の制度	(日本の社会福祉制度の特徴)
第10回	地域自立支援協議会	(地域自立支援協議会の概要)
第11回	地域自立支援協議会	(地域自立支援協議会の役割)
第12回	地域の役割	(自助・共助・公助)
第13回	障がい者が地域で犯罪を犯したとき	(地域社会に求められるもの)
第14回	障がい者の地域生活について	(地域生活と障害基礎年金について)
第15回	住み慣れた地域での生活	(地域福祉のまとめ)

教材・テキスト・参考文献等

- ・講義については、それぞれの單元ごとに必要なプリントを作成し、授業を進めていく予定です。国家試験対策として、新・社会福祉士養成講座第9巻「地域福祉の理論と方法」(中央法規出版)を紹介しておきます。

成績評価方法

- ・この科目の評価は ①授業態度・出欠状況 ②課題レポート又は筆記試験により総合評価を行います。
- ・5回以上欠席した場合は、評価の対象外とします。

その他

- ・自らの居住する地域に関心を持って受講していただくことを願います。
- ・授業の状況により、内容を変更することもあります。

講義科目 : 地域福祉論Ⅱ	単位数 : 2
マークシート略 : [地福論Ⅱ]	学習形態 : 選択科目
担当 : 長友 薫輝	社会福祉士必修科目

講義のねらい

本講義は地域福祉論Ⅰに続き、地域で生じている様々な問題について社会福祉と連結させて分析を図るものである。

まちづくりを担う一員として、学生の積極的参加をもとに福祉のまちづくりの実例などを紹介し、地域福祉の援助技術についても理解させ、地域福祉の課題、展望について検討する。

授業計画

- | | |
|-----------------|-----|
| 1) 地域福祉とまちづくり | その1 |
| 2) 地域福祉とまちづくり | その2 |
| 3) 地域福祉とまちづくり | その3 |
| 4) 地域格差の実態 | その1 |
| 5) 地域格差の実態 | その2 |
| 6) 地域調査と生活実態 | その1 |
| 7) 地域調査と生活実態 | その2 |
| 8) まちづくりへの主体的参加 | その1 |
| 9) まちづくりへの主体的参加 | その2 |
| 10) 担い手となって支える | その1 |
| 11) 担い手となって支える | その2 |
| 12) 地域福祉の課題 | その1 |
| 13) 地域福祉の課題 | その2 |
| 14) 地域福祉の展望 | その1 |
| 15) 地域福祉の展望 | その2 |

*なお、受講生の状況などによって内容を変更する可能性がある。

教材・テキスト・参考文献等

岡田知弘『行け行け！わがまち調査隊～市民のための地域調査入門～』自治体研究社、2009年

成績評価方法

毎回の講義時の小レポートと、小テスト、**定期**試験を総合的に評価する。

その他

① 地域福祉論Ⅰを受講し、単位取得した者のみ受講を認める。

② 自らの居住する地域に対する関心を持って受講すること。また、単位取得は容易ではなく、受講生には積極的な授業への参加を求める。

講義科目	: 社会福祉援助技術総論	単位数	: 4
マーケット略	: [援助総論]	学習形態	: 選択科目
担当	: 武田 誠一		社会福祉士必修科目

講義のねらい

ソーシャルワークと呼ばれる専門的援助実践・専門職の実情や役割および機能、多様な実践の共通課題、その歴史的経過や諸理論を学ぶことを通じて、社会福祉実践におけるソーシャルワークを理解するとともに、専門的援助者としての視点の涵養をはかることを目標とする。

授業計画

1	オリエンテーション (授業の進め方、評価方法の説明、学びの内容)	16	母子とソーシャルワーク
2	地域を基盤としたソーシャルワーク	17	母子とソーシャルワーク
3	地域を基盤としたソーシャルワーク	18	地域とソーシャルワーク
4	地域を基盤としたソーシャルワーク	19	地域とソーシャルワーク
5	ソーシャルワークの価値・倫理・定義	20	医療とソーシャルワーク
6	ソーシャルワークの価値・倫理・定義	21	医療とソーシャルワーク
7	ソーシャルワークの歴史	22	生活保護行政とソーシャルワーク
8	高齢者とソーシャルワーク	23	生活保護行政とソーシャルワーク
9	高齢者とソーシャルワーク	24	生活困窮者とソーシャルワーク
10	障害者(身体・知的)とソーシャルワーク	25	生活困窮者とソーシャルワーク
11	障害者(身体・知的)とソーシャルワーク	26	学校教育とソーシャルワーク
12	精神障害者とソーシャルワーク	27	学校教育とソーシャルワーク
13	精神障害者とソーシャルワーク	28	司法とソーシャルワーク
14	児童とソーシャルワーク	29	司法とソーシャルワーク
15	児童とソーシャルワーク	30	まとめと確認

教材・テキスト・参考文献等

使用テキスト

金子絵里乃 編『ソーシャルワーク』、弘文堂、2016年。

参考書

授業時に適宜紹介する。

成績評価方法

ふりかえり、まとめと確認、授業レポートなどを基に総合的に評価します。

その他

ソーシャルワークに関する基礎的な科目です。

基本的な知識や態度についてしっかりと身につけてください。

時間割の「社会福祉援助技術総論a」、「社会福祉援助技術総論b」両方の受講が必要です。

講義科目 : 社会福祉行財政論	単位数 : 2
マークシート略 : [福祉行財]	学習形態 : 選択科目
担当 : 村瀬 博	社会福祉士必修科目

講義のねらい

社会福祉の法制度・財政制度のしくみを理解することは、「社会人として生活する」うえで不可欠と考える。とりわけ、福祉専門職にとって、福祉の実践現場がどのような制度や財政によって規定されているのかを理解することは、広い視野から問題をとらえ解決を図る上で極めて重要である。

制度を歴史的な視点で捉えること、社会保障基礎構造改革といわれる大転換の意味を考えること、の二つを問題意識として共有しながら理解を深めることができれば、と考えている。

授業計画

以下の予定で進めていくが、進み具合により、修正を加える場合がある。

ドキュメンタリー番組や実際に起きた事件に関するビデオ鑑賞による学習も取り入れたい。

- 第1回 社会福祉制度とは～実際の事件から考える (1)
- 第2回 社会福祉制度とは～実際の事件から考える (2)
- 第3回 戦前の社会福祉制度の展開
- 第4回 戦後の社会福祉制度の展開 (1)
- 第5回 戦後の社会福祉制度の展開 (2)
- 第6回 社会保障基礎構造改革
- 第7回 格差に関する指標
- 第8回 税と社会保障による再分配機能
- 第9回 生活保護に関する事件からの考察 (1)
- 第10回 生活保護に関する事件からの考察 (2)
- 第11回 社会福祉財政のしくみ
- 第12回 社会福祉行政の組織・構造
- 第13回 社会福祉援助の実際
- 第14回 社会福祉計画の意義 (介護保険事業計画等)
- 第15回 まとめ

教材・テキスト・参考文献等

授業は、講師作成のレジュメにより進める。

参考文献は、下記のほか、授業において別途紹介する。

- ① 社会福祉士養成講座編集委員会「福祉行財政と福祉計画」(中央法規)
- ② 唐鎌直義「脱貧困の社会保障」(旬報社)
- ③ 稲葉剛「生活保護から考える」(岩波新書)
- ④ 神野直彦「財政のしくみがわかる本」(岩波ジュニア新書)
- ⑤ 河合克義「老人に冷たい国・日本」(光文社新書)
- ⑥ 稲葉剛ほか「ここまで進んだ! 格差と貧困」(新日本出版社)

成績評価方法

レポート及び出席回数(1/3を超える欠席の場合は評価の対象外)等により総合的に評価する。

講義科目	: 医療福祉論	単位数	: 2
マークシート略	: [医療福祉]	学習形態	: 選択科目
担当	: 武田 誠一		社会福祉士必修科目

講義のねらい

保健医療サービス、医療保険制度（診療報酬制度に関する内容を含む）を体系的に学び、保健・医療分野でのソーシャルワーカーの役割を理解する。

また、福祉サービス及びこれに関連する専門職の役割、多職種協働について理解することを目標とする。

授業計画

1	オリエンテーション 医療福祉とは何か	9	保健医療サービスの概要と機能分化
2	保健医療実践現場での ソーシャルワーク	10	在宅医療と地域医療連携
3	医療ソーシャルワークの具体的展開 「医療ソーシャルワーカー業務指針」	11	保健医療サービスにおける 専門職の役割と実際
4	医療ソーシャルワークの対象者理解	12	医療ソーシャルワークの実践(1)
5	医療ソーシャルワークに必要な 医療保険制度の理解-1	13	医療ソーシャルワークの実践(2)
6	医療ソーシャルワークに必要な 医療保険制度の理解-2	14	医療ソーシャルワークの実践(3)
7	医療ソーシャルワークに必要な 診療報酬制度の理解-1	15	まとめと確認
8	医療ソーシャルワークに必要な 診療報酬制度の理解-2		

教材・テキスト

中島裕 編 「保健医療サービス」 ミネルヴァ書房、2017年。

参考文献等

『人は、永遠に輝く星になれない』山田宗樹，小学館文庫、2011年。

『医療ソーシャルワーカーのカー-患者と歩む専門職』村上須賀子（他），日本医療ソーシャルワーク学会，2012。

『これがMSWの現場です-医療ソーシャルワーカーの全仕事 心に寄り添う技術ケーススタディ40』菊地 かほる，医学通信社，2010。

成績評価方法

まとめと確認	40%
ミニレポート	30%
新聞レポート	30%
計	100%

評価は、まとめと確認、ミニレポート、新聞レポートを基に評価します。

その他

日ごろから医療保険制度・社会保障制度に関する報道などに関心を持っていると講義を理解する手助けになると思います。 *原則2年生を対象とします。

講義科目 : 介護概論	単位数 : 2
マーケット略 : [介護概論]	学習形態 : 選択科目
担当 : 田中 武士	社会福祉士必修科目

講義のねらい

「介護」という言葉にはどのような意味があるのでしょうか。この言葉の意味を広く捉え、人間の尊厳とは何かについて考えます。人々の生活における「自立」（「自律」）の意義を検討しながら、関連する制度や施策を学びます。現代におけるケアのあり方について、高齢者や子ども、障がいのある人など分野を横断して学習を深めていきます。

授業計画

- ① オリエンテーション
- ② 介護とは何か（１）
- ③ 介護とは何か（２）
- ④ ケアをめぐる現状と課題（１）
- ⑤ ケアをめぐる現状と課題（２）
- ⑥ ケアにおける倫理（１）
- ⑦ ケアにおける倫理（２）
- ⑧ 専門職による協働
- ⑨ 高齢者介護の現場から考える（１）
- ⑩ 高齢者介護の現場から考える（２）
- ⑪ 障がい児・者へのケア（１）
- ⑫ 障がい児・者へのケア（２）
- ⑬ 人間の尊厳と自立（１）
- ⑭ 人間の尊厳と自立（２）
- ⑮ まとめ

*受講生の状況によって内容を変更することがある。

*討論と発表を重視する。

<教材・テキスト>

指定テキストは使用しない。適宜、レジュメや資料を配布。

<参考文献>

- ・ 広井良典編（2013）『ケアとは何だろうかー領域の壁を越えて』ミネルヴァ書房
- ・ ファビエンヌ ブルジュール（2016）『ケアの社会 個人を支える政治』風間書房

<成績評価方法>

- ・ 授業への参加姿勢、毎授業終了時の小レポートを重視（50％）
- ・ 期末レポート（50％）

<その他>

主体的な授業への参加を求める。

講義科目 : 社会福祉発達史	単位数 : 2
マークシート略 : [発達史]	学習形態 : 選択科目
担当 : 北村 香織	

講義のねらい

イギリスと日本における社会福祉（思想・政策・事業）の歴史的展開を考察する（特にイギリスを重点的に扱う）。

現在、政治においても社会福祉を含む社会保障制度の在り方は大きな争点となっている。この講義では、その現状を的確にとらえ、最善の判断をし、さらに新しい仕組みを創造していく為の基礎的な力と視点を養うことを大きな目標としている。

そのため、随時時事問題も取り入れながら講義を進め、理解を深める。私たちの生活と密接に関わる制度であり取り組みでもある社会福祉の成り立ちを学び、先人のあゆみから、自分たちが生きている社会の特徴及び自身の置かれている社会的状況を知る手がかりをつかんでもらいたい。

授業計画

- 1) オリエンテーション — 歴史を学ぶということ
- 2) 社会福祉の原型 （前史）
- 3) イギリス：社会変動と労働者立法の成立
- 4) イギリス：救貧法の成立過程 — エリザベス救貧法までの道のり
- 5) イギリス：貧困の原因は何か — 救済の責任はどこに
- 6) イギリス：救済基準の設定 — スピーナムランド制度
- 7) イギリス：社会調査 — 貧困の把握と貧困を見る眼
- 8) イギリス：新救貧法成立に影響を与えた思想・著作
- 9) イギリス：社会の仕組みと生活
— 労働組合の成立（ウェップ夫妻の思想をてがかりに）
- 10) イギリス：社会保障制度の成立 — ベバリッジ報告
- 11) 日本：人物から学ぶ慈善事業・社会事業（1）
- 12) 日本：人物から学ぶ慈善事業・社会事業（2）
- 13) 日本：社会事業の成立から厚生事業へ
- 14) 日本：50年勸告と現在の社会福祉政策
- 15) まとめ

教材・テキスト・参考文献等

テキストは使用しない。資料を毎回配布する。

参考文献は講義中に紹介する。

成績評価方法

試験90%、出席10%で評価する。

感想提出をもって出席とみなす（感想の内容は評価の対象外）。

その他

歴史といっても、あまり堅苦しく考えずに受講して下さい。現在につながる歴史を楽しんでもらいながら、現状を知るための手がかりをつかんでいただければと思います。また、講義は教員と受講者双方で創るものです。積極的な授業参加と授業環境保持を求めます。

講義科目	:心理学概論	単位数	:2
マークシート略	:[心理概論]	学習形態	:選択科目
担当	:東福寺 一郎		

講義のねらい

一般的には「心理学＝臨床心理学」のイメージが強いと考えられますが、心理学がカバーする領域はきわめて広いものがあります。本講義では、心理学の初学者としての基本的素養を身につけることを目的とします。また、受講生には毎回課題を提示し、授業終了後にその提出を求めます。さらに、ビデオ視聴や簡単な実験・テスト等を織り込み、興味を持って学習できるような工夫をしていきます。

授業計画

以下の予定で進めていきますが、進み具合によって若干の修正を加えることがあります。また、職務上休講が見込まれます。その際は、原則として、補講により対応します。

- 第1回 心理学いろいろ クイズ形式で心理学に関するトピックスを紹介
- 第2回 心理学にまつわるウソ、ホント 「狼少女はいなかった」より
- 第3回 心理学の歴史と研究法
- 第4回 見ることの不思議 様々な現象の紹介と錯視の実験
- 第5回 感覚と知覚 感覚や知覚の仕組みについて
- 第6回 ヒトの心の特徴 進化心理学の視点から
- 第7回 学習について 学習にかかわる様々な考え方
- 第8回 行動分析の考え方 スキナーの行動分析の基礎
- 第9回 認知心理学について 認知心理学の基礎
- 第10回 人の記憶過程 3段階モデルに基づいて人の記憶過程を考える
- 第11回 パーソナリティについて パーソナリティ研究の紹介とエゴグラム
- 第12回 環境心理学の話 デザインやまちづくりと心理学
- 第13回 人の空間利用の話 簡単な実験を織り込んで
- 第14回 予備日もしくは心理テストの体験 いくつかの心理テストを体験します
- 第15回 最終試験と解説

教材・テキスト・参考文献等

教科書は使用せず、毎回資料を配付します。参考文献は適宜紹介します。

成績評価方法

- ①出席を毎回取ります。6回以上欠席した場合は評価の対象外となります。
- ②毎回課題レポートの提出を行います。講義終了時に提出すれば3点、遅れて提出した場合は1点、未提出は0点として加算していきます。全部で14回提出を求める予定なので、42点満点となります。また、書かれている内容によっては、レポートの再提出を求めることもあります。
- ③最終試験は58点満点で評価します（レポートの回数によって変動あり）。

その他(学生へのメッセージ)

基礎演習のゼミ生選考にあたっては、この授業の履修者を優先します。

講義科目 : 発達心理学	単位数 : 2
マークシート略 : [発達心理]	学習形態 : 選択科目
担当 : 中西 千織	

講義のねらい

- ◇乳幼児期から成人期、高齢期までの人間の発達について、生涯発達心理学の観点から解説する。
- ◇発達や心理学に関連するトピックについて取り上げ、様々な視点から人間の発達と心理について理解を深めていく。
- ◇心理学的な視点から、人間の発達や関連する問題について自ら考えられるようになることを目的とする。

授業計画

- 1 発達心理学とは 生涯発達心理学の考え方
- 2 発達段階および発達課題
- 3 発達に関連する様々な要因
- 4 愛着とその関連要因
- 5 認知発達
- 6 ことばの発達
- 7 あそびの発達
- 8 中間まとめ
- 9 自己の発達
- 10 青年期の発達 青年期の心理
- 11 青年期の発達 アイデンティティ
- 12 成人期～老年期 親としての発達、成人期の発達
- 13 成人期～老年期 中年期の発達
- 14 成人期～老年期 老年期の発達
- 15 総括

※授業内では、その時々には起きている問題に関連するトピックスを随時紹介したり、必要に応じて映像使用も考えている。

それらの内容などによっては授業内容が変更または前後する場合があります。

教材・テキスト・参考文献等

教科書は使用しない。授業内でプリント等を配布する。

参考文献 授業内において随時紹介する

成績評価

出席および授業内外で課すレポート（7割）、論述式の試験（3割）により成績を判定する。レポートや試験の内容、および時期については授業内で指示をする。

毎回出席をとり（授業内で課すレポート提出によって出欠の判断とする場合もある）、欠席回数が5回を超えた場合には評価の対象外とする。

なお、レポート提出がない場合やレポート内容が評価に値しない場合、度重なる理由のない遅刻や授業とは関係のない私語および行動で授業に支障をきたすような行為が認められた場合には評価点を減点あるいは成績評価対象外と判断する場合もあるため注意すること。

その他

講義科目	:社会心理学	単位数	:2
マークシート略	:[社会心理]	学習形態	:選択科目
担当	:南 学		

講義のねらい

人は社会の中で暮らしています。そこでは自己や他者をどのようにとらえるのかということが大きな問題となってきます。また、自分自身も社会からさまざまな影響を受けていますが、なかなかそれに気づくことはありません。この授業では、こうした問題について述べていきますので、ぜひ自分自身をとことんまで振り返る機会をつくってほしいと思います。

授業計画

以下の予定ですすめていきますが、進み具合によっては修正していくことがあります。

- 第1回 社会心理学とは
- 第2回 外の世界と感じている世界のずれに気づく
- 第3回 信じるⅠ 人の信じているものは正しいのか
- 第4回 信じるⅡ 複雑な世界をどうとらえるのか
- 第5回 信じるⅢ 出来事のしくみをどう考えるのか
- 第6回 信じるⅣ 血液型性格判断（前編）～どうして当たる気がするのか
- 第7回 信じるⅤ 血液型性格判断（後編）～どうしてこれを好むのか
- 第8回 信じるⅥ 信じることの力
- 第9回 社会からの影響
- 第10回 周囲の人からの影響
- 第11回 住まいからの影響
- 第12回 意識できない処理の影響
- 第13回 ストレス
- 第14回 心理学からみた日本人論
- 第15回 まとめ

教材・テキスト・参考文献等

教科書は指定しない。参考文献は適宜紹介するが、半期でどれか1冊くらいは読んでみることに。

成績評価方法

- ①出席は毎回採ります。1/3以上欠席した場合は評価の対象外とします。
- ②出席点30点、筆記試験70点。

その他

プリントとスクリーンを用いて授業をすすめていきます。授業に「参加」することがスタートです。頭を使わず丸暗記や丸写しをするのではなく、授業中に話した概念や考え方を自分なりの言葉できちんと説明できるように理解することが重要です。

講義科目 : 認知の科学	単位数 : 2
マークシート略 : [認知科学]	学習形態 : 選択科目
担当 : 南 学	

講義のねらい

人が話したり、考えたり、目的地までたどり着くなどの行動を行う際、さまざまな知的活動をおこなっています。こうした活動やプロセスを心理学では認知とよびます。この授業では、人の認知の過程やメカニズムについて低次なものから高次なものまで概説していきます。人の認知活動に関する基礎的なメカニズムを理解し、意識化できるようになることを目的とします。

授業計画

- 第1回 認知の科学とは
- 第2回 記憶Ⅰ－記銘と想起－
- 第3回 記憶Ⅱ－記憶の変容とメタ記憶－
- 第4回 記憶Ⅲ－ワーキングメモリと潜在記憶－
- 第5回 知識
- 第6回 脳と記憶
- 第7回 記憶障害・認知障害
- 第8回 自伝的記憶と加齢
- 第9回 概念と言語
- 第10回 意思決定
- 第11回 動機づけ
- 第12回 注意とバイアス
- 第13回 認知の発達
- 第14回 加齢の影響
- 第15回 試験

成績評価方法

- ①出席は毎回採ります。1/3以上欠席した場合は評価の対象外とします。
- ②出席点30点、筆記試験70点。

その他

プリントとスクリーンを用いて授業をすすめていきます。授業に「参加」することがスタートです。頭を使わず丸暗記や丸写しをするのではなく、授業中に話した概念や考え方を自分なりの言葉できちんと説明できるように理解することが重要です。

講義科目	: カウンセリング論	単位数	: 2
マークシート略	: [カウンセ]	学習形態	: 選択科目
担当	: 小笠原 昭彦		

講義のねらい

カウンセリングに必要な知識およびカウンセリングの基礎的な理論と技法について、心理学や臨床心理学に基づいて学習します。傾聴の演習、DVD視聴による学習も取り入れて基礎的な技法も身につけられるよう配慮します。

授業計画

第1回	オリエンテーション（授業概要、学び方など） 自己理解に関する演習
2回	カウンセリングとは何か（臨床心理学・心理療法との関連、カウンセラーの役割、心理的問題理解への視点）
3回	心理的不適応の諸問題（心理的健康と心理的不適応、フラストレーション、コンフリクト、防衛機制、ストレス理論）
4回	発達と心理的問題（発達段階、発達課題、発達段階と心理的問題）
5回	カウンセリングにおけるアセスメント（アセスメントの基本、面接、観察、非言語的コミュニケーション）
6回	カウンセリングの理論 ・個人へのアプローチ（精神分析療法、クライエント中心療法、行動療法、認知療法）
7回	・家族、集団、地域へのアプローチ（家族療法、集団精神療法）
8回	カウンセリングの基礎概念（クライエント、ラポール、積極的関心、傾聴、受容、共感）
9回	カウンセリングの基本的技法（DVD視聴による学習）
10回	傾聴についての演習 * 次回の授業でレポート提出
11回	カウンセリングの技法（基本的な関わり技法、基本的傾聴技法、質問技法、感情の反映、意味の反映、明確化、面接の構造化など）
12回	
13回	
14回	社会におけるカウンセリングと心理の資格（カウンセリングが行われる領域、心理の資格）、まとめ
15回	筆記試験

教材・テキスト・参考文献等

印刷資料を配付し、パワーポイントを用いて授業を行います。参考文献はその都度紹介します。事例、具体例も適宜取り入れます。

成績評価方法

筆記試験（80%）と傾聴演習（第10回に予定）のレポート（20%）によって評価します。筆記試験は、選択式・記述式を併用する予定です。毎回出席を取ります（ただし、出席状況は成績には反映しません）。6回以上の欠席は評価の対象外です。

その他

出席票に質問、感想などを書いてください。その回答、補足説明は、次の授業の冒頭で行います。

講義科目 : 家族関係学	単位数 : 2
マークシート略 : [家族関係]	学習形態 : 選択科目
担当 : 松田 いりあ	

講義のねらい

この講義では、家族になること／家族であることの困難と意義を理解することをめざす。そのため「家族の定義」「家族の過去・現在・未来」「家族とライフコース」という三つのテーマを設定し授業を進めていく。

授業計画

- 第1回 はじめに：講義の概要と評価方法の説明
- 第2回 家族の定義（1）：さまざまな定義の紹介
- 第3回 家族の定義（2）：家族のイメージと実像
- 第4回 授業中課題（1）
- 第5回 前近代の家族：「家」と「イエ」
- 第6回 近代の家族（1）：日本における近代家族（20世紀前半まで）
- 第7回 近代の家族（2）：日本における近代家族（20世紀後半から）
- 第8回 現代の家族（1）：21世紀日本の家族
- 第9回 現代の家族（2）：家族と個人化
- 第10回 授業中課題（2）
- 第11回 青年期と家族
- 第12回 パートナーシップと家族
- 第13回 家族と親子関係
- 第14回 高齢期と家族
- 第15回 筆記試験および授業中課題（3）

教材・テキスト・参考文献等

神原文子・杉井潤子・竹田美知編著
『よくわかる現代家族 第2版』ミネルヴァ書房

成績評価方法

筆記試験70%、授業中課題30%

その他

成績評価の対象者になるためには、規定の出席回数を満たす必要がある。

講義科目 : 人間関係論	単位数 : 2
マークシート略 : [人間関係]	学習形態 : 選択科目
担当 : 二ノ村 玲子	

講義のねらい

対人心理学とコミュニケーションの仕組みと成り立ちを通して、人間の行為、自己と他者の関係や、西洋と東洋の違いなどを織り込みながら、コミュニケーションスキルを習得していく

授業計画

- 第1回 日本社会の構造の理解
- 第2回 タテ社会とヨコ社会の比較
- 第3回 母性社会と父性社会の比較
- 第4回 日本人のコミュニケーションの特徴
- 第5回 対人心理学の理解
- 第6回 対人行動、対人心理、対人関係
- 第7回 対人行動としてのコミュニケーションと種類
- 第8回 対人行動のメカニズム
- 第9回 対人行動のルールとスキル
- 第10回 対人説得、自己開示、呈示、対人説得
- 第11回 集団過程（リーダーシップ、集団規範と同調）
- 第12回 コミュニケーションスキルについて（社会的スキル）
- 第13回 非言語、言語コミュニケーションの特徴
- 第14回 社会的スキルのトレーニング（アサーションなど）
- 第15回 まとめとレポートの作成

教材・テキスト・参考文献等

コミュニケーション心理学（北大路書房）
 必要な資料は随時、講義の中で配布

成績評価方法

毎回出席を取り、5回以上の欠席は評価の対象外とする。
 最後の講義の中で課題のレポートを作成してもらい評価とする。

その他

人間関係が難しいと悩む人が増えている時代です。この講義を通して自分自身のコミュニケーション能力が上がって行けば幸いです。

講義科目 :心理学基礎実験	単位数 :2
マークシート略 :〔心理実験〕	学習形態 :選択科目
担当 :東福寺 一郎	

講義のねらい

心理学研究法の1つである心理学実験について、その手法と分析について学習します。実験ごとにレポート提出を課し、それを通じて科学的なレポートの方法についても身につけます。

授業計画

- 第1回 ガイダンス、レポートの書き方、ESP実験
- 第2回 心理統計について
- 第3回 ミュラー・リヤーの錯視（刺激作成と実験）
- 第4回 ミュラー・リヤーの錯視（実験とまとめ）
- 第5回 注意の範囲（パソコン）
- 第6回 大きさの恒常性（体育館使用）
- 第7回 触2点閾
- 第8回 重量弁別
- 第9回 重量弁別
- 第10回 要求水準（パソコン）
- 第11回 潜在記憶～直接プライミング～（パソコン）
- 第12回 フィードバック効果
- 第13回 系列再生
- 第14回 ストループ効果
- 第15回 予備

実験テーマについては順番や内容を変更する可能性があります。

実験は班に分かれて行います。また、履修希望者が多数に及ぶ場合には履修制限をかける予定です（その場合には、心理学研究法をすでに履修している学生を優先します）。

なお、職務上、休講が重なる予定です。そのため、別途補講を行う場合がありますので、このことを含めて履修を決定してください。

成績評価方法

実験を行うたびにレポートを提出してもらいます。評価はレポートの内容に基づいて行い、試験は実施しません。ですから、よほどのことがない限り、欠席をしないでください。2回以上未提出レポートがある場合には無資格とします。

その他(学生へのメッセージ)

心理学を主に学習しようとする者にとっては基本的な科目ですが、心理学研究法を履修した後に2年次に履修することが望まれます。従って、1年次の履修は避けるようにしてください。

講義科目 : 心理学研究法	単位数 : 2
マークシート略 : [心理研究]	学習形態 : 選択科目
担当 : 中山 真	

講義のねらい

心理学における観察法および調査法とその分析および報告書作成・プレゼンテーションの演習を通して、心理学研究法の基本的な知識や考え方を理解し、論理的思考力、問題発見力、課題解決力、情報リテラシー、協働的対人能力を身につけることを目的とする。

授業計画

第1回	はじめに：心理学研究法
2回	観察法
3回	観察法実習
4回	観察法結果報告
5回	調査法
6回	尺度の信頼性と妥当性
7回	相関関係
8回	t検定
9回	質問紙・尺度項目の作成
10回	調査法実習
11回	データ解析実習①：データ入力
12回	データ解析実習②：変数間の分析
13回	プレゼンテーション方法
14回	調査法結果報告
15回	まとめ：研究の発展

教材・テキスト・参考文献等

必須のテキストは指定しない。適宜資料を配布し、参考文献を示す。

成績評価方法

観察法および調査法の演習を進めるにあたっての課題（40%）と、観察法および調査法の結果報告（60%）で評価する。

また、6回以上欠席した場合には失格となるが、演習を進めるにあたって、遅刻・欠席は受講者全体の学びの妨げとなるので留意すること。

その他

本科目は1年次での履修が望まれます。本科目を履修した後、「心理学基礎実験」（実験法の演習など）を2年次に履修することをお勧めします。

連絡先 E-mail nakayamam@suzuka-jc.ac.jp / WEB <http://makotonlab.com>

対象：

講義科目	：子どもの健康	単位数	：2
マーケット略	：	学習形態	：選択科目
担当	：川瀬 浩子		

講義のねらい

子どもの健やかな成長発達を促し、子どもの「自ら健康で安全な生活をつくり出す力」を育くむために、必要とされる「支援する力」を身に着けることを目的とする。

授業計画

- 第1回 子どもと健康
- 第2回 子どもの健康課題
- 第3回 親になるための準備（出生前）
- 第4回 健康的なライフスタイル
- 第5回 緊急な健康課題：自殺防止対策
- 第6回 緊急な健康課題：事故防止
- 第7回 緊急な健康課題：虐待防止
- 第8回 感染症予防対策
- 第9回 子どもの基本的な生活習慣（「基本的な生活習慣の欠如」の現状と支援）
- 第10回 口腔保健
- 第11回 子どもの体の健康：子どもの健康と運動
（「運動能力の低下」の現状と支援）
- 第12回 子どもの体の健康：子どもの健康と食育（食生活の現状と食育）
- 第13回 子どものこころの健康
（こころの健康の現状と「生きる力の基礎」の育成）
- 第14回 性行動
- 第15回 まとめ：筆記試験

教材・テキスト・参考文献等

- ・授業中に提示する

成績評価方法

- ・出席は講義開始30分経過後、確認する（確認が取れない場合は欠席とする）。または学びの振り返り票の提出やグループワークでの提出物で確認する。
- ・毎回「学びの振り返り票」を配布し、授業の終わりに、テーマにそった振り返りを行う時間を設ける。
- ・評価は、試験（60%）、レポート「子どもと安全」「自殺防止」の2種類（40%）で評価する。

その他

对象：

講義科目 : 福祉心理演習	単位数 : 4
マークシート略 : [福心演習]	学習形態 : 必修科目
担当 : 北村 香織	* 第2学年で履修

講義のねらい

この演習では、福祉心理基礎演習で検討してきたテーマをさらに明確にして、研究課題を設定し、各自取り組んでいく。また、課題に対して適切な研究方法についても学ぶ。

具体的には、基礎演習と同じく各自の研究課題についてレジュメなどを用いながら報告を行い、ゼミ内で討議する形を基本とする。最終的には卒業論文完成を目標とする。

授業計画

- ① 研究課題の設定
- ② 卒業論文の書き方についての指導と取り組み方の検討
- ③ 卒業論文にむけての報告（個人）
- ④ 本の読み方
- ⑤ 卒業論文指導

《番外》福祉施設見学や、ボランティアへの参加、共通テーマを設定しての討議など

以上を柱に進めていきます。

教材・テキスト・参考文献等

特に使用しない。

参考文献は適宜提示。

成績評価方法

出席、報告内容、ゼミへの参加度、卒業論文等を合わせて総合的に評価する。
（出席は特に重視する）

その他

福祉心理基礎演習で培ったものを深めつつ、課題を設定する作業を行い、そこから具体的な取り組みを進めていけたらと考えています。自分が考えていることをまとめる、話す、書く、人の話を聞く、ということは、学問だけではなく、社会に出てからも必要となる重要な要素です。演習は、これを学び体得する貴重な機会ですので、積極的に参加し、楽しんで下さい。

今年度は急ピッチで課題設定を行う必要がありますが、さらに充実したゼミができることを期待しています。

講義科目 : 福祉心理演習	単位数 : 4
マークシート略 : [福心演習]	学習形態 : 必修科目
担当 : 武田 誠一	* 第2学年で履修

講義のねらい

基本文献の精読を行うことで、社会福祉に関する知識を深め、自身の研究テーマ決定に結びつけます。

受講生は自身の問題意識や関心に従って、それぞれに研究テーマを選択します。

各自の調査・研究を基礎に、グループ内での討論を加え、議論の仕方を学ぶと共に、卒業論文を仕上げることを目標とします。

授業計画

- 基本文献の精読

※文献は開講時に指示する。

- 卒業論文指導

- 1) 各自のテーマ設定 (その1 その2)
- 2) 調査・研究の方法について (その1 その2)
- 3) 調査・研究の対象をめぐって (報告と討論)
- 4) 事前調査・研究 (その1 その2)
- 5) 本調査・本研究の進行状況のチェック (その1 その2)
- 6) 施設・事業所訪問 (希望によって数箇所)
- 7) 調査・研究結果の報告と討論 (その1 その2)
- 8) 卒業論文の仕上げ (その1 その2 その3)

※なお、受講生の状況などにより内容を変更する場合があります。

※途中からテーマを変更することは可能ですし、研究の過程で問題意識が変わってくる (具体的になっていく) ことは歓迎です。

教材・テキスト・参考文献等

「新版 大学生のためのレポート・論文術」 (講談社現代新書)、2009年.

成績評価方法

自らの研究調査や報告、他者の発表への発言、ゼミ運営への関わり方とともに、卒業論文についてなどを総合的に評価します。

その他

「自ら考える」「他者に伝える」、そしてメンバー相互に「学び合う」がゼミの基本です。

みんなといっしょにゼミを楽しく作り上げる、そんな意識で積極的に参加してください。

講義科目 : 福祉心理演習	単位数 : 4
マークシート略 : [福心演習]	学習形態 : 必修科目
担当 : 東福寺 一郎	* 第2学年で履修

講義のねらい

文献や各自の口頭発表に基づいて意見交換したり、簡単な実験やテストを体験することを通じて心理学の面白さを味わうことを目的とします。

また、後期は卒業論文の作成に取り組みます。

授業計画

次の3つの柱に沿って進めていきます。

(1) 共通テーマ

共通の文献を班に分かれての討論を中心に読み進めるとともに、学習内容についてのポートフォリオを提出していきます。また、読了後は別の文献を用意します。同時に、簡単な実験や心理テストなども実施します。

(2) 話題提供

卒業レポートを念頭に、毎回1名が話題提供を行います。内容としては、各自が関心を持っている領域から具体的な研究を紹介してもらいます。これについてもレジメ(A4版1枚程度)を用意してもらいます。

(3) 卒業レポートの作成

後期の終了時に、卒業レポートを提出します。テーマは各自の興味関心に沿ったものとしします。なお、実験、調査、観察などによりデータを集めた上でレポートをまとめることを基本とします。また、1月には研究成果についての発表を行い、かつ提出された全員のレポートをUSBメモリに保存して配布します。

教材・テキスト・参考文献等

共通テーマにかかわる文献
追って指定します。

成績評価方法

- ① 出席および討論への参加度を重視します。
- ② ポートフォリオの提出ならびに実験やテストの結果についてのレポート提出を求めます。
- ③ 後期終了時に卒業レポートの提出を求めます。
- ④ ①～③を総合的に考慮して、最終評価とします。

その他

演習科目であるので、主体的、積極的な受講態度を望みます。また、サマーフェスティバルや大学祭にも参加します。その他、いろいろとアイデアを出してください。

職務上、休講が度重なる予定です。その場合、長期休暇中に合宿もしくは集中的な補講を行います。

講義科目 : 福祉心理演習	単位数 : 4
マークシート略 : [福心演習]	学習形態 : 必修科目
担当 : 長友 薫輝	* 第2学年で履修

講義のねらい

受講生各自の関心にしたがって自由にテーマを選択したうえで、調査・研究し、卒業論文を作成することが目標である。テーマは社会福祉学以外のものでも構わない。

本演習は次の3点を重視している。

①受講生の自主的な行動、②グループでの協同行動を学ぶ場（他人とつながる場）、③社会人として必要な基礎的教養を身につける場、である。

授業計画(それぞれ2回程度を予定している)

- 1) 各自のテーマ設定
- 2) 調査・研究の方法
- 3) 文献資料の読み方
- 4) 調査・研究の対象
- 5) 予備調査へ向けての報告
- 6) 予備調査
- 7) 本調査へ向けての準備
- 8) 本調査
- 9) 調査結果の集計
- 10) 調査結果報告
- 11) 地域づくりに関わる
- 12) 施設・事業所訪問
- 13) 卒業論文指導
- 14) 卒業論文指導
- 15) 卒業論文指導

*なお、受講生の状況などによって内容を変更する可能性がある。

教材・テキスト・参考文献等

参考文献や資料は必要に応じて、講義時に配付する。

成績評価方法

自らのテーマについてのゼミ発表や、卒業論文、ゼミへの積極的な参加度などを総合し評価する。

その他

本演習は受講生の自主的な行動とグループでの協同行動を基盤とする。

講義科目 : インテリアデザイン	単位数 : 2
マークシート略 : [インテリア]	学習形態 : 選択科目
担当 : 中井 孝幸	建築士指定科目

講義のねらい

- ・ 快適な生活環境を創り上げるために必要な基礎知識と計画手法を学ぶ。
- ・ 空間を構成する床、壁、天井の立体的な関係を理解する。
- ・ 家具や照明、素材などを「人と空間」との関係で捉えるようにする。
- ・ 3次元を2次元（図面・透視図・スケッチ）で表現できるようにする。
- ・ 課題を通じて、インテリアデザインの計画・プレゼンテーションを学ぶ。

授業計画

- 第1回 ガイダンス・住まいとインテリア（日本、西洋）
- 第2回 家具にみるデザイン様式の変遷
- 第3回 演習①：平面図、展開図の描法
- 第4回 人間工学について
- 第5回 演習②：インテリアパースの描き方
- 第6回 インテリアの安全性について
- 第7回 演習③：ベニヤ板1枚でデザインする椅子の模型制作
- 第8回 形・色・テクスチャーについて
- 第9回 空間と心理について
- 第10回 インテリアエレメント（壁・家具）のデザイン
- 第11回 インテリアエレメント（照明・サイン）のデザイン
- 第12回 演習④：A2判ケント紙でデザインする照明器具の模型制作
- 第13回 材料と仕上げについて
- 第14回 演習⑤：空間のインテリア設計、マテリアルプレゼンボードの作成
- 第15回 作品提出、講評会

教材・テキスト・参考文献等

- ・ 講義中に適宜参考文献を紹介するが、全般的なテキストとして以下を示す。
- ・ インテリアデザイン教科書研究会編：インテリアデザイン教科書、第2版、彰国社

成績評価方法

- ・ 出席を毎回取る。遅刻厳禁。5回以上欠席した場合には評価の対象外とする。
- ・ 出席と演習課題の総合点により評価する。
- ・ 演習課題が未提出な者は、単位取得できない。

その他

- ・ 演習課題に用いるケント紙、模型制作の用具などは各自でそろえる。

講義科目 : 建築製図基礎	単位数 : 2
マークシート略 : [建築製図]	学習形態 : 選択科目
担当 : 平井 雅人	建築士指定科目

講義のねらい

建築設計の基礎的な考え方や表現方法を学ぶ。

授業計画

第1回	ガイダンス、設計プロセス	
第2回	建築作品のフリーハnadスケッチ	(1) 出題・演習
第3回	同	(2) 作品提出・講評
第4回	建築図面の種類と読み方	
第5回	製図用具と使い方の説明、線の種類と描き方 (CAD含む)	
第6回	建築図面の表現方法	(1) 配置図の解説・トレース
第7回	同	(2) 平面図の解説・トレース
第8回	同	(3) 立面図の解説・トレース
第9回	同	(4) 断面図の解説・トレース
第10回	同	(5) 展開図の解説・トレース
第11回	建築パースの描き方	(1) 作図方法の解説
第12回	同	(2) 作図の演習①
第13回	同	(3) 作図の演習②
第14回	建築模型の作り方	(1) 模型材料、製作方法、製作練習
第15回	同	(2) 模型製作、模型写真の撮影方法

教材・テキスト・参考文献等

特になし

成績評価方法

スケッチ	20点
図面5枚×8点	= 40点
パース	25点
模型	15点

その他

建築関係の職業を目指す学生は勿論のこと、そうでない学生にも今後の社会生活が豊かになるようにCADを含め見聞を広めさせたい。

講義科目 : 住生活設計 I	単位数 : 2
マークシート略 : [住設計 I]	学習形態 : 選択科目
担当 : 木下 誠一	建築士指定科目

講義のねらい

生活に必要な各部の寸法を理解し、立体的な空間を操作できる能力を身につけ、住生活の基本となる戸建住宅の概略設計（基本設計）ができる能力を習得する。

授業計画

以下の2課題を課し、個別指導を中心に行う。
なお、戸建住宅の課題は、主として木造2階建て程度の規模とする。

- 第1回 ガイダンス、小空間（個室、ワンルーム等）の設計（1）出題
- 第2回 小空間の設計（2）エスキス（コンセプト・平面計画）
- 第3回 同 （3）エスキス（ " " ）
- 第4回 同 （4）エスキス（平面、断面、展開等）
- 第5回 同 （5）エスキス（ " " ）
- 第6回 同 （6）図面チェック
- 第7回 同 （7）作品提出・講評、戸建住宅の設計（1）出題
- 第8回 戸建住宅の設計（2）エスキス（コンセプト・配置・平面計画）
- 第9回 同 （3）エスキス（ " " ）
- 第10回 同 （4）エスキス（平面、断面、立面、展開等）
- 第11回 同 （5）エスキス（ " " ）
- 第12回 同 （6）図面チェック
- 第13回 同 （7） "
- 第14回 同 （8）作品提出・講評
- 第15回 まとめと確認

教材・テキスト・参考文献等

課題に応じて演習中に紹介する。

成績評価方法

成績評価は、全課題の提出のある学生を対象とし、各課題の採点を総合的に評価する。成績は主に最終成果物（作品）によるが、毎回の制作プロセスについても勘案して採点する。

その他

作品を完成させるためには、正規の授業時間だけでなく時間外での自主的な取り組みが不可欠である。随時、時間外での相談にも応じる。
「建築製図基礎」を履修していることが望ましい。

講義科目 : 住生活設計Ⅱ	単位数 : 2
マーケット略 : [住設計Ⅱ]	学習形態 : 選択科目
担当 : 木下 誠一	建築士指定科目

講義のねらい

多様な利用主体が想定され、複雑な機能を有する地域施設の設計ができる能力を習得する。課題には、高齢社会をふまえ、家族以外の人々と共同生活を行う福祉施設や、児童から成人、高齢者など地域の幅広い人々が交流を図るコミュニティ施設など、中規模施設を取り上げ、機能や構造・設備、運営方式などを総合的に理解し、計画・設計案としてまとめ上げることを目的とする。

授業計画

以下の2課題を課し、個別指導を中心に行う。
グループホームの規模は3階建て以下、構造は木造、S造、RC造のいずれかとする。
コミュニティ施設の規模は3階建て以上、構造はS造又はRC造とする。

- 第1回 グループホーム (1) 出題
- 第2回 同 (2) エスキス (コンセプト・配置・平面計画)
- 第3回 同 (3) エスキス (// //)
- 第4回 同 (4) エスキス (平面・立面・断面計画)
- 第5回 同 (5) エスキス (// //)
- 第6回 同 (6) 図面チェック
- 第7回 同 (7) 作品提出・講評、コミュニティ施設 (1) 出題、
- 第8回 コミュニティ施設 (2) エスキス (コンセプト・配置・平面計画)
- 第9回 同 (3) エスキス (// //)
- 第10回 同 (4) エスキス (// //)
- 第11回 同 (5) エスキス (平面・立面・断面計画)
- 第12回 同 (6) エスキス (// //)
- 第13回 同 (7) 図面チェック
- 第14回 同 (8) 作品提出・講評
- 第15回 まとめと確認

教材・テキスト・参考文献等

課題に応じて演習中に紹介する。

成績評価方法

成績評価は、全課題の提出のある学生を対象とし、各課題の採点を総合的に評価する。成績は主に最終成果物（作品）によるが、毎回の制作プロセスについても勘案して採点する。

その他

作品を完成させるためには、正規の授業時間だけでなく時間外での自主的な取り組みが不可欠である。随時、時間外での相談にも応じる。
「建築製図基礎」「住生活設計Ⅰ」を履修していることが望ましい。

講義科目 : 居住計画論	単位数 : 2
マークシート略 : [居住計画]	学習形態 : 選択科目
担当 : 木下 誠一	建築士指定科目

講義のねらい

住宅や集合住宅、高齢者福祉施設における人々の諸要求を把握し、行為と空間との対応関係について理解し、空間の規模設定や機能構成、空間デザイン等、建築計画の理念や方法を習得する。

授業計画

- 1) ガイダンス、住宅の敷地条件（配置計画）
- 2) 住宅の機能とゾーニング、動線計画
- 3) 住宅の寸法計画（人体寸法と動作寸法、モジュール等）
- 4) 住宅の空間構成（平面計画）
- 5) 住宅の空間構成（断面計画）
- 6) 住宅の各室の計画（居間・個室等）
- 7) 住宅の水まわりの計画（台所、風呂、便所）
- 8) 住宅の収納の計画
- 9) 住宅の外部空間の計画（立面計画・外構計画）
- 10) 集合住宅の計画（1）計画手法
- 11) " （2）事例
- 12) 高齢者福祉施設の計画（1）施設体系
- 13) " （2）通所施設・事例
- 14) " （3）入所施設・事例
- 15) まとめと確認

教材・テキスト・参考文献等

随時、資料を配付する

成績評価方法

- ・出席を毎回取る。5回以上欠席した場合には評価の対象外とする。
- ・レポートにより評価する（授業時間内に適宜行う）。

その他

講義科目 : 居住福祉論	単位数 : 2
マーケット略 : [居住福祉]	学習形態 : 選択科目
担当 : 木下 誠一	建築士指定科目

講義のねらい

高齢社会をふまえ、住み慣れた環境で安心して人々が生活を送れるよう、福祉の観点から居住環境を捉える。高齢者等の行動特性を把握し、在宅ケアを念頭においたバリアフリーの住宅設計・改造に関する計画手法を習得する。

授業計画

- 1) ガイダンス、福祉住環境整備の必要性
- 2) バリアフリーとユニバーサルデザイン
- 3) 福祉住環境に関連する制度・資格
- 4) 高齢者等の心身・行動特性 (1)
- 5) " " (2)
- 6) 福祉住環境の共通整備方策
- 7) 場所別の具体的な整備方策 (1) アプローチ・玄関・廊下・階段
- 8) " " (2) トイレ・浴室・洗面所
- 9) " " (3) キッチン・寝室等
- 10) 福祉用具
- 11) 演習 (1) 演習問題
- 12) 演習 (2) 住宅のリフォーム提案
- 13) 演習 (3) "
- 14) 発表
- 15) まとめと確認

教材・テキスト・参考文献等

随時、資料を配付する

成績評価方法

- ・出席を毎回取る。5回以上欠席した場合には評価の対象外とする。
- ・レポート（授業時間内に適宜行う）及び演習課題により評価する。

その他

講義科目	: 居住政策論	単位数	: 2
マーケット略	: [居住政策]	学習形態	: 選択科目
担当	: 多湖 清隆		建築士指定科目

講義のねらい

居住政策論は建築士試験の指定科目の「建築法規」を学ぶ科目です。建築物の設計・施工に必要な建築基準法を中心に法令用語の読み方、用語の定義、条文の主旨・内容の理解を図り、建築基準法等の基礎的知識の習得を目標とします。

授業計画

- 第1回 建築関係法令の概要（ガイダンス、法文読解の基本ルール）
- 第2回 建築基準法：基本的事項①（法2条：用語の定義）
- 第3回 建築基準法：基本的事項②（法2条：面積・階数）
- 第4回 建築基準法：集団規定①（法42条：道路、法48条：用途地域）
- 第5回 建築基準法：集団規定②（法52条：容積率、法53条：建蔽率）
- 第6回 建築基準法：集団規定③（法56条：高さ制限）
- 第7回 建築基準法：集団規定④（法56条の2：日影規制）
- 第8回 建築基準法：集団規定⑤（法61条：防火地域等）
- 第9回 建築基準法：単体規定①（法27条：耐火建築物 等）
- 第10回 建築基準法：単体規定②（法28条：採光・換気 等）
- 第11回 建築基準法：単体規定③（法35条：避難施設等）
- 第12回 建築基準法：単体規定④（法20条：構造耐力（その1））
- 第13回 建築基準法：単体規定⑤（法20条：構造耐力（その2））
- 第14回 建築基準法：手続規定（法6条：確認申請、法7条・法7条の3：検査等）
- 第15回 建築士法、建設業法、その他の建築関連法令概説

教材・テキスト・参考文献等

テキスト：「建築法規用教材」2018（日本建築学会）と毎回、資料を配布する。

参考文献等：建築基準法令集「建築士試験場持ち込みが可能」と表記されている法令集であれば可。

成績評価方法

- ① 出席を重視するため、成績は 課題提出を55%、出席等を45%として評価する。
- ② 欠席が6回以上の場合、評価対象外とする。
- ③ 課題提出の評価割合の55%については、調査課題（第4回配布予定）を15%、演習課題（第12回配布予定）を40%の配分で評価する。
ただし、調査課題、演習課題の両方の提出がない場合、評価対象外とする。

その他

- ① 授業を通して法令集に慣れることを目指します。建築基準法等を学ぶ上で、法令集は必需品です。各自用意してください。
- ② 毎回講義終了時に講義内容に対する意見・感想等を記載いただき、出席状況の確認及び受講取組姿勢の確認を行う。
- ③ 建築士試験の受験希望者は、必ず第1回講義から受講してください。

講義科目	: 居住設備学	単位数	: 2
マーケット略	: [居住設備]	学習形態	: 選択科目
担当	: 北野 博亮		建築士指定科目

講義のねらい

都市や建築において快適な居住空間を実現するための設備の概要を修得することが本講義の目的である。建築・都市設備、すなわち空気調和設備・給排水衛生設備・電気設備・防災設備について、その基本メカニズムと構成を環境問題等との関連性を踏まえて理解する。

授業計画

- 第1回 ガイダンスと居住設備の概要
- 第2回 温熱環境評価
- 第3回 空気調和設備(1) 冷暖房負荷
- 第4回 空気調和設備(2) 冷暖房負荷・熱源機器
- 第5回 空気調和設備(3) 空調方式・空気調和機
- 第6回 空気調和設備(4) 換気設備
- 第7回 空気調和設備(5) 空調設備の設計
- 第8回 給排水衛生設備
- 第9回 電気設備(1) 受変電・配電設備
- 第10回 電気設備(2) 照明設備
- 第11回 防災設備(1) 火災防災設備
- 第12回 防災設備(2) 避雷設備ほか
- 第13回 省エネルギー技術(1)
- 第14回 省エネルギー技術(2)
- 第15回 まとめと確認

教材・テキスト・参考文献等

- (教科書) 田中俊六他著「建築設備工学」 井上書院
- (参考書) 講義中に紹介する。

成績評価方法

- ・ 成績評価は、全講義回数15回のうち10回以上出席した受講者に対して行う。
- ・ 授業中に課す筆記試験とレポートによって、講義内容の理解度を判断し成績評価を行う。
- ・ 評価におけるそれぞれのウェイトは、筆記試験が50%、レポートが50%である。

その他

スライドを提示するとともに教科書・プリントを用いて講義を進める。

講義科目 : 建築環境学	単位数 : 2
マークシート略 : [建築環境]	学習形態 : 選択科目
担当 : 寺島 貴根	建築士指定科目

講義のねらい

都市や建築において、快適な居住空間を実現するための計画法の概要を修得することが本講義の目的である。室内空間および都市空間における音・光・熱・空気および水分の制御に関する基礎理論とその建築・都市設計への応用の概要を学習する。

授業計画

第1回	講義ガイダンス 騒音防止と音響設計①
2回	騒音防止と音響設計②
3回	騒音防止と音響設計③
4回	日照と日射
5回	採光と照明①
6回	採光と照明②
7回	色彩
8回	筆記試験① (前半:試験、後半:解答解説)
9回	室内空気汚染と換気①
10回	室内空気汚染と換気②
11回	室内空気汚染と換気③
12回	断熱と結露防止①
13回	断熱と結露防止②
14回	体感温度
15回	筆記試験② 熱・空気の環境分野(前半:試験、後半:解答解説)

教材・テキスト・参考文献等

(教科書) 基礎力が身につく建築環境工学 (三浦昌生著、森北出版、ISBN978-4-627-58112-8)

(テキスト) なし

(参考書) なし

成績評価方法

成績評価は試験を含む全講義回数15回のうち10回以上出席した受講者に対して行う。授業毎に提出する出席票(数行の感想文を含む)と二回の筆記試験によって、各受講者の理解度を判断し成績評価を行う。評価におけるそれぞれのウェイトは、出席票が40%、筆記試験が60%である。

その他

上記に示す教科書を購入して受講すること。教科書の内容に従い、スライドを併用して講義が進められる。室内環境の物理と心理に関する理論および計算が含まれる理系的内容であるが、今後建築に携わっていく者には必須の知識や考え方である。将来建築士試験を受験する予定の者には受講を勧める。

講義科目 : 建築一般構造	単位数 : 2
マーケット略 : [建築構造]	学習形態 : 選択科目
担当 : 前野 将輝	建築士指定科目

講義のねらい

目的：建築物の骨格となる多様な構造形式とその特徴について学ぶ。

授業計画

- 第1回 ガイダンス、建築構造概論
- 第2回 近年における建築構造設計のあり方
- 第3回 空間と構造形式
- 第4回 建築物の荷重と外力
- 第5回 地盤・基礎構造
- 第6回 木質構造（1）
- 第7回 " （2）
- 第8回 鉄骨構造（1）
- 第9回 " （2）
- 第10回 鉄筋コンクリート構造（1）
- 第11回 " （2）
- 第12回 " （3）
- 第13回 仕上げと設計上配慮すべき項目
- 第14回 建築設計と建築構造
- 第15回 まとめ・試験

教材・テキスト・参考文献等

構造用教材：丸善、日本建築学会

図解辞典建築のしくみ：彰国社、建築図解辞典編集委員会編

図説やさしい構造設計：学芸出版社 浅野清昭著

成績評価方法

出席（50%）および授業中に行うレポート課題（50%）により評価します。また、5回以上欠席、レポート未提出、試験欠席の場合は、評価の対象外とします。

その他

パワーポイント等を用いて建築構造をわかりやすく説明します。

また、理解度の再確認と将来の資格試験（2級建築士等）のため、演習問題を使って解説します。

講義科目 : 建築計画	単位数 : 2
マークシート略 : [建築計画]	学習形態 : 選択科目
担当 : 中井 孝幸	建築士指定科目

講義のねらい

地域の各種建築物に関する建築計画上の基礎知識を学習し、施設事例を通して計画手法や課題等を理解する。

授業計画

第1回	ガイドンス、図書館の計画 (1)	授業の進め方、図書館の歴史
第2回	図書館の計画 (2)	地域のサロンとしての図書館
第3回	図書館の計画 (3)	図書館の施設計画
第4回	学校の計画 (1)	教室のオープン化
第5回	学校の計画 (2)	学びの場から生活の場へ
第6回	折紙建築	立体的なデザイン演習
第7回	高齢者福祉施設の計画	小規模生活単位によるケア
第8回	病院の計画 (1)	診療所の計画と病院計画の基礎
第9回	病院の計画 (2)	病院の部門構成と病棟の計画
第10回	美術・博物館の計画	展示品の収集と観賞
第11回	保存と再生	記憶の継承とサステイナブル建築
第12回	劇場の計画	演技を観る
第13回	オフィスの計画	規模とレントブル比、寸法計画
第14回	コミュニティ施設の計画	近隣住区とコミュニティ
第15回	まとめと確認	

教材・テキスト・参考文献等

・松本直司、瀬田恵之、高井宏之、建部謙治、谷田真、中井孝幸、矢田努：建築計画学、理工図書、2013.4

成績評価方法

- ・出席を毎回取る。遅刻厳禁。5回以上欠席した場合には評価の対象外とする。
- ・筆記試験、レポート及び演習課題により、総合的に評価する。

その他

講義科目 : 建築構法	単位数 : 2
マークシート略 : [建築構法]	学習形態 : 選択科目
担当 : 前野 将輝	建築士指定科目

講義のねらい

・ 基本的な構成方法や施工法、設計手法について学ぶ。建築構造や施工に関する知識を深め、様々な建築構法を学ぶ。

授業計画

- 第1回 ガイダンス、建築構法概論
- 第2回 鉄骨鉄筋コンクリート構造
- 第3回 壁式構造
- 第4回 組積造
- 第5回 プレストレストコンクリート構造
- 第6回 基礎の構法
- 第7回 構法と構造計画 (1)
- 第8回 " (2)
- 第9回 鉄筋コンクリート構造の構造計画 (1)
- 第10回 " (2)
- 第11回 補強コンクリートブロック造の構法
- 第12回 鉄骨造の構法
- 第13回 木造の構法 (1)
- 第14回 " (2)
- 第15回 まとめ・試験

教材・テキスト・参考文献等

構造用教材：丸善、日本建築学会

図解辞典建築のしくみ：彰国社、建築図解辞典編集委員会編

図説やさしい構造設計：学芸出版社 浅野清昭著

成績評価方法

出席 (50%) および授業中に行うレポート課題 (50%) により評価します。また、5回以上欠席、レポート未提出、試験欠席の場合は、評価の対象外とします。

その他

パワーポイント等を用いて建築構法をわかりやすく説明します。

また、理解度の再確認と将来の資格試験 (2級建築士等) のため、演習問題を使って解説します。

講義科目	: 構造力学Ⅱ	単位数	: 2
マークシート略	: [構造力Ⅱ]	学習形態	: 選択科目
担当	: 三島 直生		建築士指定科目

講義のねらい

構造物の変形および不静定構造物の解法を理解する。

授業計画

1. 静定構造物の解法の復習Ⅰ
2. 静定構造物の解法の復習Ⅱ
3. 構造物の弾性変形解析（解析仮定・重ね合せの原理・ひずみエネルギー）
4. 仮想仕事法Ⅰ（トラスの変形解析）
5. 仮想仕事法Ⅱ（棒構造の変形解析）
6. 演習問題Ⅰ（トラスおよび棒構造の変形解析）
7. 不静定次数の算定
8. 応力法Ⅰ（不静定トラスの解法1）
9. 応力法Ⅱ（不静定トラスの解法2）
10. 応力法Ⅲ（不静定ラーメンの解法）
11. 演習問題Ⅱ（応力法による不静定構造物の解法）
12. モーメント分配法Ⅰ（不静定ラーメンの解法）
13. モーメント分配法Ⅱ（不静定ラーメンの解法）
14. 演習問題Ⅲ（たわみ角法による不静定構造物の解法）
15. 確認試験

教材・テキスト・参考文献等

教科書は特に指定しない。下記の書籍を参考書として用いる。
浅野清昭著、「図説やさしい構造力学」、学芸出版社

成績評価方法

演習問題（50点）、確認試験（50点）の合計を評価点とし、60点以上を合格とする。

その他

質問などの連絡先は以下の通り。

〒514-8507 津市栗真町屋町1577三重大学工学部建築学科 三島直生
電話 : 059-231-5363
e-mail : mishima@arch.mie-u.ac.jp

講義科目	: 建築材料学	単位数	: 2
マークシート略	: [建築材料]	学習形態	: 選択科目
担当	: 三島 直生		建築士指定科目

講義のねらい

建築物に用いられている構造材料を中心にその種類、性質および用途を理解する。

授業計画

1. 建築材料概説
2. 建築材料の分類
3. 建築材料の性能と性質
4. コンクリートI (種類と組成)
5. コンクリートII (製造方法)
6. コンクリートIII (力学的性質)
7. コンクリートIV (RC構造物の耐久性)
8. 鉄鋼I (種類・製造方法)
9. 鉄鋼II (力学的性質)
10. 木材I (種類・加工方法)
11. 木材II (力学的性質)
12. 非構造材料I (金属系・セラミックス系材料)
13. 非構造材料II (高分子系材料・他)
14. 演習問題
15. 確認試験

教材・テキスト・参考文献等

谷川恭雄 他「建築材料を学ぶーその選択から施工までー」 (理工図書)

成績評価方法

授業内容に関するレポート (40点) および授業内容の理解度を確認するための試験 (60点) を行い、100点満点中60点以上を合格とする。

その他

質問などの連絡先は以下の通り。

〒514-8507 津市栗真町屋町1577三重大学工学部建築学科 三島直生

電話: 059-231-5363

e-mail: mishima@arch.mie-u.ac.jp

講義科目	: 建築生産	単位数	: 2
マークシート略	: [建築生産]	学習形態	: 選択科目
担当	: 池田 和司		建築士指定科目

講義のねらい

- ① 複雑な建築生産プロセスについて順序だてて分かりやすく解説したい。
- ② 建築施工における各種工事について、自己の経験（現場施工管理）を交えて解説することによって興味を持って学習してもらいたい。
- ③ 将来進みたい職種の選択肢の一つに加えてもらえるよう建築施工に興味を持ってもらいたい。

授業計画

以下の予定で進めていきますが、進み具合によって修正を加えることがあります。特に第5回～第9回の躯体工事は内容が複雑かつ量が多いので計画より遅れることもあります。後半で調整します。

- 第1回 建築生産・・・建築生産とは何か、建物が出来上がる過程について
- 第2回 施工者の選定～工事請負契約
- 第3回 工事着手・・・着手前の仕事の概要、施工計画・施工図について
- 第4回 仮設工事・準備工事・・・仮設工事の重要性、工事機械について
- 第5回 躯体工事（土工事、地業・基礎工事）・・・施工順序・施工管理
- 第6回 躯体工事（鉄筋・型枠・コンクリート工事）・・・施工順序・施工管理
- 第7回 躯体工事（鉄筋・型枠・コンクリート工事）・・・施工順序・施工管理
- 第8回 躯体工事（鉄骨工事）・・・施工順序・施工管理
- 第9回 躯体工事（木工事）・・・施工順序・施工管理
- 第10回 屋根・防水工事・・・施工順序・施工管理
- 第11回 仕上工事・・・仕上工事の種類・施工順序・施工管理
- 第12回 設備工事・・・施工順序・施工管理
- 第13回 完成・引渡し・アフターケア
- 第14回 リニューアル・解体工事、特殊技術・・・施工順序と施工管理、特殊技術
- 第15回 まとめと試験・・・建築生産のまとめと試験（成績評価）

教材・テキスト・参考文献等

- ・教科書は使用しませんが、資料を活用する予定です。

成績評価方法

- ・講義の終わりに講義の内容で感じたことや疑問点を記入させ提出してもらい、それで出欠の確認をとります。
- ・出席を重視しますが、第15回講義で試験を行い100点満点中60点未満は不可とし、出席率を70%、試験得点率を30%の割合で合算し、成績評価をします。
- ・5回以上欠席した場合、5回以上欠席していないが第15回講義の試験を受けなかった場合は対象外とします。

その他

- ・初学者が興味を持って学習できるよう資材や道具の実物を持ち込み、建設中の現場にいるような臨場感を持たせ、複雑な施工の流れを分かりやすく伝えられるよう工夫したい。

講義科目 : 住環境計画	単位数 : 2
マークシート略 : [住環境計]	学習形態 : 選択科目
担当 : 小野寺 一成	建築士指定科目

講義のねらい

住宅地を構成する諸環境（道路、公園緑地、街並み景観、住環境整備、地区計画、都市計画、まちづくりの方法等）について基本的な仕組みと計画手法などを講義する。具体的な事例を題材に住環境計画の基礎知識、考え方、計画理念、計画方法等を多面的に学ぶ。住宅及びその周辺環境を取り扱い、住宅地計画や地域施設設計に関する学習の出発点となるものである。居住環境コースにおけるまちづくり及び都市計画分野の初歩科目として位置づけられる。

授業計画

第1回	ガイダンス：講義内容、講義スケジュール
2回	住環境を形成するまちづくりの概要
3回	都市の成り立ちからみる住環境
4回	住環境を形づくる都市計画
5回	住環境を形成する土地利用計画
6回	住宅とまちをつなぐ、道路、公園
7回	住宅地、まちをつくる市街地開発
8回	中間試験
9回	住民主体のまちづくりによる住環境整備
10回	地区計画による住環境計画
11回	住宅地の街並み形成デザイン
12回	防災に強い住宅地計画
13回	コミュニティ、コミュニティデザイン
14回	住民参加型まちづくりの特徴と効果
15回	まとめと確認

※なお、授業の進捗状況によって、内容を変更することもありえる。

教材・テキスト・参考文献等

- ・基本的には、Power Point を使用した講義。ppt資料などを配布予定。
- ・テーマによっては、DVD 教材などの視聴覚教材の利用を予定。

成績評価方法

- ・中間試験、試験、講義後のキーワード試験をあわせて評価。
- ・1/3以上欠席した場合は評価の対象外、遅刻3回で1回の欠席とみなす。

その他

- ・授業の最後に、当日行った講義の重要なキーワードの回答を求める簡単な小試験を予定。

講義科目 : 都市計画論	単位数 : 2
マークシート略 : [都市計画]	学習形態 : 選択科目
担当 : 小野寺 一成	建築士指定科目

講義のねらい

都市計画の歴史を知るとともに、都市計画の目的、計画策定過程、計画における考え方及び手法などを理解した上で、都市計画の具体的な内容や手続きに関する基礎的知識を身に付けることを目的とする。また、都市を形づくる建築形態規制、地区計画、景観計画、防災計画などを理解するとともに、広域都市計画の必要性や住民参加のまちづくりなどに向けた、今後の都市計画の課題を考察する。

授業計画

第1回	ガイダンス：講義内容、講義スケジュール
2回	都市計画とは
3回	都市及び都市計画の歴史
4回	都市計画マスタープラン、コンパクトシティ
5回	住宅地、商業地、工業地等の土地利用計画
6回	道路、公園など都市施設整備計画
7回	市街地整備事業計画
8回	中間試験
9回	アジアのまちづくり、アジアの都市居住
10回	地区計画
11回	景観計画
12回	防災計画
13回	住民参加と都市計画
14回	今後の都市づくりと都市計画の課題
15回	まとめと確認

※なお、授業の進捗状況によって、内容を変更することもありえる。

教材・テキスト・参考文献等

- ・基本的には、Power Point を使用した講義。ppt資料などを配布。
- ・テーマによっては、DVD 教材などの視聴覚教材の利用を予定。

成績評価方法

- ・中間試験、試験、講義後のキーワード試験をあわせて評価。
- ・1/3以上欠席した場合は評価の対象外、遅刻3回で1回の欠席とみなす。

その他

- ・授業の最後に、当日行った講義の重要なキーワードの回答を求める簡単な小試験を予定。

講義科目 : 地域環境学	単位数 : 2
マークシート略 : [地域環境]	学習形態 : 選択科目
担当 : 小野寺 一成	建築士指定科目

講義のねらい

地域の自然や歴史文化に興味を持ち、地域環境問題を理解し、地域環境計画の基礎的内容について理解を深める。都市及び地域の環境、自然環境、地球環境についての基礎的な知識と理解力、分析力を習得するとともに、計画能力を養い育てることを目的とする。また、地域環境の今日的な課題を学び、地域及び都市に興味を持つことを喚起し、持続可能な地域づくりの理念とその意義について認識を深める。

授業計画

第1回	ガイダンス：講義内容、講義スケジュール
2回	都市化による環境問題、失われいく日本の自然環境
3回	ヒートアイランド現象と地球温暖化、環境汚染
4回	環境に配慮した都市づくり、地形にあった都市
5回	都市と地域の自然環境づくり、ビオトープ
6回	集約型都市構造、低炭素型まちづくり計画
7回	環境に配慮した市街地整備計画
8回	中間試験
9回	地域環境のデザイン
10回	都市・地域の環境計画
11回	農村・田園の環境計画
12回	歴史的風致の維持・再生
13回	地域環境と住民参加
14回	都市・農村・自然の新秩序
15回	まとめと確認

※なお、授業の進捗状況によって、内容を変更することもありえる。

教材・テキスト・参考文献等

- ・基本的には、Power Point を使用した講義。ppt資料などを配布。
- ・テーマによっては、DVD 教材などの視聴覚教材の利用を予定。

成績評価方法

- ・中間試験、試験、講義後のキーワード試験をあわせて評価。
- ・1/3以上欠席した場合は評価の対象外、遅刻3回で1回の欠席とみなす。

その他

- ・授業の最後に、当日行った講義の重要なキーワードの回答を求める簡単な小試験を予定。

講義科目	:まちづくり設計 I	単位数	:1
マークシート略	:〔まち設 I〕	学習形態	:選択科目
担当	:小野寺 一成		建築士指定科目

講義のねらい

戸建て住宅の周辺環境（接道状況、隣接住宅、広場や植栽など）を意識しながら、戸建て集合住宅地を計画、及び個別の住宅を設計する。前半は4名程度のグループ作業により、1,200㎡程度の敷地に200㎡以上の戸建て住宅用地4敷地程度と、広場や植栽、歩行者専用道路などを計画する。次に、後半は個人作業として、グループにより計画された戸建て住宅地の各敷地に、各々が周辺環境を意識しながら、テーマ・コンセプトを実現する戸建て住宅を設計する。

授業計画

第1回	課題説明：講義内容、講義スケジュール、グループ決め
2回	戸建集合住宅地のテーマ、コンセプト決め
3回	戸建集合住宅地のゾーニングと配置計画
4回	戸建集合住宅地の外構計画
5回	戸建集合住宅地計画案
6回	戸建集合住宅地のルールづくりと住宅地計画
7回	中間提出、及び中間講評
8回	各戸建住宅の敷地及びテーマ、コンセプト決め、配置図検討
9回	各戸建住宅の1階平面図及び配置図案
10回	各戸建住宅の各階平面図、断面図及び立面図案
11回	各戸建住宅の各階平面図、断面図及び立面図
12回	各戸建住宅の模型作成
13回	とりまとめプレゼンテーション
14回	最終提出（中間提出の戸建住宅地に各戸建住宅を併せて提出）
15回	返却最終講評

※なお、授業の進捗状況によって、内容を変更することもありえる。

教材・テキスト・参考文献等

- ・随時、資料などを配布予定。

成績評価方法

- ・中間提出及び講評、最終提出及び講評をあわせて評価。
- ・1/3以上欠席した場合は評価の対象外、遅刻3回で1回の欠席とみなす。

その他

- ・課題提出の締め切り時間を厳守。
- ・建築製図基礎、住生活設計 I を履修していることが望ましい。

講義科目 :まちづくり設計Ⅱ	単位数 :1
マークシート略 :〔まち設Ⅱ〕	学習形態 :選択科目
担当 :小野寺 一成	建築士指定科目

講義のねらい

ここでは「開かれた共用施設を持つ住宅地づくり」がテーマである。この共用施設は地域に開かれ周辺地域に貢献する施設とする。どんな施設内容や空間が求められるかを考え、共用施設を持つ5世帯程度の集合住宅を設計する。都市に集まって住む家、地域に開かれた居住環境のあり方、コミュニティづくり等を踏まえ、居住のしくみとその空間を提案する。共用施設は、地域で必要とされる機能あるいは共通の趣味等からソフト面を考慮して提案してほしい。

授業計画

第1回	課題説明：講義内容、講義スケジュール、グループ決め
2回	対象敷地現地調査のまとめと発表
3回	計画テーマ、計画コンセプト、イメージ案作成、ブロック模型
4回	全体計画のゾーニングと配置計画案作成
5回	全体計画の建物ボリュームとプランニング
6回	全体計画と建築計画（イメージ）
7回	企画計画書提出及び講評（前半はグループ作業）
8回	全体配置計画とボリューム模型作成、機能ゾーニング
9回	平面計画と立面計画、断面計画の設計
10回	居住システムと住戸プランの検討及び設計
11回	基本計画設計案と模型作成開始
12回	基本計画設計の再検討と建築デザイン、模型作成
13回	とりまとめプレゼンテーション
14回	基本計画設計提出（後半は個人作業）
15回	返却基本計画設計講評

※なお、授業の進捗状況によって、内容を変更することもありえる。

教材・テキスト・参考文献等

- ・随時、資料などを配布予定。

成績評価方法

- ・企画計画書提出及び講評、基本計画設計提出及び講評をあわせて評価。
- ・1/3以上欠席した場合は評価の対象外、遅刻3回で1回の欠席とみなす。

その他

- ・課題提出の締め切り時間を厳守。
- ・建築製図基礎、住生活設計Ⅰ、住生活設計Ⅱ、まちづくり設計Ⅰを履修していることが望ましい。

講義科目	: 力学基礎	単位数	: 2
マークシート略	: [力学基礎]	学習形態	: 選択科目
担当	: 小竹 茂夫		

講義のねらい

物体の運動の学問である力学を中心に，物理学の考え方について学習する．エネルギー保存則を元に，並進運動や回転運動について定量的な考え方を学ぶ．また質点や質点系・剛体における運動方程式や力の釣り合い，運動量の保存則，回転の運動方程式や力のモーメントの釣り合い，角運動量について理解する．さらに，運動量や角運動量の保存則や時間変化から，自動車や自転車，振り子，ブランコ，コマ，フィギュアスケートといった日常的な運動について理解する．微分・積分等の理解は極力簡単なものに止め，直感的な物理量と物理現象の概念・イメージ，基本法則による理解に努める．理系的な職業を目指す人が，自然科学の基礎的な考え方や「構造力学」等に至る前の予備知識を身に付ける上でも受講を勧める．

授業計画

第1回	力学はどう発展してきたのか，古代・中世と近・現代
2回	様々な物理量とSI単位系
3回	位置, 速度, 加速度と微分・積分
4回	運動エネルギーとポテンシャルエネルギー
5回	様々なエネルギーの保存則とエネルギー散逸
6回	力とニュートンの運動方程式と運動量保存則
7回	等速直線運動と等加速運動と放物運動
8回	抵抗下の運動とエネルギー散逸
9回	振動と弾性エネルギー
10回	質点系の重心の運動と回転運動（角度, 角速度, 角加速度）
11回	質点系の力と力のモーメントの釣り合い
12回	質点系と剛体系の回転運動の方程式
13回	コマと自転車とフィギュアスケートとブランコ
14回	弾性体の力学
15回	全体とまとめと復習

教材・テキスト・参考文献等

- ・原康夫著 「物理学基礎」 学術図書出版社（ISBN 978-4780605259）
- ・原康夫，右近修治著 「物理学演習問題集 力学編」 学術図書出版社（ISBN 978-4780601701）

成績評価方法

授業中の質問や議論を重視します．授業の最後に小テストをします．出席必須．質問・議論・出席（30点）+小テスト・宿題（30点）+定期試験（40点）

その他

色々な力学現象を言葉や図，式で説明できるようにすることを目標とします．構造力学の前段階としての，剛体の力学，弾性体の力学にも言及します．

講義科目 : 消費者法	単位数 : 2
マークシート略 : [消費者法]	学習形態 : 選択科目
担当 : 村田 雄介	

講義のねらい

- ・「消費者」問題が、民法を中心とする一般の法理論によってどのように捉えられているのか、そこには、どのような問題・限界が存在するのかを理解すること。
- ・「消費者」問題が、「消費者法」によってどのように規律されようとしているのか、そこには、どのような基本的考え方があるのかを理解し、「消費者」及び「消費者法」の法的な意義を明らかにすること。
- ・個々の法律や条文の解釈というよりも、「生きた消費者法」と「消費者法の基本原理」を学ぶこと。

授業計画（予定）

第1回	ガイダンス、「消費者法」とは何か
2回	全法体系の中の「消費者法」の位置づけ
3回	一般法としての「民法」と特別法としての「消費者法」
4回	「民法」概説
5回	消費者契約① 契約理論
6回	消費者契約② 意思表示
7回	消費者契約③ 契約の拘束力からの解放
8回	消費者法① 特定商取引に関する法律Ⅰ
9回	消費者法① 特定商取引に関する法律Ⅱ
10回	消費者法② 割賦販売法Ⅰ
11回	消費者法② 割賦販売法Ⅱ
12回	消費者法③ 消費者信用
13回	消費者法④ 消費者契約法
14回	消費者法⑤ 製造物責任法
15回	筆記試験

教材・テキスト・参考文献等

レジュメに基づいて講義をする。一般的な文献及び六法については初回の授業で、その他の重要な文献については各回の授業で適宜紹介する。

成績評価方法

平常点（40%）、筆記試験及び課題レポート（60%）

その他

- ・民法等につき知識を有していないことを前提に対話をしながら授業を進める。

講義科目 : 経済原論	単位数 : 4
マークシート略 : [経済原論]	学習形態 : 選択科目
担当 : 田添 篤史	

講義のねらい

経済学には、企業や消費主体の最適化に基づく個別主体の選択とその結果に焦点をあてるミクロ経済学と、経済を個々の主体の単純な合成としては把握せず、一つの独自の総体として取り扱うマクロ経済学の2つが存在しています。この講義では第2回から第16回においてミクロ経済学、第17回から第29回でマクロ経済学を取り扱います。

授業計画

第1回	ミクロ経済学とマクロ経済学	第16回	余剰分析(2)
2回	経済学の思考パターンとグラフの読み方	17回	経済学の全体像 - 様々な考え方
3回	限界効用理論	18回	国民経済計算(1)
4回	無差別曲線の理論(1)	19回	国民経済計算(2)
5回	無差別曲線の理論(2)	20回	財市場の分析(1)
6回	無差別曲線の理論(3)	21回	財市場の分析(2)
7回	無差別曲線の理論(4)	22回	財市場の分析(3)
8回	生産の理論	23回	財市場の分析(4)
9回	完全競争市場の生産量決定(1)	24回	資産市場の分析(1)
10回	完全競争市場の生産量決定(2)	25回	資産市場の分析(2)
11回	独占の理論	26回	資産市場の分析(3)
12回	寡占の理論	27回	財市場の資産市場の同時分析(1)
13回	ゲームの理論	28回	財市場と資産市場の同時分析(2)
14回	市場の均衡と安定性	29回	経済成長の源泉
15回	余剰分析(1)	30回	テスト

教材・テキスト・参考文献等

毎回資料を配布します。資料は以下の参考書を要約したものとなっています。

参考文献

石川秀樹(著) 中央経済社

『試験攻略 新・経済学入門塾1 マクロ編』

『試験攻略 新・経済学入門塾2 ミクロ編』

成績評価方法

期末テスト

その他

講義科目 : 環境経済論	単位数 : 2
マーケット略 : [環境経済]	学習形態 : 選択科目
担当 : 森岡 洋	

講義のねらい

環境に関心のある学生が環境経済学の基本的考え方や分析方法を理解できるようになってもらう。

環境問題が発生するメカニズムを明らかにするとともに、経済学の観点から環境問題を解決する具体的な対策を明らかにする。

授業計画

第1回	ごみ問題と循環型社会
2回	外部性と市場の失敗
3回	限界社会的費用について
4回	外部性の内部化
5回	共有資源の利用と管理
6回	漁業資源の管理
7回	公共財とフリーライダー
8回	直接規制と市場メカニズム
9回	琵琶湖の水質管理と直接規制
10回	自主規制
11回	環境税
12回	環境税による経済的厚生改善
13回	地球温暖化問題
14回	温暖化政策と今後の課題
15回	テスト

教材・テキスト・参考文献等

栗山浩一・馬奈木俊介著『環境経済学をつかむ』有斐閣

成績評価方

出席を3分の2以上すること。

最後に筆記試験を行う。評価として、試験90%、出席10%として行う。

その他

講義科目 : 環境政策論	単位数 : 2
マークシート略 : [環境政策]	学習形態 : 選択科目
担当 : 南 有哲	

講義のねらい

21世紀の市民にとっては、環境問題について生活者の立場から発言し行動するだけでは、おそらく不十分であり、主権者として環境政策に積極的にかかわっていくことが求められるものと考えられる。本講義においては、環境政策を考える上での基本的な概念となる「環境問題」「市場経済」「国家」について概観した後、現代における環境政策の核心ともいえる「気候政策」について説明し、あるべき環境政策のあり方について考察する予定である。

授業計画

- 第1回 はじめに
- 第2回 環境問題とは何か
- 第3回 環境破壊の人類史①
- 第4回 環境破壊の人類史②
- 第5回 工業化について
- 第6回 グローバル市場経済の仕組み①
- 第7回 グローバル市場経済の仕組み②
- 第8回 市場経済と国家
- 第9回 南北格差の歴史と現状①
- 第10回 南北格差の歴史と現状②
- 第11回 気候政策の国際的展開①
- 第12回 気候政策の国際的展開②
- 第13回 日本における気候政策①
- 第14回 日本における気候政策②
- 第15回 求められる環境政策とは

教材・テキスト・参考文献等

講義中に適宜指示する。

成績評価方法

毎回小レポートを課し、それによって評価を行う

その他

講義科目 : 環境倫理学	単位数 : 2
マークシート略 : [環境倫理]	学習形態 : 選択科目
担当 : 南 有哲	

講義のねらい

自然や環境と人間との関係にかかわる問題を原理的に考察し、われわれはいかに行動すべきかを追求することが「環境倫理学」なる学問の課題である。本講義においては、「南北問題の環境倫理」「人間中心主義批判」なる二つの大きなテーマに沿って、多様な事実や論点を紹介することで、みなさんに環境倫理学なるものの基本に触れていただくことを目標とする。

授業計画

- 第1回 はじめに／世代間倫理について
- 第2回 世代間倫理について
- 第3回 人間中心主義批判とは何か
- 第4回 人間中心主義を批判する学説①
- 第5回 人間中心主義を批判する学説②
- 第6回 人間中心主義を批判する学説③
- 第7回 人間中心主義批判は成り立ちうるか①
- 第8回 人間中心主義批判は成り立ちうるか②
- 第9回 人間中心主義批判をどうみるべきか
- 第10回 環境的正義について
- 第11回 南北問題の環境倫理①
- 第12回 南北問題の環境倫理②
- 第13回 外来生物問題を環境倫理から考える①
- 第14回 外来生物問題を環境倫理から考える②
- 第15回 まとめ

教材・テキスト・参考文献等

講義中に適宜指示する。

成績評価方法

- ・ 毎回の小レポート…50%
- ・ 期末レポート…50%

その他

講義科目 :生態系の科学	単位数 :2
マークシート略 :〔生態科学〕	学習形態 :選択科目
担当 :片平 浩孝	偶数年開講

講義のねらい

生態系における生物の個体数，種類数はどのように決まるのか？また、生物間の関係やそのバランスはどのようにして維持されているのか？多くの生物について、この疑問に対する明確な答えは得られていません。本講義では、まずは必要と思われる生物学、生態学の基本的な用語の概説をします。次に、様々な環境での生態系の構造について解説を行い、最後に生態系の保全や、人間生活との関わりについて、実際の研究例を交えて紹介します。これらのことから、上記疑問について考えていくこと、考えられる知識を持つことを目的とします。

授業計画

第1回	生態学を学ぶための生物学 1
2回	生態学を学ぶための生物学 2
3回	環境適応と進化
4回	環境と生態系
5回	個体数の変動
6回	生物間の相互作用 1
7回	生物間の相互作用 2
8回	生物の多様性 1
9回	生物の多様性 2
10回	生物の行動
11回	物質循環
12回	人間生活と生態系 1
13回	人間生活と生態系 2
14回	研究事例紹介
15回	レポート（または筆記試験）

教材・テキスト・参考文献等

- ・必要と思われる教材については適宜配布します。
- ・必要と思われる参考文献は講義中に紹介します。

成績評価方法

出席点(20%)、レポート（または筆記試験）（80%）を基準に評価する。

その他

講義科目 : 環境共生論	単位数 : 2
マーケット略 : [環境共生]	学習形態 : 選択科目
担当 : 南 有哲	

講義のねらい

地球温暖化や生物多様性減少といった地球的規模の環境問題について、映像を通じて具体的なイメージをつかみ、その上で自然と人間との共生のあり方について考えていく。

本講義は、資料を用いた上映前説明、ビデオ上映、補足説明および質疑応答によって構成される。

授業計画

本講義で扱う予定のテーマは、以下の通りである。

地球温暖化
熱帯雨林の破壊
森林の破壊と再生
外来生物問題
土壌と水をめぐる問題
生態系サービス
遺伝子資源
食糧をめぐる問題
バイオテクノロジー
原子力発電
環境破壊と南北格差

教材・テキスト・参考文献等

・講義中に適宜指示する。

成績評価方法

毎回小レポートの提出を求め、その結果の集計によって成績評価を行う。

なお、本講義の核心は映像の視聴であるので、受講者の妨げとなるのを防ぐため、上映開始以降の遅刻入室は原則として認めない。また私語をやめない受講者については、退室を指示することがある。

講義科目	: 居住環境特別演習	単位数	: 4
マークシート略	: [居環演習]	学習形態	: 必修科目
担当	: 小野寺 一成	* 第2学年で履修	

講義のねらい

まちづくり及び都市計画に関するテーマについてグループ等で研究を行い、研究過程で調査、課題抽出、解決方法、考察等の検討、研究報告のとりまとめ、表現の方法等を体系的に学び、最終的にまちづくり及び都市計画について理解を深め考察することを狙いとしている。調査や視察等を通じ机上では得られない社会的な課題を実感し、これに対する自らの考えをまとめ、発表、プレゼンテーションできることが大切であると考えている。

授業計画

まちづくり及び都市計画さらには地域の公共施設等の今日的な課題等を題材に研究テーマを決め、資料調査及び現地調査等に基づく分析による結果を導き、各自の考察を行い、卒業研究論文または卒業研究設計として取りまとめる。

1年間のスケジュールは、前期は輪講を行いながら各自研究テーマを決め、夏休みに調査を行い、後期から卒業研究報告を取りまとめ発表する。（過去のゼミ視察：平城宮跡、奈良町、犬山城、明治村、一身田寺内町、津城址、大門商店街、名古屋市町並み保存地区など）

研究手順（例）は以下のとおり。

- ・まちづくり及び都市計画に関する社会的背景や今日的な課題の抽出
- ・上記課題を解決する研究テーマの設定
- ・研究テーマに関する参考文献、資料の収集と理解
- ・研究に係る地域、施設の視察
- ・研究対象地域または施設の設定及び現地調査
- ・現況及び現地調査等の分析による結果と考察
- ・卒業論文の執筆、または卒業設計の制作

教材・テキスト・参考文献等

- ・随時配布または紹介、調査過程で資料・データを入手。

成績評価方法

- ・出席状況、ゼミでの調査報告、最終成果（卒業論文または卒業設計）をあわせて評価。各人の自主的な取り組みも考慮。

その他

- ・ゼミは輪講や調査報告等を議論形式で進めるため、その準備としてゼミ時間以外での自主的な調査等の取り組みが大切。都市計画関係の講義を受講していることが望ましい。
- ・ゼミ時間以外での調査などに参加する場合があることも前提としておいてほしい。

講義科目	: 居住環境特別演習	単位数	: 4
マークシート略	: [居環演習]	学習形態	: 必修科目
担当	: 木下 誠一	* 第2学年で履修	

講義のねらい

建築空間と人々の生活との対応関係を理解し、より良い生活空間のあり方を考察する。実際に現地調査を行うなど、座学では得られない体験を通して理解を深めることが大切であると考えている。

授業計画

住宅、集合住宅、地域施設に関するテーマを設定し、調査分析により現状と課題を把握した上で、より良い空間のあり方についての考えを設計作品又は論文にまとめる。研究は、個人または3名以内のグループ単位で行う。

主な研究フローは以下の通り。

- ・ テーマ設定
- ・ 参考文献の理解
- ・ 参考施設の見学
- ・ 調査計画
- ・ 現地調査
- ・ 調査結果の分析・考察
- ・ 作品の制作または論文の執筆

教材・テキスト・参考文献等

必要に応じて適宜指示する。

成績評価方法

ゼミでの報告内容、参加度、最終成果物（作品又は論文）を総合的に評価する。

その他

- ・ ゼミの時間は主に報告や議論にあてるため、時間外での自主的な取り組みが必要である。
- ・ 設計やデザインに関心があり、手間を惜しまない態度を期待する。

講義科目	: 居住環境特別演習	単位数	: 4
マークシート略	: [居環演習]	学習形態	: 必修科目
担当	: 南 有哲	* 第2学年で履修	

講義のねらい

地球環境破壊の現状について具体的に学び、問題解決への方途を考えていく。

授業計画

- ① テーマに関連するビデオを上映し、資料を用いた補足講義を行うので、これを受けて討論する。その後、小レポートを時間内に作成する。
- ② 春・夏・冬の長期の休みには指定された文献あるいはテーマについてのレポートを作成する。
- ③ 参加者各自が、卒業研究としてゼミ論文を執筆する。
- ④ 可能であれば、フィールドワーク（施設見学など）も行う予定である。

教材・テキスト・参考文献等

- ・適宜指定する。

成績評価方法

- ・出席および提出物によって判断する。

その他

講義科目	: 居住環境特別演習	単位数	: 4
マークシート略	: [居環演習]	学習形態	: 必修科目
担当	: 笠 浩一朗	* 第2学年で履修	

講義のねらい

近年、居住環境を改善するために、情報科学技術を利用することが増えてきている。居住環境の改善に、情報科学技術がどのように利用されているのかを理解し、実際に情報科学技術を利用して居住環境の改善方法を提案し、その方法を検証・考察する。

授業計画

最初に、居住環境の改善に情報科学技術を利用できるテーマを設定する。テーマ設定に基づき、調査分析、及び、文献調査により課題を把握し、より良い居住環境を実現するための研究に取り組み、研究結果を論文にまとめる。

研究の流れは、下記の通りである。

- ① タイピング能力、及び、Office ソフトの基本操作の習得
- ② 情報処理技術の利用方法の修得（輪講、及び、実習）
- ③ 研究テーマ設定・研究計画の作成
- ④ 研究に取り組む（分析、調査、アプリ開発など）

教材・テキスト・参考文献等

必要に応じて適宜指示する。

成績評価方法

講義への参加度、日々の取り組み、及び、成果物を総合的に評価する。

その他

- ・ 講義時間内では、報告・議論が中心となるので、講義の時間外での取り組みが必要である。

講義科目 : 社会福祉援助技術論 I	単位数 : 4
マークシート略 : [援技論 I]	学習形態 : 自由選択科目
担当 : 武田 誠一	社会福祉士必修科目
	* 第1学年で履修

講義のねらい

本講義では、ソーシャルワーク（相談援助）の基本理念、共通課題、ソーシャルワーク（相談援助）の体系や内容等を学ぶ。

また、相談援助の過程において必要となる知識や技術について理解を深める。

授業計画

1	オリエンテーション	16	ソーシャルワークにおける援助関係 1
2	私たちの暮らしとソーシャルワークの実際	17	ソーシャルワークにおける援助関係 2
3	ソーシャルワークの実践モデル1	18	ソーシャルワークにおける援助関係 3
4	ソーシャルワークの実践モデル2	19	面接技法 1
5	診断主義アプローチ	20	面接技法 2
6	心理社会アプローチ	21	面接技法 3
7	問題解決アプローチ	22	ソーシャルワークのさまざまな技法 1
8	行動変容アプローチ	23	ソーシャルワークのさまざまな技法 2
9	課題中心アプローチ	24	ソーシャルワークのさまざまな技法 3
10	危機介入アプローチ	25	スーパービジョンと記録 1
11	エンパワメントアプローチ	26	スーパービジョンと記録 2
12	その他のアプローチ	27	事例分析 1
13	ソーシャルワークの援助過程 1	28	事例分析 2
14	ソーシャルワークの援助過程 2	29	まとめ
15	ソーシャルワークの援助過程 3	30	確認

教材・テキスト・参考文献など

「私たちの暮らしとソーシャルワークⅡ—相談援助の理論と方法—」、保育出版社、2016年。

成績評価方法

まとめと確認	50%
レポート	30%
学習態度	20%
計	100%

評価は、まとめと確認、レポート、学習態度（授業態度・課題の提出状況）を基に評価します。

その他

ソーシャルワーク(相談援助)の方法・技術を学ぶ科目です。

その技術は、さまざまな生活課題を抱える利用者のために用います。

そのため援助者は、利用者の生活課題とは何か？それはどのようにして引き起こされるのか？

その点を理解しなくてはなりません。

しかし、技法のみに目を奪われず、利用者の生活に視点を置き学んでください。

講義科目	: 社会福祉援助技術論Ⅱ	単位数	: 4
マークシート略	: [援技論Ⅱ]	学習形態	: 自由選択科目
担当	: 水谷 久		社会福祉士必修科目
			* 第2学年で履修

講義のねらい

社会福祉援助技術の理念と意義を知り、その展開過程について学習します。さらにサービス等利用計画及び個別支援計画作成プロセスを理解し、社会福祉活動の運営管理の実際について学びます。

また、社会福祉の現場においてどのようなソーシャルワーカーが求められているかについて考え、地域生活を支える支援スキルを養い、社会福祉援助における価値・知識・技術について理解を深めてもらうことを目的に講義を行います。

授業計画

第1回	社会福祉援助技術とは	(対人援助技術について)
第2回	社会福祉援助技術に関する専門職	(援助技術関係の歴史上の人物)
第3回	ソーシャルワークと援助技術	(社会福祉援助技術の概要)
第4回	ケアマネジメントの実践	(受付票・アセスメント表)
第5回	個別支援計画作成のポイント	(サービス等利用計画演習)
第6回	利用者主体の個別支援計画	(個別支援計画の作成)
第7回	サービス等利用計画の作成	(ロールプレイ)
第8回	地域生活支援 (演習1: サービス担当者会議)	(ロールプレイ)
第9回	ICFの理解	(国際生活機能分類の視点)
第10回	国家試験過去問題と解説	(模擬問題)
第11回	自閉症の障がい特性と理解	(支援のポイント)
第12回	支援を必要とする子供たちの理解	(発達障害児の支援ポイント)
第13回	地域生活支援 (演習2: モニタリング)	(ロールプレイ)
第14回	直接援助技術の基本的な枠組み	(ケースワークとグループワーク)
第15回	社会福祉援助技術模擬試験と解説	(まとめ)

教材・テキスト・参考文献等

- ・講義については、それぞれの單元ごとに必要なプリントを作成し、授業を進めていく予定です。日総研出版:「障がい者ケアプラン記載事例集」(著者:鈴木真、水谷久、南川久美子、森徹雄)及び中央法規出版:「新・社会福祉士養成講座テキスト第7巻・第8巻相談援助の理論と方法」を紹介しておきます。

成績評価方法

- ・この科目の評価は ①授業態度・出欠状況 ②筆記試験又は課題レポートにより総合評価を行う。
- ・5回以上欠席した場合は、評価の対象外とします。

その他

- ・授業の状況により、内容を変更することもあります。

講義科目 : 社会福祉援助技術演習 I	単位数 : 4
マークシート略 : [援技演 I]	学習形態 : 自由選択科目
担当 : 北村 香織	社会福祉士必修科目
	* 第1学年で履修

講義のねらい

社会福祉援助の方法、特にソーシャル・ケースワークの技術を体得することを目標とする。

「社会福祉援助技術論」の講義で学んだ知識や考え方を、実習や現場で生かす為の橋渡しになるような内容にしたいと考えている。

具体的には、演習方式で行い、ロールプレイングや事例検討などもとりいれながら進めていく。また、自分自身と向き合うことを通じて、自己覚知を促し、支援者としての自己を意識できるようになることをめざす。

授業計画

- 1) 社会福祉援助とは
- 2) 支援者としての自分とは？～ライフヒストリーを通して（自己覚知1）
- 3) 他者への理解（自己覚知2）
- 4) 福祉専門職としての価値観
- 5) コミュニケーションの方法1（非言語的コミュニケーションを中心に）
- 6) コミュニケーションの方法2（言語的コミュニケーションを中心に）
- 7) 面接における基本的応答技法1
- 8) 面接における基本的応答技法2
- 9) ソーシャル・ケースワークの事例検討1（エコマップ・ジェノグラムを使って）
- 10) ソーシャル・ケースワークの事例検討2
- 11) ソーシャル・ケースワークの過程1（インテーク面接）
- 12) ソーシャル・ケースワークの過程2（アセスメントの方法）
- 13) 支援計画の作成（プランニング）1
- 14) 支援計画の作成（プランニング）2
- 15) まとめ

教材・テキスト・参考文献等

テキストは使用しない。毎回演習用のプリントを配布する。

参考文献は適宜提示する。

成績評価方法

- ・ 出席は毎回取る。
- ・ 出席、演習への参加状況、毎回提出する「ふりかえり」の内容及び学期末に提出するレポートから総合的に評価する。

その他

援助技術とは主体的に取り組んでいかなければ身につけることができないものです。また、普段から意識的に自分の言動に心を配っていくことが必要です。実際に援助技術について練習する機会というのは多くはありませんので、皆さんの主体的・積極的な参加を望みます。

シラバス(様式)

●対象、講義科目、担当の箇所にご記入ください。系列・開設・マークシート略・単位数・学習形態・備考の箇所は事務局で記入します。

対象:

系列:	講義科目:社会福祉援助 技術演習Ⅱ	単位数:
開設:	マークシート略: 担当:千坂克馬	学習形態: 備考:

講義のねらい

- ①利用者さんが何を求めているのかという視点から今までの学習を整理します。
- ②援助技術を実際に練習する中で今まで学んできた方法論をとらえ直します。
- ③個々の援助技術を包括的にとらえ直す中で主体的に判断・行動できる援助者になるための視点を養います。

授業計画

第 1 回 オリエンテーション 実習を振り返る中で

第 1 部 自己開示とコミュニケーション

- 第 2 回 自己開示と参加: ロールプレイとグループワーク
第 3 回 情動面と表現の支援: セラピー・レクリエーション
第 4 回 コミュニケーションの評価と支援: 伝えたいことの整理と伝達

第 2 部 アセスメントと支援仮説

- 第 5 回 質問紙法
第 6 回 観察法: 観察記録の取り方
第 7 回 検査法Ⅰ
第 8 回 検査法Ⅱ: ハンディの見方と評価
第 9 回 アセスメントレポートの作成

第 3 部 支援とその評価

- 第 10 回 支援計画の作成
第 11 回 機能分析: 生活場面の見直し
第 12 回 課題分析: ジョブコーチ
第 13 回 自立支援
第 14 回 ピアサポート
第 15 回 インシデントプロセス法

教材・テキスト・参考文献等

テキストは使用せず、毎回レジュメと資料を配布します。
参考文献は講義中に適宜紹介します

成績評価方法

毎回授業感想文を提出してもらいます。
レポート2回
評価は講義感想文50点、レポート50点により評価します。

その他

演習であり参加者の姿勢が講義内容に大きく影響するので、積極的な受講態度が望まれます。

講義科目 : 社会福祉援助技術演習Ⅲ	単位数 : 2
マークシート略 : [社技演Ⅲ]	学習形態 : 選択科目
担当 : 千坂 克馬	第2学年で履修

講義のねらい

実習体験を中心にケースを検討し、具体的な支援計画を立てるための視点をいくつかの視点から整理し、アセスメントにつなげてゆきます。

上記の作業から明らかになった課題と合わせて実習体験でおこなった、あるいは観察した支援の意味を考え、具体的な支援計画の作成を考えます。

個人、ペア、グループ活動の組み合わせによって、みんなと話し合っってケースを考える練習にしたいと考えています。

授業計画

第1回	実習報告 概要報告
2回	インシデントプロセス法による事例検討
3回	インシデントプロセス法による事例検討
4回	グループ討論 生活支援の視点から
5回	グループ発表 生活支援の視点から
6回	グループ討論 就労支援の視点から
7回	グループ発表 就労支援の視点から
8回	グループ討論 地域と自立の視点から
9回	グループ発表 地域と自立の視点から
10回	事例発表Ⅰ
11回	事例発表Ⅱ
12回	貧困事例Ⅰ
13回	貧困事例Ⅱ
14回	個別支援計画の作成
15回	個別支援計画の発表

教材・テキスト・参考文献等

こちらで教材を準備します。

成績評価方法

授業で使用するワークシートと、2回のレポートの結果に基づき評価させていただきますと考えています。

その他

演習なので、みなさんの積極的な参加が実りのある授業につながると思います。

講義科目 : 社会福祉援助技術現場実習 I	単位数 : 3
マークシート略 : [現場実 I]	学習形態 : 自由選択科目
担当 : 長友 薫輝・武田 誠一	社会福祉士必修科目
	* 第1学年で履修

講義のねらい

本科目は、実習科目である。社会福祉施設や機関の役割を実際的に理解するとともに、社会福祉専門職の役割や業務の実際を学ぶ。

実習においては自己の課題を持って臨み、現場での職員や利用者との関わり等から問題意識を深め、援助技術の習得を目指す。

授業計画

- ・実習期間における実習。
- ・実習期間中には教員による巡回指導を行い、必要時には大学における個別指導を行う。

<現場での体験から学ぶこと>

- ① 社会福祉現場を知る (どのような形態や方法でサービスが提供されているのか。施設・機関の役割は何か。どのような業務があるのか。どのような問題・課題が存在するのか。など)
- ② 利用者を理解する (利用者に関わる。利用者はどのような生活を望んでいるのか。利用者はどのような背景をもっているのか。利用者の生活を知るためにはどのような情報や方法が必要なのか。など)
- ③ 援助技術の使用 (援助技術を学ぶ。どのような技術があるのかを知る。など)
- ④ 自己の理解 (自らに必要な能力や課題の発見。自分の価値観を客観的にみつめ、理解する。など)

教材・テキスト・参考文献等
使用せず。

成績評価方法

配属先実習施設での実習評価、実習ノート、巡回指導時の状況などをあわせて総合的に評価する。

その他

本科目では、社会福祉専門職の養成を目的として、学外の施設において実習を行う。そのため、履修する者には専門職となる意思を持っていること、責任を持った行動が求められる。

講義科目	: 社会福祉援助技術現場実習Ⅱ	単位数	: 3
マークシート略	: [現場実Ⅱ]	学習形態	: 自由選択科目
担当	: 長友 薫輝・北村 香織・武田 誠一		社会福祉士必修科目
			* 第2学年で履修

講義のねらい

本科目は、実習科目である。社会福祉施設や期間の役割を実際的に理解するとともに、社会福祉専門職の役割や業務の実際を学ぶ。

また、社会福祉援助技術現場実習Ⅰで学んだ知見を基にしてテーマを設定し、実習に臨む。そして、現場での職員や利用者とのかかわり等から問題意識を深め、援助技術の習得をめざす。

授業計画

- ・実習期間における実習。
- ・実習期間中には教員による巡回指導を行い、必要時には大学における個別指導を行う。

<現場での体験から学ぶこと>

- ①社会福祉現場を知る
- ②利用者を理解する
- ③援助技術の使用
- ④自己の理解

※社会福祉援助技術現場実習Ⅰの復習時に確認した反省点をもとに、さらに考察を深める。

教材・テキスト・参考文献等

使用せず。

成績評価方法

配属先実習施設での実習評価、実習ノート、巡回指導時の状況などをあわせて総合的に評価する。

その他

本科目では、社会福祉専門職の養成を目的として、学外の施設において実習を行う。そのため、履修する者には専門職としての高い倫理性と積極的な行動が求められます。責任を持って履修すること。

講義科目 : 社会福祉援助技術現場実習指導 I	単位数 : 3
マークシート略 : [実指導 I]	学習形態 : 自由選択科目
担当 : 北村 香織	社会福祉士必修科目
	* 第1学年で履修

講義のねらい

社会福祉施設での現場実習に臨むにあたり、施設の社会的位置づけ、役割、課題などについて学び、考察を深める。それらを通して自分自身が取り組むべき課題を明確にした実習計画を作成することをねらいとする。同時に対人援助職に必要な倫理的感覚、マナーの習得を目指す。

授業計画

- 1) オリエンテーション
- 2) 実習の意義と目的及びマナーについて
- 3) 実習施設の持つ歴史について (報告1)
- 4) 実習施設の種類と概要について (報告2)
- 5) 実習施設の現状と課題について (報告3)
- 6) 実習に向けて
- 7) 実習施設の種類と概要について (報告4)
- 8) 実習施設の現状と課題について (報告5)
- 9) 実習施設の現状と課題について (報告6)
- 10) 実習計画書の作成 1
- 11) 実習計画書の作成 2
- 12) 実習計画書の作成 3
- 13) 実習記録の作成指導 1
- 14) 実習記録の作成指導 2
- 15) 個別指導

教材・テキスト・参考文献等

『社会福祉小六法2018』ミネルヴァ書房。
山縣文治・柏女霊峰編 (2013) 『社会福祉用語辞典 第9版』ミネルヴァ書房。

成績評価方法

試験は実施しない。出席、演習への参加度や報告内容、提出物の内容によって総合的に評価する

その他

この授業は実習に必要な知識やマナーを身につけるために、段階を追って確実に作業を行うことが求められます。さらに、授業中もその場で考え発言していくことが必要となりますので、出席を重視します。

実習は学外へ出て行うため、責任を持った行動が求められます。また、対人援助の現場での実習に向けて、深い知識と高い倫理性を持つことが必要となります。授業には積極的に取り組むこと。

講義科目 : 社会福祉援助技術現場実習指導Ⅱ	単位数 : 3
マークシート略 : [実指導Ⅱ]	学習形態 : 自由選択科目
担当 : 長友 薫輝	社会福祉士必修科目
	* 第2学年で履修

講義のねらい

社会福祉援助技術現場実習Ⅰで経験した成果と関連させながら、社会福祉援助技術現場実習Ⅱに即して、自身の知識と考えを深める。また、社会福祉施設の機能と課題に対する認識をより具体的に把握し、個人・実習記録の作成などを通して実習への指導を展開するなかで、福祉専門職としての感性、自己覚知、記録、利用者との援助関係の持ち方などについてスーパービジョンを受ける。

授業計画

1. 実習オリエンテーション（全体）
2. 実習プログラムや実習課題の達成についての検討
3. 実習報告書の作成
4. 実習体験の共有化（1）（グループでの討議や発表）
5. 実習体験の共有化（2）（グループでの討議や発表）
6. 実習先の業務や組織・法的根拠の理解と現場が抱える課題
7. 実習に向けての準備と指導 ー対人関係と社会人的マナー
8. 実習施設の種類と概要
9. 実習施設の現状と課題
10. 実習生個人票の作成
11. 実習計画書の作成（1）
12. 実習計画書の作成（2）
13. 実習計画書の作成（3）
14. 個別指導
15. 個別指導

教材・テキスト・参考文献等

追って指示する。

成績評価方法

出席状況、レポート、取り組み姿勢、実習報告の準備と結果等を総合的に判断し最終評価を行う。

その他

1年次での実習経験という成果と反省点を生かし、今期の実習につなげられるように積極的に取り組むこと。また、本実習は学外での学習活動であることを強く意識し、福祉専門職としての自覚と責任、人権意識と職業倫理に留意し参加することを求めます。

講義科目 : 社会福祉運営管理論	単位数 : 2
マークシート略 :〔運営管理〕	学習形態:自由選択科目
担当 : 三浦 敏朗	* 第2学年で履修

講義のねらい

- ① 社会福祉施設等の現状と課題を、元施設長の立場から整理しながら、利用者主体の運営管理や支援のあり方を考えます。
運営管理論を通して広い視野を持ってもらえる授業を心掛けます。

授業計画予定表

以下の予定で進めていきますが、進み具合によって変更することがあります。

- 第 1 回 施設長・理事の一年（多様な業務を把握する）
- 第 2 回 福祉サービス提供組織の沿革と概況
- 第 3 回 福祉サービス提供組織の役割
- 第 4 回 福祉サービス提供組織の体系と制度
- 第 5 回 福祉サービス提供組織と地域社会
- 第 6 回 福祉サービスの組織と経営に係る基礎理論
- 第 7 回 福祉サービスの組織と経営に係る基礎理論 2
- 第 8 回 福祉サービスの業務運営と経営
- 第 9 回 福祉サービス提供組織の財務・会計管理
- 第 10 回 福祉サービス提供組織の人事労務管理
- 第 11 回 福祉サービス提供組織の建物と設備
- 第 12 回 福祉サービス組織の管理運営の方法と実際
- 第 13 回 利用者のニーズとサービスマネジメント
- 第 14 回 福祉サービス組織の危機管理
- 第 15 回 これからの福祉サービス提供組織の経営と運営の戦略
総まとめ

教材・テキスト・参考文献等

教科書は使用しませんが、下記①をガイドにして進めます。②③は手軽なので参考文献として紹介します。

- ①久門道利・西岡修編 社会福祉士シリーズ 福祉サービスの組織と経営 弘文堂
- ②中野明 ドラッカーのマネジメント思考 朝日新聞出版
- ③岩崎夏海 もしドラ「もし高校野球の女子マネが…」ダイヤモンド社

成績評価方法

- ①毎回出席を取ります。
- ②レポート提出 10点 3回 30点
小テスト 10点 2回 20点
授業への参加態度 20点
出席率 1回 2点 30点

その他(学生へのメッセージ)

福祉は人と人の関わりで成り立つものです。この授業を通して、単なる社会福祉運営管理の知識を学ぶだけでなく、これからの社会生活に生かすことのできる、諸活動に対しての捉え方や人への関わり方を深めてもらえるよう、また、福祉と政治・経済との関係が理解してもらえるよう努めたいと考えています。

講義科目	: 権利擁護と成年後見制度論	単位数	: 2
マークシート略	: [権利擁護]	学習形態	: 自由選択科目
担当	: 水谷 久		社会福祉士必修科目
		* 第1学年で履修	

講義のねらい

権利擁護の理念と実際の支援のあり方について、障がい者等の権利侵害に関する事件や実情を説明し、障がい者虐待防止法及び成年後見制度に焦点をあて、人権を守るために支援者としての役割や課題について社会福祉の視点から学習します。

また、ソーシャルワークにおける権利擁護と成年後見の制度と実践、日常生活上において支援が必要な方に対する権利擁護のシステムについて理解を深めます。

授業計画

- 第1回 障がい者の実態と生活課題 (障がい者のおかれている状況)
- 第2回 障がい者の人権侵害事件 (障がい者の人権擁護について)
- 第3回 障がい者虐待事例 (演習)
- 第4回 障がい者虐待防止法 (定義と概要について)
- 第5回 障がい者虐待防止法 (虐待のメカニズムと未然防止について)
- 第6回 障がい者差別解消法 (差別の禁止と合理的配慮について)
- 第7回 人権思想の浸透と社会福祉の沿革 (障がい者の人権について)
- 第8回 地域で被害に遭う障がい者 (被害に遭わないために)
- 第9回 日常生活自立支援事業の内容 (サービス利用と金銭管理について)
- 第10回 成年後見制度とは (判断能力が不十分な方の権利と財産を守る制度)
- 第11回 権利擁護と成年後見制度 (代理権等法定後見の仕組みについて)
- 第12回 親のための成年後見 (成年後見ハンドブックより)
- 第13回 親亡き後の生活を考える (自分らしく生きるために)
- 第14回 成年後見制度の課題 (成年後見の現状と課題について)
- 第15回 成年後見制度のまとめ (重要ポイント)

教材・テキスト・参考文献等

- ・講義については、それぞれの單元ごとに必要なプリントを作成し、授業を進めていく予定です。
- ・国家試験対策として、社会福祉士養成講座第19巻「権利擁護と成年後見制度」(中央法規出版)を紹介しておきます。

成績評価方法

- ・この科目の評価は ①授業態度・出欠状況 ②筆記試験又は課題レポートにより総合評価を行う。
- ・5回以上欠席した場合は、評価の対象外とします。

その他

- ・授業の状況により、内容を変更することもあります。